岡山市埋蔵文化センター年報３

2002（平成14）年度

２００４年３月

岡山市教育委員会

はじめに

岡山市は備前岡山と言われました、岡山城の城下町を礎にしていますが、今日では広域合併の結果、備前国南西部から備中国の南東部にまで市域が広がり、古代に栄えた吉備国の中枢部の大半が市域に含まれるようになっています。このため、遺跡の分布状態は極めて濃密であり、その内容も全国有数のものであると言えます。

岡山市埋蔵文化財センターは、当市の埋蔵文化財に関する拠点施設となるべく平成12年度に開設され、早くも4年が経過しました。私どもも埋蔵文化財の保護・保存に努めているところでありますが、この間、多くの方々の多大な協力をいただきましたことを感謝いたします。

当センターでは、発掘調査や出土物の整理・収蔵をはじめ、その成果を公開・展示し、ホームページを設置するなど、埋蔵文化財に対する愛護意識の普及を図るべく取り組んでおります。また、史跡岡山城跡や史跡賞田廃寺などでは、歴史的環境整備も着実に前進しております。今後も埋蔵文化財の保護・保存をはじめ、その活用にも重点を置きよりいっそうの努力を続けてまいります。

岡山市埋蔵文化財センター年報の第3号でご報告させて頂く内容が、発掘調査の現地作業に追われて、必ずしも記録保存の完遂の図れていない現状で、その概要をお示しすることにより、責務の一端を果たすことができますならば、労苦が報われた感にあります。

平成16年3月31日

岡山市教育委員会生涯学習部
文化財課長　　出　宮　徳　尚

例　　言

1　本書は、岡山市教育委員会文化財課・岡山市埋蔵文化財センターが2002（平成14）年度に実施した埋蔵文化財保護行政の概要報告である。

2　「Ⅱ　発掘調査の概要」の執筆については各調査担当者が分担し「Ⅵ　資料紹介と研究ノート」については、執筆者名を明記している。なお、本書の編集は、高橋伸二が行った。

3　「Ⅱ　発掘調査等の概要」は整理途中のものもあり、正式な報告書刊行の時点で訂正される場合がありますので、ご了承ください。

4　遺物の整理や実測、図の作成にあたっては、多くの方々のご協力を得ております。氏名は省略させていただきますが、関係されました方々には感謝いたします。

目　　次

Ⅰ　埋蔵文化財センターの組織と事業の概要 …… 1
Ⅱ　発掘調査等の概要 …… 9
Ⅲ　埋蔵文化財保護に関わる協議と調整 …… 44
Ⅳ　資料紹介と研究ノート …… 53

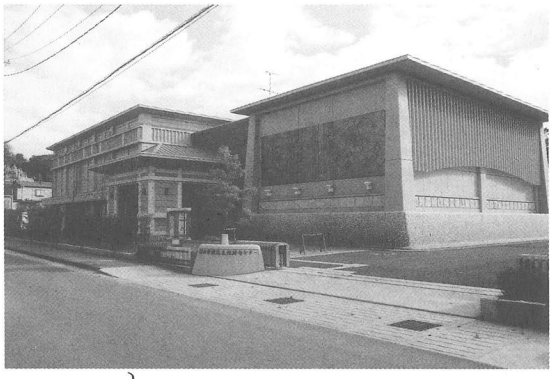
Ⅰ　埋蔵文化財センターの組織と事業の概要

1　センターの概要

設置の趣旨

岡山市内は、さまざまな種類の遺跡が数多く所在しており、全国的に見ても貴重な遺跡が豊富な地域である。また、一方で、各種開発事業も多く、それらとの調整を図りながら埋蔵文化財の保護と保存を行ってきた。その結果、膨大な量の出土物や記録の収蔵とともにそれらの活用を行うことが重要な責務となった。

岡山市埋蔵文化財センターは当市の埋蔵文化財に関する拠点施設として、発掘調査や出土物の整理・保存・収蔵、それらの展示・公開・情報発信などを行い、埋蔵文化財の保護や保存、また埋蔵文化財に対する愛護意識の普及を図ることを目的として設置された。



設立年月日

平成12年４月１日

所在地

〒703－8284　岡山市網浜834－1

施設概要

敷地面積　2442.85㎡
建築面積　845.09㎡
延床面積　1895.79㎡

鉄筋コンクリート３階建
１階　747.15㎡
２階　736.34㎡
３階　412.30㎡

駐車場　10台

一階	公開スペース	展示室	165㎡	一階	事務スペース	事務室　44㎡
		収蔵展示室	36㎡			会議室　49㎡
		図書コーナー	6㎡			計　93㎡
		計	207㎡	二・三階	研究スペース	研究室・図面整理室　90㎡
	作業スペース	遺物整理室	105㎡			書庫　81㎡
		水洗室	24㎡			写場　27㎡
		鉄器処理室	26㎡			計　198㎡
		木器処理室	21㎡		収蔵スペース	特別収蔵室　29㎡
		仮収蔵室	18㎡			収蔵室（２・３階）　816㎡
		計	194㎡			計　845㎡

2　センターの組織

岡山市教育委員会 ―― 生涯学習部 ―― 文化財課 ―― 岡山市埋蔵文化財センター

文化財課

課　　長　出宮　徳尚
調　整　主　幹　三宅　一正
文化財専門監　　根木　　修
主　　任　福永みどり
文化財保護主事　安川　　満

岡山市埋蔵文化財センター

所　長（文化財専門監事務取扱）　根木　修
主　　査　神谷正義
主　　任　扇崎　由
主　　任　柴田英樹（岡山県から派遣）
文化財保護主事　草原孝典
文化財保護主事　高橋伸二
文化財保護主事　河田健司（岡山県へ派遣）
文化財保護主事　西田和浩
嘱　　託　木村真紀

3　事業の概要

平成14年度月別入館者数

本年度は開所３年目となるが、入館者数は昨年度に比べ大幅に増加した。月平均では73人となるが、今後もよりいっそうの周知を図る必要がある。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（前年比）
34	139	81	64	69	52	38	146	66	73	32	82	877（＋313）

資料の貸出

遺跡名等	資料名	点数	貸出期間	貸出先	事由
吉備津杉尾遺跡	石器	16	14．7．25～14．8．7	岡山県古代吉備文化財センター	最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会
	土器	5			
	羽柴秀吉書簡	1	14．9．5～14.11．2	岡山県立博物館	秋季展「高松城水攻め～天下統一への分岐点～」
天瀬遺跡	器台形土器(竜文)	3	14.10.25～14.11．2	岡山県立博物館	特別展「あめ・つち・ひと―遺物が語る自然とのかかわり―」
上伊福・南方(済生会)遺跡	イノシシ(ブタ)下顎骨	3			
	剣形木製品	1			
	木製弓	1			
	木製堅杵	2			
津島江道遺跡	壺形土器(絵画土器)	1			
吉野口遺跡	打製石斧	1			
津寺(加茂小)遺跡	土馬	2	14.11．1～14.12.23	岡山県立吉備路郷土館	企画展「ウマとヒトの文化」
南方(国体開発)遺跡	土馬	3			
岡山城三之曲輪	型造り玩具	1			
造山２号墳	円筒埴輪	1	15．4．1～16．3．31	岡山県立吉備路郷土館	常時展示

掲載許可等

許可日	遺跡名	資料名	点数	依頼主	掲載誌等
14.4.4	ハガ遺跡	三彩	1	東洋陶磁学会	『東洋陶磁学会会報47号』
14.4.8		木村コレクション手鉢水指	1	㈱淡交社	『新撰日本のやきもの』「備前」
		木村コレクション薄端耳付花生	1		
		木村コレクション緋襷鶴首徳利	1		
14.4.12	備中高松城跡	築堤跡側面	1	㈱集英社	『真説本能寺の変』
	備中高松城水攻め築堤跡		1		
14.4.23	造山古墳	航空写真	1	㈱山川出版	『岡山・倉敷散歩25コース』
14.4.30	造山古墳	航空写真	1	㈱吉川弘文館	『日本の時代史』 2
14.4.30		スタインベルク・ピアノ	5	吉備人出版	『よみがえれ！スタインベルク・ピアノ』
14.5.14	南方（済生会）遺跡	釣針	1	㈱小学館	『考古資料大観　第9巻』
		骨製ヘラ	1		
		簪	1		
		垂飾	1		
		打製石剣	1		
14.7.11		木村コレクション耳付水指	1	コンテンツ㈱	デジタルデータ作成
		木村コレクション烏帽子水指	1		
		木村コレクション火襷茶碗	1		
		木村コレクション大布袋香炉	1		
14.7.14	赤田東遺跡	発掘調査状況	1	㈱ジャパン通信情報センター	『文化財発掘出土情報』
14.7.16	南方（済生会）遺跡	イノシシ下顎骨出土状況	1	㈱碧水社	学習研究社刊『卑弥呼の時代を復元する』
		黒漆塗りジョッキ	1		
		匙とフォーク	1		
		彩紋高杯	1		
14.7.25	南方釜田遺跡	琴	1	平田勉	論文掲載
14.8.31		岡山市埋蔵文化財センター実測風景	3	文化庁	『歴史とふれあい現代に活かすために』
14.9.2	賞田廃寺	塔基壇周辺	1	㈱創作工房ダ・ビンチ	『旭川』
		西門基壇	1		
		第Ⅲ基壇全景	1		
		第Ⅲ基壇礎石	1		
14.9.25	造山古墳	航空写真	1	㈱講談社	『古代出雲』
14.9.30	造山古墳	航空写真	1	㈱リブロ	『ウインターアプローチ（岡山県版）』
14.10.11		近水園	1	㈱ひろしまタウン情報	『さんぽまち』
14.10.29	造山古墳	航空写真	1	㈲ビュー企画	『遺跡めぐりガイド』
15.2.13	百間川沢田遺跡	甕	1	㈱小学館	『考古資料大観　第1巻』
		壷	1		
		壷	1		
	南方遺跡	壷	1		
		壷	1		
15.2.14	上伊福・南方遺跡	剣形木製品	1	㈱小学館	『考古資料大観　第8巻』
		簪	1		
		簪	1		
		簪	1		
		不明木製品	1		
		組合せ鋤（柄）	1		
		ジョッキ形容器	1		
		割竹形容器蓋	1		
		割竹形容器	1		
		短甲（甲札）	1		
		短甲（甲札）	1		
		短甲（甲札）	1		
		不明木製品（飾り板）	1		
		剣把形木製品	1		

許可日	遺　跡　名	資　　料　　名	点数	依　　頼　　主	掲　載　誌　等
15.2.14	上伊福・南方遺跡	陽物形木製品	1	㈱小学館	『考古資料大観　第8巻』
		陽物形木製品	1		
		剣把形木製品	1		
		戈形木製品	1		
		ナスビ形曲がり柄鍬	1		
		竪杵	1		
		竪杵	1		
		太形蛤刃石斧柄	1		
		片刃石斧柄	1		
		鉄斧柄	1		
		匙	1		
		匙	1		
		泥除け	1		
		組合せ鋤	1		
		木製鎌	1		
		鎌柄	1		
		銅剣形木製品	1		
		刀形？木製品	1		
		不明木製品	1		
		盾（石鏃付）	1		
		戈柄	1		
		台付容器	1		
		簪？	1		
		経（布）巻具	1		
		斧柄	1		
		彩紋高坏	1		
		短甲（甲札）	10		
		短甲（甲札）	8		
15.3.6		曹源寺本堂	1	綾部市	『2003綾部市勢要覧』
15.3.18	賞田廃寺	金堂基壇	1	㈱エイブイシー	放送『横丁の歴史散歩』
		金堂礎石と基壇北外装	1		
		西塔基壇	1		

資料調査

氏　名	所　　属	資　　料　　名
橋本久和	高槻市教育委員会	吉野口遺跡　土器
山崎信二	奈良文化財研究所	岡山城ほか　瓦
行田裕美	津山市埋蔵文化財センター	岡山城　瓦
松井一明	袋井市教育委員会	南方遺跡　石器
斎野裕彦	仙台市教育委員会	南方遺跡　石器
上原真人	京都大学	吉備津田淵後遺跡　瓦
中川　寧	島根県埋蔵文化財センター	雄町遺跡　鼓形器台
山口譲治	福岡市埋蔵文化財センター	南方遺跡　木器
中　勇樹	愛媛大学	南方遺跡　石器
徐　賢珠	橿原考古学研究所	三手向原遺跡　土器
小林謙一	奈良文化財研究所	南方遺跡　木器
藤田沙織	岡山大学	赤田東・南方遺跡　紡錘車
西尾克己	島根県埋蔵文化財センター	二日市遺跡　陶磁器
上原真人	京都大学	賞田廃寺　瓦
梶原義視		
金子朋子	九州大学	新道遺跡　四耳壺ほか
亀田修一	岡山理科大学	賞田廃寺　瓦
佐藤寛介	岡山県古代吉備文化財センター	
松尾佳子		
久保朋子	九州大学	賞田廃寺　瓦
池田　晋	岡山大学	南方遺跡　石器
梶原義視	京都大学	賞田・幡多廃寺　瓦
佐藤寛介	岡山県古代吉備文化財センター	南方釜田遺跡　木柄
高橋進一	総社市教育委員会	吉野口遺跡　管玉
堀田秀樹	東京大学埋蔵文化財調査室	岡山城・足守藩侍屋敷 近世・近代資料
熊谷葉月	石川県教育委員会	岡山城　瓦
東中川忠美	佐賀県文化課	二日市遺跡
G.N.Baily	ニューキャッスル大学	南方遺跡　動物骨
松尾洋平	総社市教育委員会	大廻・小廻山城　須恵器

視察

年月日	氏　　名　　等	目　　的
14. 6. 18	井原市教育委員会　4名	行政視察
14. 10. 15	土岐市教育委員会　2名	施設見学
14. 10. 15	井原市教育委員会　8名	行政視察
14. 11. 29	刈谷市教育委員会	施設見学

現地説明会

平成14年度は、下記の遺跡で現地説明会を実施した。いずれも多くの方々の参加を得ることができたことは、市民の埋蔵文化財に対する関心の高さをうかがわせるものであった。今後もできる限り説明会を開催して、多くの方々が地域の歴史にふれることができるよう、発掘調査成果の公開につとめたい。

・赤田東（竜操中）遺跡　　平成14年４月27日　参加者400名
・賞田廃寺　　平成14年９月29日　参加者350名

赤田東遺跡

賞田廃寺

平成14年度埋蔵文化財発掘調査速報展

平成3年度から毎年、文化の日を中心とする文化財保護強調週間（11月１日～７日）にあわせて、発掘調査速報展を実施している。

期間　平成14年10月30日（水）～11月１日（金）
場所　岡山市役所１階市民ホール
内容　賞田廃寺、赤田東（竜操中）遺跡、吉備津杉尾西・奥田遺跡
　　岡山禁酒会館、大賀家住宅

平成14年度埋蔵文化財発掘調査報告会

期間　平成14年11月2日（土）場所　岡山市埋蔵文化財センター
内容　上記速報展で展示した遺跡等のスライド写真による報告と出土物等の解説

報告書等の刊行

『妹尾住田遺跡－古代の公的港湾施設関連遺跡の発掘調査報告－』
『中尾平山遺跡－中尾住宅団地（アビオ中尾台）造成に伴う発掘調査－』
『岡山市埋蔵文化財センター年報２　2001(平成13）年度』

ホームページの公開

・ホームページの公開と更新状況

岡山市埋蔵文化財センターのホームページも開設して2年となる。この間、平成15年3月でアクセスも10，000件を超え、自治体の埋蔵文化財関連サイトとして定着してきた感がある。年間約5，000件のアクセスは、当センターの年間来館者数が800人程度、埋蔵文化財速報展の来場者数が500人程度、発掘調査の現地説明会の参加者数が各50～300人程度ということからみても埋蔵文化財の情報を公開する媒体として重要なものとなっていることがわかる。

さてホームページは13年度末に大幅なデザイン変更、メニューフレームの廃止、ボタン等の画像のテキスト化、「陳列室」の設置などを行ってから、大きく変更していない。また、「発掘調査情報」、「現地説明会資料」、「今月の一品」は毎月更新が定着している。

・ホームページの構成と掲載情報

ホームページはトップページ以下、埋蔵文化財センターの施設や業務などを紹介するページと発掘調査や収蔵品など考古学的情報を紹介するデーターベース的ページの大きく2部構成をとっている。

●センターの案内

「来館案内」　センターの位置や開館情報を掲載。

「施設案内」　センターの建物や施設・設備を紹介。

「展示案内」　センター展示室の様子を紹介。岡山市のネットミュージアム「リットシティミュウジアム」で公開しているセンター展示室の3D映像へのリンクも設けている。
http://www.city.okayama.okayama.jp/museum/maizou/

●センターの仕事

「センターの業務」　センターの業務内容の紹介。

「出版物案内」　センター、岡山市教育委員会文化財課が刊行している、発掘調査報告書等文化財関係の出版物の紹介と案内。

●もっと知りたい

「Q＆Aコーナー」　センターに寄せられた質問等にお答えするページ。

「リンクのコーナー」岡山市の文化財課や文化財関連施設、県内の発掘調査機関等のサイトへのリンク集。

★発掘調査情報

「発掘調査情報」　平成12年度から現在実施中の発掘調査の情報。14年度は以下の4遺跡の調査を速報的に紹介。

- 赤田東(竜操中)遺跡　岡山市赤田
- 賞田廃寺跡　岡山市賞田
- 川入・中撫川(市道2号線)遺跡　岡山市中撫川～川入
- 岡山城三之外曲輪(旧弘西小)跡　岡山市弓之町

「現地説明会資料」これまでに開催をした発掘調査の現地説明会資料をHTML型式で掲載。今年度は以下の10遺跡を掲載した。また、HTML版に加えPDF版も追加した。

- 南方釜田遺跡(1986／08／31)
- 南方(国体開発)遺跡(1993／06／05)
- 南方(済生会)遺跡(1993／09／25)
- 南方(済生会)遺跡(1996／02／18)
- 史跡岡山城跡本丸中の段第2次発掘調査(1994／03／12)
- 史跡岡山城跡本丸中の段第3次発掘調査(1995／02／25)
- 史跡岡山城跡本丸中の段第4次発掘調査(1996／03／16)

・新道(清輝小)遺跡(1998)
・造山第２号古墳(1998／01／11)
・史跡賞田廃寺跡(2002／09／29)

「速報展資料」　岡山市役所１階ホールで開催した、平成14年度埋蔵文化財発掘調査速報展の資料を掲載。

★収蔵品紹介

「今月の一品」　収蔵品の中から毎月１件ずつを選んで紹介。今年度は以下の12件を掲載。

第14回　南方(済生会)遺跡出土の飾り板
第15回　天瀬遺跡出土　竜の描かれた器台
第16回　南方(済生会)遺跡出土　弥生前期の壺形土器
第17回　金蔵山古墳の円筒埴輪
第18回　南方(国体開発)遺跡の生駒西麓産土器
第19回　川入・中撫川遺跡の海獣葡萄鏡
第20回　史跡賞田廃寺跡出土の瓦経
第21回　すくも山遺跡出土　備前焼(骨蔵器)
第22回　南方遺跡出土　石剣
第23回　ハガ遺跡出土　羊形硯
第24回　西祖山方前遺跡出土の鉄滓
第25回　岡山城二の丸跡の唐津焼　筒形碗

★岡山市の主要古墳(試作版)　岡山市域に所在する主要な古墳40基を紹介。

★岡山市の発掘調査(試作版)　岡山市教育委員会が1968年以降実施した発掘調査のリスト。

URL　http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

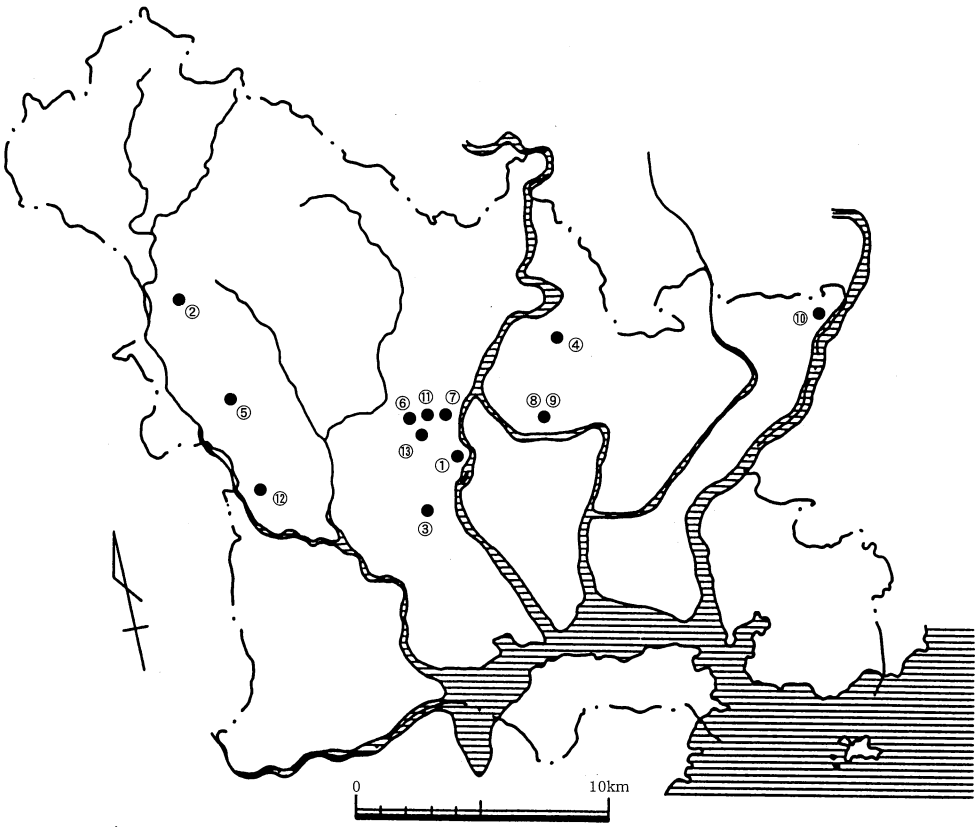
平成13年度から当協議会に入会し、平成14年度総会に出席した。

期日　平成14年５月23日（木）～ 24日（金）

場所　埼玉県さいたま市

Ⅱ　発掘調査等の概要

① 岡山城三之外曲輪(旧弘西小)跡
② 南坂８号墳
③ 鹿田(ＮＴＴドコモ)遺跡
④ 史跡賞田廃寺
⑤ 備中高松城水攻め築堤跡
⑥ 津島遺跡
⑦ 北方横田遺跡
⑧ 高屋遺跡
⑨ 高屋遺跡
⑩ 吉井廃寺跡
⑪ 津島遺跡
⑫ 川入・中撫川(市道２号線)遺跡
⑬ 上伊福遺跡

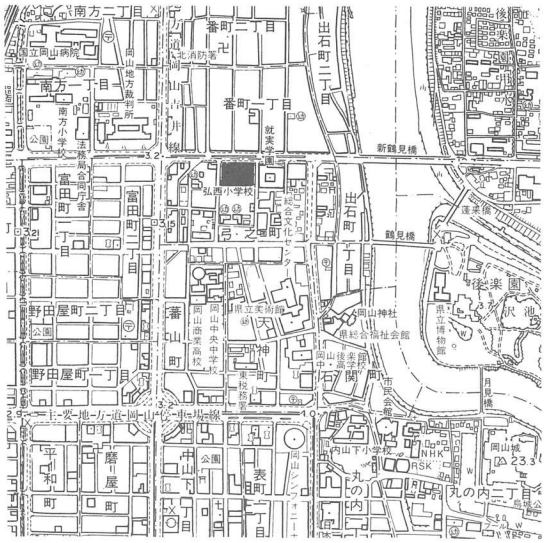


岡山城三之外曲輪（旧弘西小）跡

所 在 地	岡山市弓之町9-27	**調査期間**	031209～040328
調査原因	岡山中央小学校(仮称)新築工事	**調査面積**	4000㎡
時　　代	近世	**担 当 者**	神谷正義・柴田英樹

調査の概要　岡山市教育委員会は、中心市街地学校再編に伴い、旧弘西小学校跡地に岡山中央小学校を建設することとした。しかし、弘西小学校は、岡山城外堀（二十日堀）の埋立地（明治7～8年頃に埋め立てられた）に建てられており、敷地には、堀・土居・屋敷の所在が想定された。そのため、岡山城三之外曲輪の実態及び堀岸の構造と土居の幅及び基礎地形等の把握、また、ひろせ郷の想定域内でもあることから、概期の状況の追求もその目的の一つとして調査をおこなった。

発掘調査は、まず旧校舎の造成土及び基礎残骸を撤去することからはじめた。平成14年11月27日からすきとりを行い、作業員を伴う発掘調査は平成14年12月9日から開始。そして平成15年3月28日に今年度の調査を終了した。



第１図 調査位置図（１／20,000）

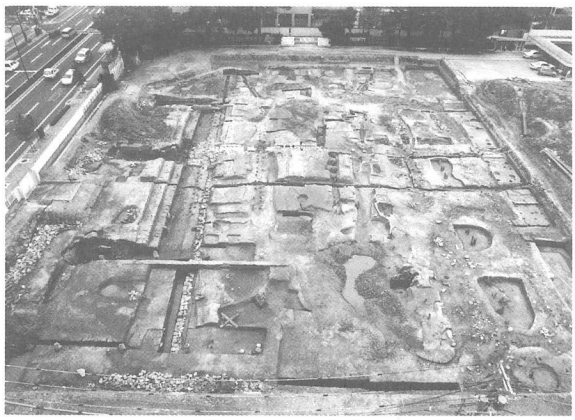
遺跡の概要　調査により明らかになった内容は、現在までのところ、大別して弘西小学校期と江戸時代の二時期ある。弘西小学校は岡山市では初期に設立された小学校で、建物も何回か建て替えられてきている。それらの痕跡がある程度検出された。また、石版・石筆・硯なども出土した。

江戸時代は、屋敷内のゴミ捨て穴や屋敷割を表示する溝、土居に埋設された石組暗渠と樋尻の検出、そして堀護岸の様子などが明らかになった。弘西小学校建物の基礎等によって、江戸期の遺構の大部分は既に損壊していたが、所期の目的は十分果たすことが出来た。

すなわち、外堀の肩線は、絵図と現在地形との比定から想定していた場所で検出され、城内側の堀岸は、杭を打ち石を積み上げ護岸整備をおこなっていることが判明した。堀岸には竹根が繁茂し、また、木の根が所々認められるような環境であることが推測された。

代表的な遺構を述べておこう。

土坑群　土居の脇及び武家屋敷内から大小の土坑が検出されている。陶磁器・備前焼・ナベ類や人形など生活雑品が多数出土しており、ごみ穴であろう。



第２図 調査区全景

第３図 土坑（土居脇）

溝１（石組溝）調査区中央を南北に延びる２段ほどの石組が検出された。屋敷境に対応する場所であり、絵図類に記載されている溝の場所とも一致する。旧弘西小学校建物基礎に寸断されているが、そのまま土居の暗渠に延びる。

溝２（石組溝）　暗渠を境に東側で確認。土居に沿って築かれている石組側溝である。溝１と合流し暗渠に排水される。土居端部の廃水処理用であろうが、西側では素掘りの溝は検出されたものの、石組溝は確認されなかった。

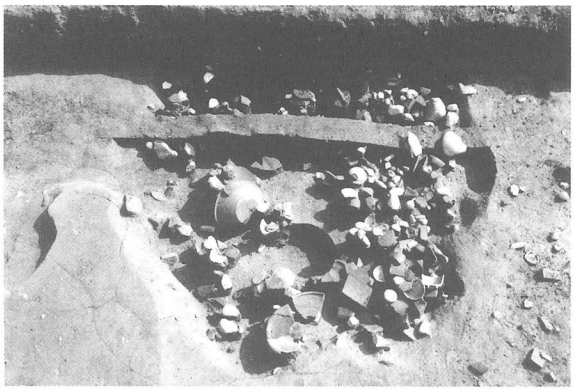
暗渠　溝１の延長上に、敷石と側石で構成された溝が検出された。土居を貫通する暗渠である。検出時はＵ字溝のようであったが、これは明治期に土管が埋設され学校設備に二次利用された姿であり、完全な形状ではない。本来、蓋石が存在していたと思われる。

暗渠造作時の埋土からは瓦質土管片が混在しており、石組暗渠に先行する暗渠施設の存在を予想させた。

樋尻　検出時は、既に樋尻上部の大部分が棄却されており、詳細な具体的構造は明らかでない。石組暗渠開口部の周辺には、基礎地形を含めて、花崗岩の大石、栗石を用い補強している。また、堀側水落ち部分には、花崗岩が水平に敷かれていて、侵食を防いでいる。

まとめ　今年度の調査について概略の紹介をした。出土物の年代観は、堀護岸施設及び土坑群ともほぼ19世紀代を中心とした時期であり、幕末から堀埋立直前の様相を反映している。ちなみに、岡山藩には各年代の城下絵図が残されているが、『備前岡山地理家宅一枚図』（1861（文久元）年）と『御堀浚土居繕御普請出来絵図并品々御入用寄帳』（1830（文政13）年）とが今回調査の該当時期に当たり参考になった。それら絵図のとおりに、堀、土居、屋敷地の区画が検出されたばかりか、絵図に描かれた描写内容を補足するものでもあった。例示すれば、絵図に表現されている樋尻の様子は、もちろん上半部は崩壊した状況であるが、その表現に対応する具体像が初めて提示され理解されることとなった。また、樋尻に連結した暗渠の存在や構造は、絵図からは読みとれず、発掘調査によってその存在が明らかとなったのである。

また17世紀代の出土品も散見されるので、江戸初期の当該期の様相が把握出来るかどうか、あるいは、小早川期の堀掘削の痕跡が確認できるかどうかは、引き続く次年度の調査に期待され、また、文献との詳細な比較等も今後に課題を負うこととなった。

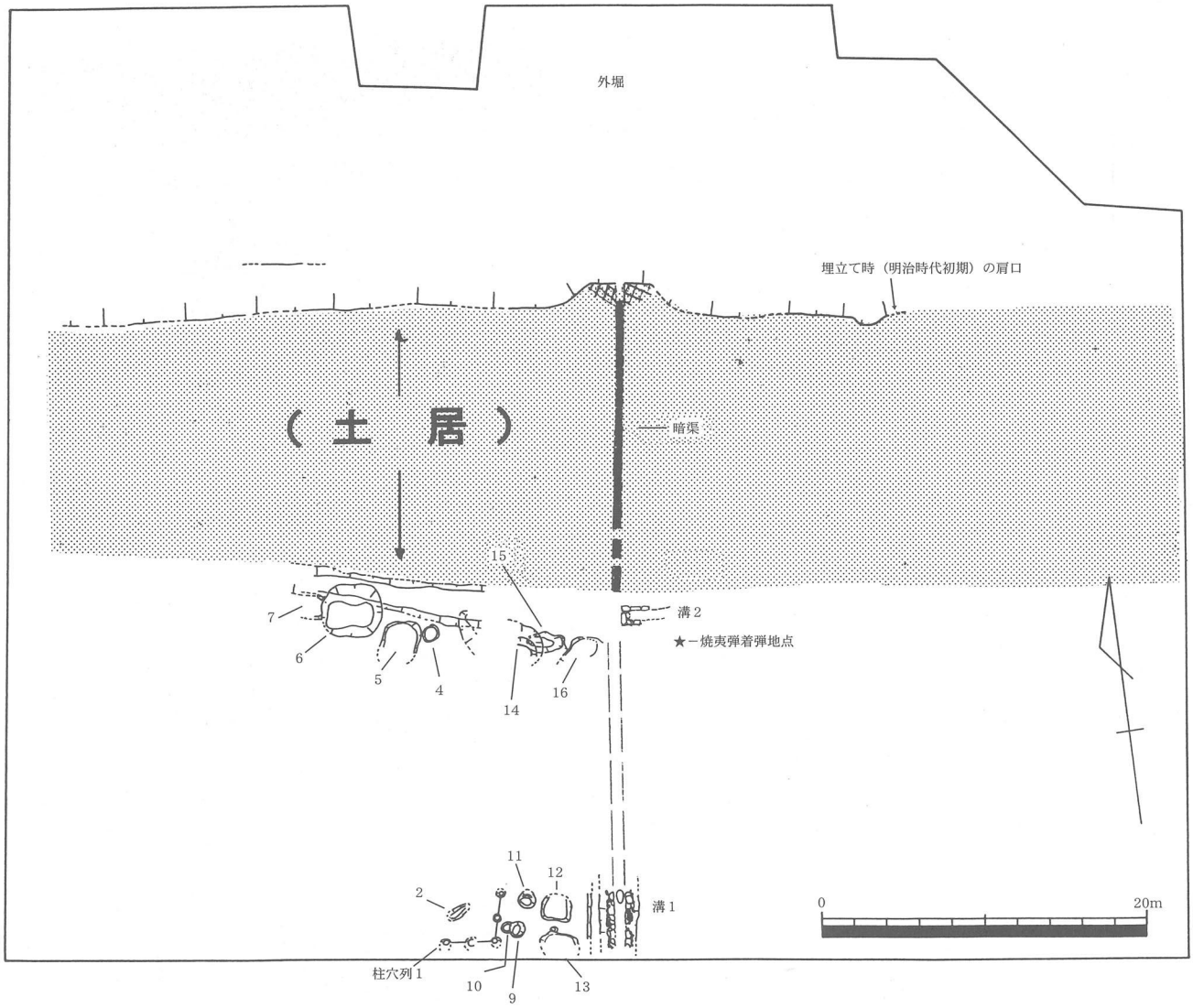


第４図 土坑（屋敷地内）

第５図 溝１と土坑

第６図 樋尻と石組暗渠

第７図 樋尻と堀岸（東から）



第８図 遺構配置図

第９図 調査位置と外堀

1601(慶長 6) 小早川秀秋　外堀（二十日堀）を掘る。
1653(承応 2) 旭川洪水（5月22日）、城内外被害多し。
1654(承応 3) 旭川大洪水（7月19日）、破損の城郭石垣を修理する。
1656(明暦 2) 承応の洪水で埋没した城堀を浚渫する（閏4月）。
1659(万治 2)「備前国岡山城堀浚修復願絵図」(7月29日)
1672(寛文12) 町奉行に命じて城堀の掃除を施行。
1673(寛文13)「備前国岡山城堀浚修復願絵図」(改)。
1673(延宝 1) 備前洪水（5月14日）、城内外の被害甚大。7月18日、再び大洪水、被害甚大。
1679(延宝 7) 備前大風雨（7月10日）
1706(宝永 3)?「岡山城下御堀埋リ之絵図」
1724(享保 9)「岡山城廻堀浚願絵図」
1736(元文 1)「岡山城曲輪破損所絵図」
1737(元文 2)「備前国岡山城石垣修復堀浚願絵図」
1788(天明 8)「備前国岡山城石垣修復并堀浚願絵図」
1816(文化13)「備前国岡山城石垣土居修復并堀浚願絵図」
1818(文政 1)「岡山城堀浚土居繕御普請出来絵図」
（文政1年5月～文政13年3月21日）
1875(明治 8) 外堀埋立。

第１表 外堀関連年譜

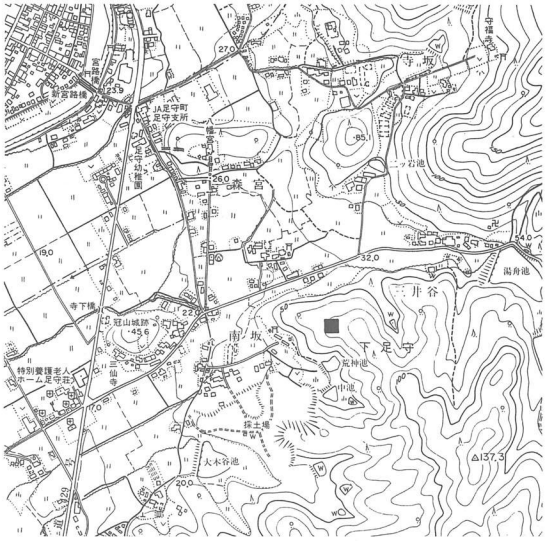
南坂8号墳

所 在 地	岡山市下足守字隠地1012	**調査期間**	020902～020930
調査原因	土砂採取	**調査面積**	200㎡
時　　代	弥生・古墳	**担 当 者**	神谷正義・柴田英樹

調査の概要　南坂８号墳の所在する下足守の丘陵上には、多くの墳丘墓や古墳の分布が認められ、岡山市域でも有数の遺跡集中地域である。

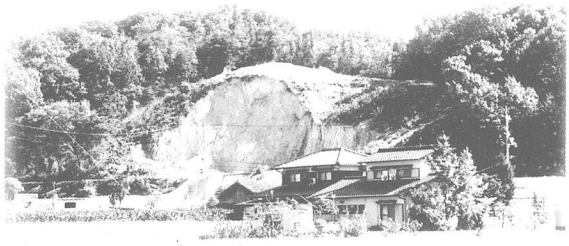
当地での山土採取に先立ち、分布調査とトレンチ調査を実施し、古墳１基と山城の一郭を構成する段とを調査することとなっていたが、山土採取が古墳の際まで及ぶに至り、自然崩壊の恐れが出てきたので、急遽発掘調査を実施することとなった。

当初は辺15mほどの方墳とみなしていたが、調査が進むにつれ前方後方墳の可能性と本格的な石室構造を持つ古墳であることが判明した。また墳丘下からも弥生時代の遺構の存在が明らかになってきたこともあり、今回は緊急的な記録に留め、後日体制を立て直し、本格的な調査を実施することとなった。



第１図 調査位置図（1/20,000）

遺跡の概要　南坂８号墳は、足守平野に面した尾根上に築かれている。古墳時代前半期に造られた全長35mほどの前方後方墳と想定される。しかし、前方部は低平で墳端は明瞭でない。一方、後方部は、現況で墳丘高２ｍ弱を測り、中央部には、人頭大の割石を乱雑に積んだ竪穴式石室（第１主体石室）が構築されている。墳丘の流失を勘案すると、墳丘高３ｍは想定できよう。



第２図 遺跡遠景

石室の上半部分は、石材の再利用による攪乱を受けており、石室内に石材が転落した状況であった。石室の蓋石も確認することができなかった。しかしながら、石室床面までは、後世攪乱の影響は達しておらず、床面に関しては、いわゆる未盗掘状態と判断された。検出時における石室規模は、長3.7m、高さ1.1m。床面には小円礫が敷かれていて、管玉が1点出土した。副葬品が管玉1点のみと少ないのは、古墳築造時の状況を反映しており、当古墳の属性とされる。

古墳時代後期にこの石室は再利用されたようで、南半部に、人一人がかろうじて埋葬できるぐらいの石積石室（第２主体石室）が築かれていた。この石室も一部は後世の攪乱を受け損壊していたが、その内部には、

第３図 石室（第１・２主体）

枕に転用された須恵器杯身と杯蓋が、及び副葬品として鉄鏃が認められた。6世紀末～7世紀初頭の年代。

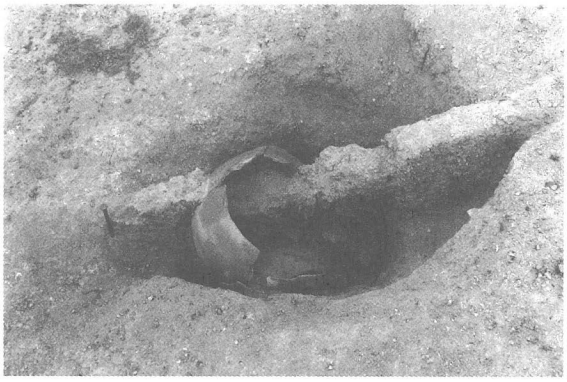
墳丘上には、後方部斜面に土器棺、前方部裾に石蓋土壙などが確認されている。石蓋土壙は、長1.2m、幅0.4mの土壙の上に4石の蓋石が置かれ、須恵器杯身と蓋が副葬されていた。6世紀後半の年代である。

土器棺は、古墳前期前半の壺で、頸部を打ち欠いてあり、高坏を蓋としていたようである。壺は胴部中位に最大径があり約28cmほど。高さは頸部まで約27cmほどである。成形・調整は、内面の胴部下半に指オサエ、上半は横ヘラケズリ、外面はハケ目のちヘラミガキ、特に肩には暗文風のミガキが施され、列点文が押圧されている。古墳築成後に埋葬されたと判断しているが、古墳年代を推定する資料として重要である。

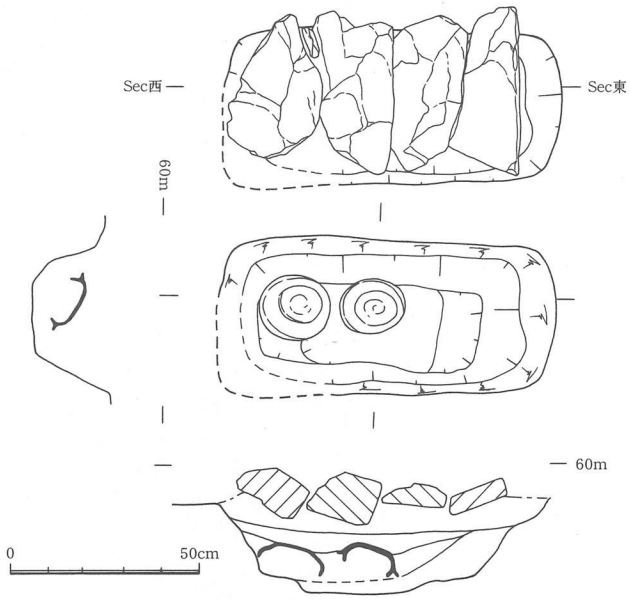
その他、弥生時代後期～末の土器片が、墳丘下ないし斜面から採集される。当該期の遺構の存在が予想される状況である。

まとめ　今回の調査は、山土採取により崩壊の危険がせまったため、全面的な調査に先立って古墳部分の発掘調査が実施されたものである。しかし、石室の解体や墳丘下は未調査である。副葬品、墳丘周辺の遺構、および墳形を含めての詳細な検討を経た全体像の提示は、平成16年度に実施予定の本格的な調査の成果に委ねられることとなった。

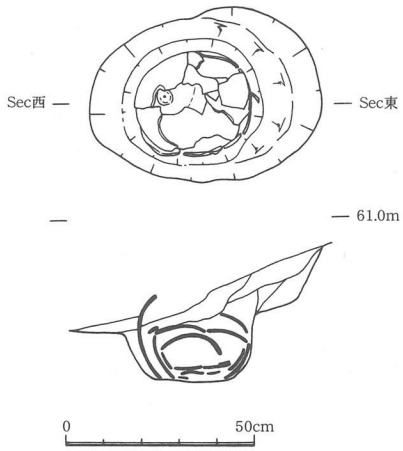
第4図 石室側石の様子



第5図 土器棺

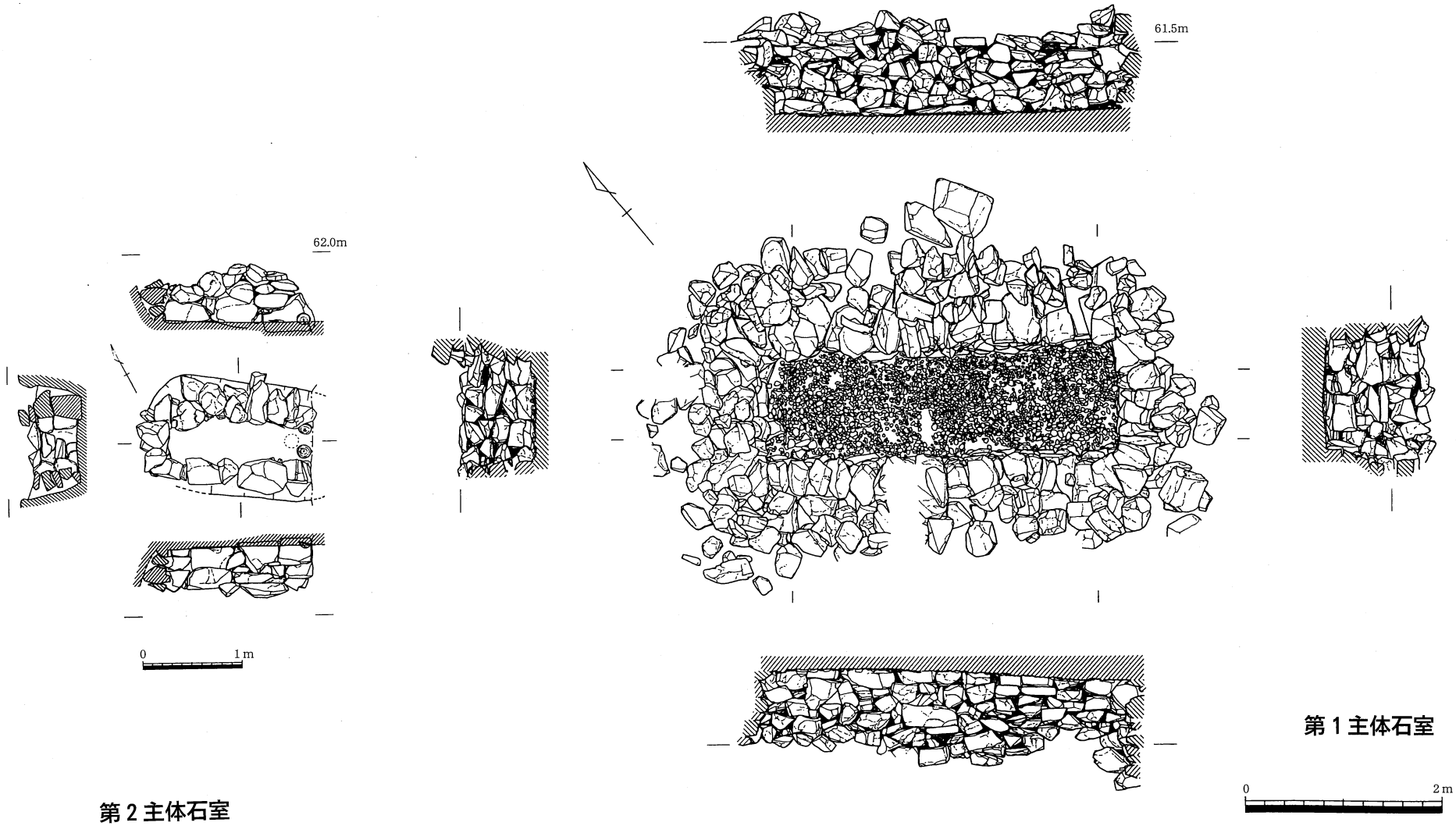


第6図 石蓋土壙　実測図（1／20）



第7図 土器棺実測図（1／20）

南坂８号墳 測量図　S＝１／200



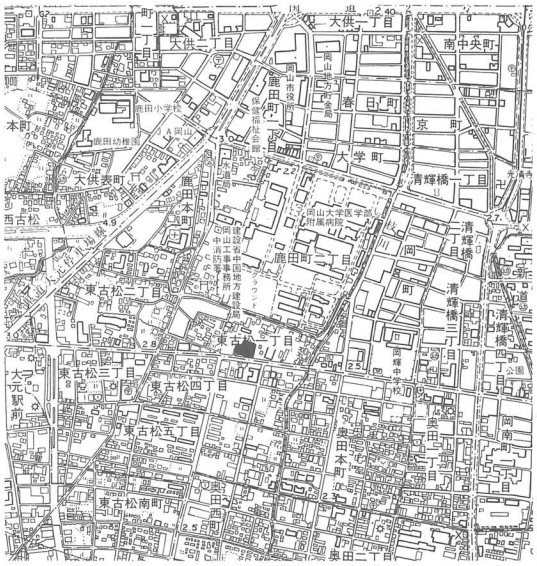
南坂8号墳 第1・2主体石室 実測図 （1／60）

鹿田（NTTドコモ）遺跡

所 在 地	岡山市東古松1-12-25	**調査期間**	020708～020719
調査原因	事務棟新築工事	**調査面積**	97.3㎡
時　　代	中世	**担 当 者**	神谷正義・柴田英樹

調査の概要　鹿田遺跡は、岡山大学医学部構内を中心にその広がりが確認されているが、遺跡の周辺部については充分明らかにされているとは言えない。当該地は鹿田遺跡の周辺地に当たり、NTTドコモが事務棟の建設を計画したことから試掘を実施した。その結果、鹿田遺跡の形成されている微高地の広がりは、当該地にまで延びていることが明らかとなった。しかし、南半は湿潤化傾向が強くなり、居住環境には適さない状況であろうことも判明した。

発掘調査は、土器包蔵層に達する油槽部分に限定されて行われた。既存建物基礎の撤去後、遺構の検出作業を行ったが、僅かな面積にも拘らず、柱穴10、土坑２、井戸１が検出された。



第１図 調査位置図（１／20,000）

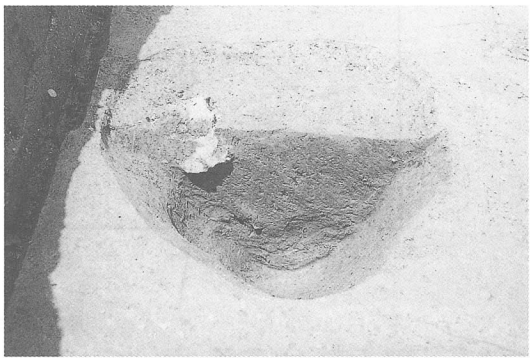
遺跡の概要　柱穴、土坑、井戸等が検出されたが、古代後半や中世土器が出土するなど年代に幅が認められ、遺構としてのまとまりや性格等も判然としない。わずかに、建物の一部と井戸が認識できるだけである。柱穴1・2は柱列を構成し、建物の一部と思われる。柱間の心心距離は2.1ｍほど。柱穴１は方40㎝の隅丸形、検出面からの深さ23㎝。控えに小礫が詰められていた。柱穴２は方30㎝の隅丸形、検出面からの深さは30㎝。両柱穴とも埋土には炭及び土器片が混在していた。Ｐ－6もその一部の可能性がある。Ｐ－6には中世土器堝片が控えとして埋められていた。

第２図 調査区全景

Ｐ－1・土坑1は、破片ながら土師器・須恵器・丹塗り土器が出土し、Ｐ－4・7・土坑2からは中世土器が出土している。

井戸は北西隅で検出され、全周の1/4程の検出と掘り下げに止まっている。埋土の上層には12～13世紀後半代の遺物が混在し、下層には12世紀後半代の遺物が主体となる。

12世紀後半代には役割を終え、13世紀代には完全に放棄され、埋められたものと想定できる。なお、底付近には曲物と木杭が存在していた。



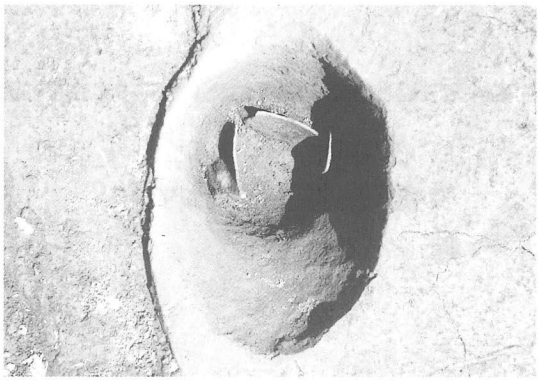
第３図 柱列 柱穴１ 断面

遺構に伴うものではないが、弥生時代前期の壺片、古

代の緑釉碗や須恵器、中世の土師質土器（杯・皿）及び大菱タタキ目の瓦が出土している。瓦には煤が付着していて、一部焼けた痕跡も認められる。

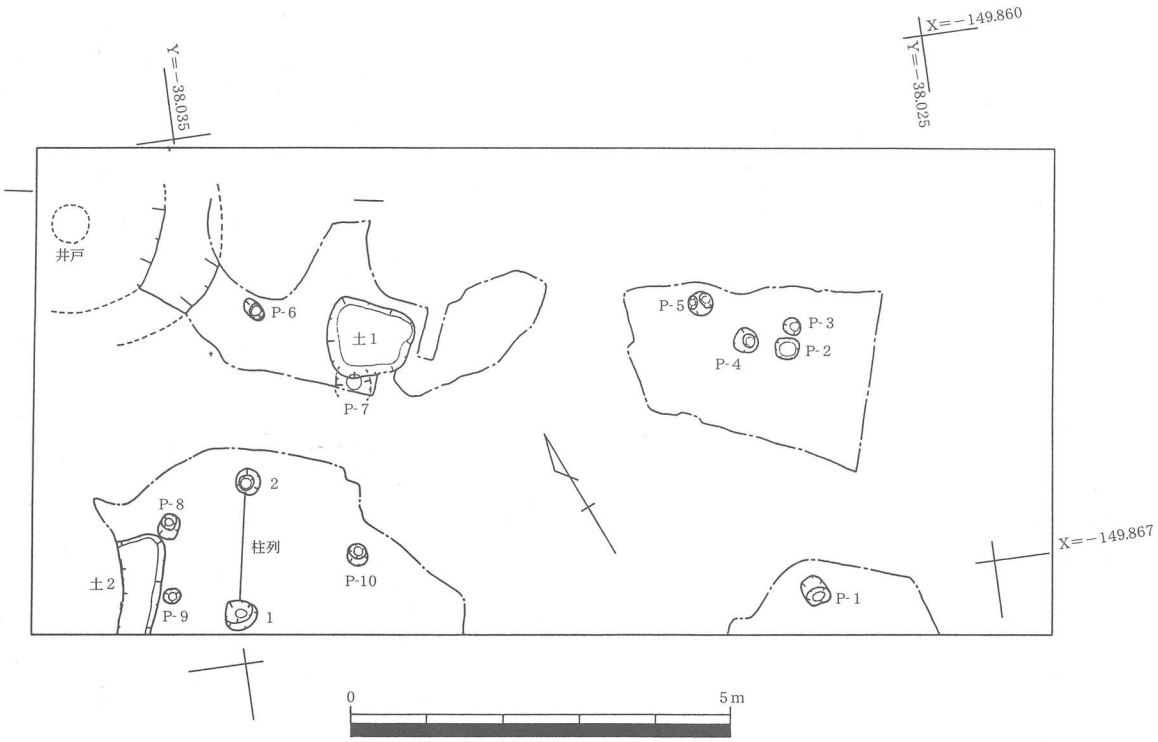
まとめ　今回の調査は油槽部分に限定された狭い発掘調査であったが、２時期の遺構が検出できたことは成果であった。すなわち、岡山大学医学部構内における古代・中世遺跡の展開が、この地にまで広がっていたこと。井戸の所在は、当地が集落の居住空間に近い場所であったと予想される。また、大菱タタキ瓦片の出土は、瓦葺き建物の存在を示すが、本格的な寺院建築を想定しなければ、阿弥陀堂や太子堂的な小堂の存在を視野に入れても良いであろう。中世集落の中に据えられた信仰の対象としての小堂と、建物が集合した景観が想定されるのである。

また、弥生時代前期の壺が出土していることも特筆できる。鹿田遺跡では縄文中期土器片が出土しており、既に居住できる環境にあったと推定されている。しかし、鹿田遺跡として本格的に遺跡の展開が認められるのは、弥生中期である。前期壺片の出土は、遺跡の形成を弥生前期まで遡らせる可能性を示唆している点で重要である。当遺跡は、臨海性であり居住環境としては好条件でなかったかもしれない。しかし、縄文時代からの足跡を経て、鹿田の地に根を下ろした住人の存在が読みとれるのである。



第４図 Ｐ－６

第５図 井戸



第６図 遺構配置図（１／100）

史跡賞田廃寺

所 在 地	岡山市賞田	**調査期間**	020401～030331
調査原因	史跡環境整備	**調査面積**	600㎡
時　　代	古代～中世	**担 当 者**	扇崎　由・高橋伸二

遺跡の概要　賞田廃寺は、戦前から奈良・白鳳期の良好な瓦を出土する古代寺院として知られていたが、宅地開発計画により1970年、緊急調査が実施された。調査の結果、堂・塔の基壇が検出され、特に塔基壇については地方寺院には希な壇上積基壇であることが確認され、翌1971年には国史跡に指定された。

調査は史跡指定地の公有化完了に伴い、史跡整備計画を策定するため、未確定の伽藍配置を明らかにするため、2001年度と2002年度で実施された。

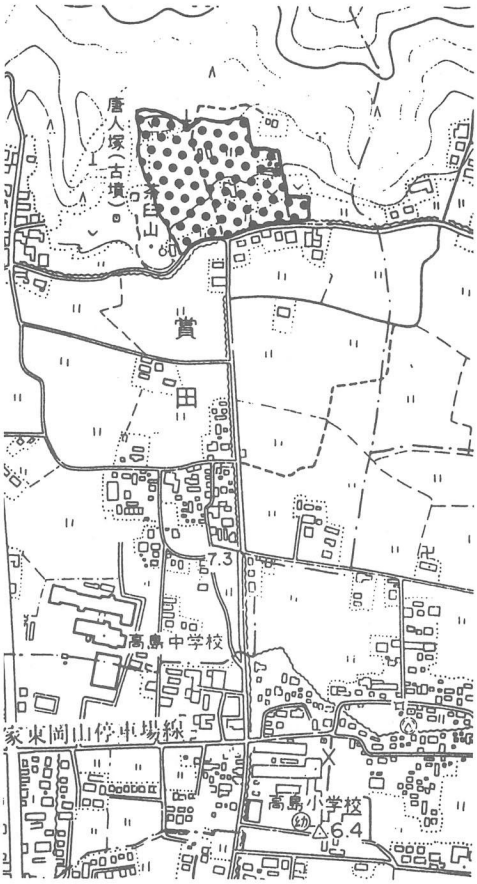
調査の概要　調査は前年度に続き金堂と西塔の基壇の検出とともに回廊の検出を試みた。

金堂基壇の南辺はすでに失われているが、東西両側と北側で基壇の端部を検出した。礎石は１基を残しすべて抜き取られていたが、それらの配列から東西５間南北４間の規模が復元できる。

西塔基壇は一辺約11ｍ四方で、東西両端部で凝灰岩製の基壇外装が検出され、さらにその外側には基壇の外護施設と考えられる一辺約16ｍの自然石を用いた石組みが取り囲む。

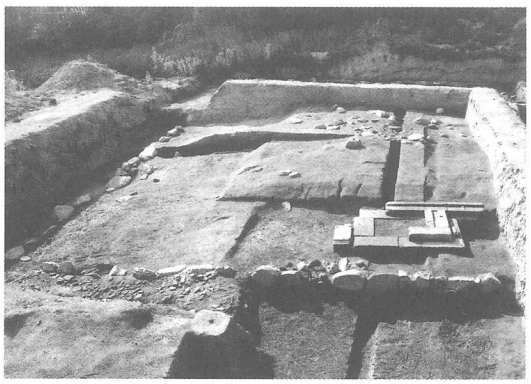
主な出土物は、賞田Ⅰ～Ⅴ期の瓦類のほか風鐸の風招部などがある。

今回の調査では主要堂塔のうち、金堂と西塔の規模を明確にすることができた。しかしながら、伽藍のほぼ全域が中世以降の削平を受けており、その存在が想定されながらも明確にしえない遺構も多い。

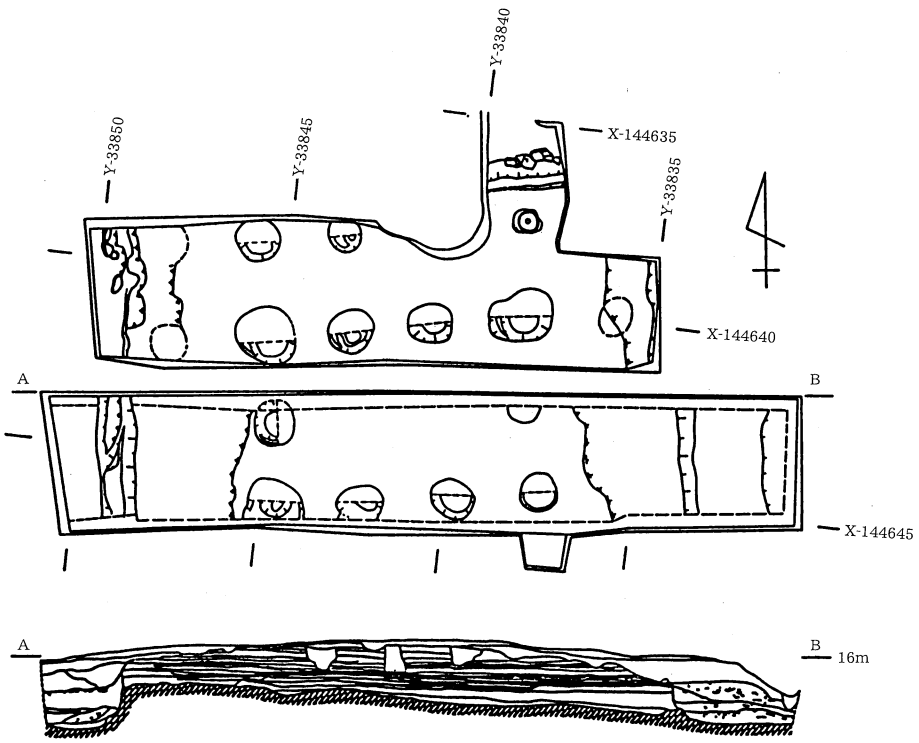


第１図 調査位置図

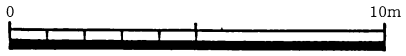
第２図 金堂礎石

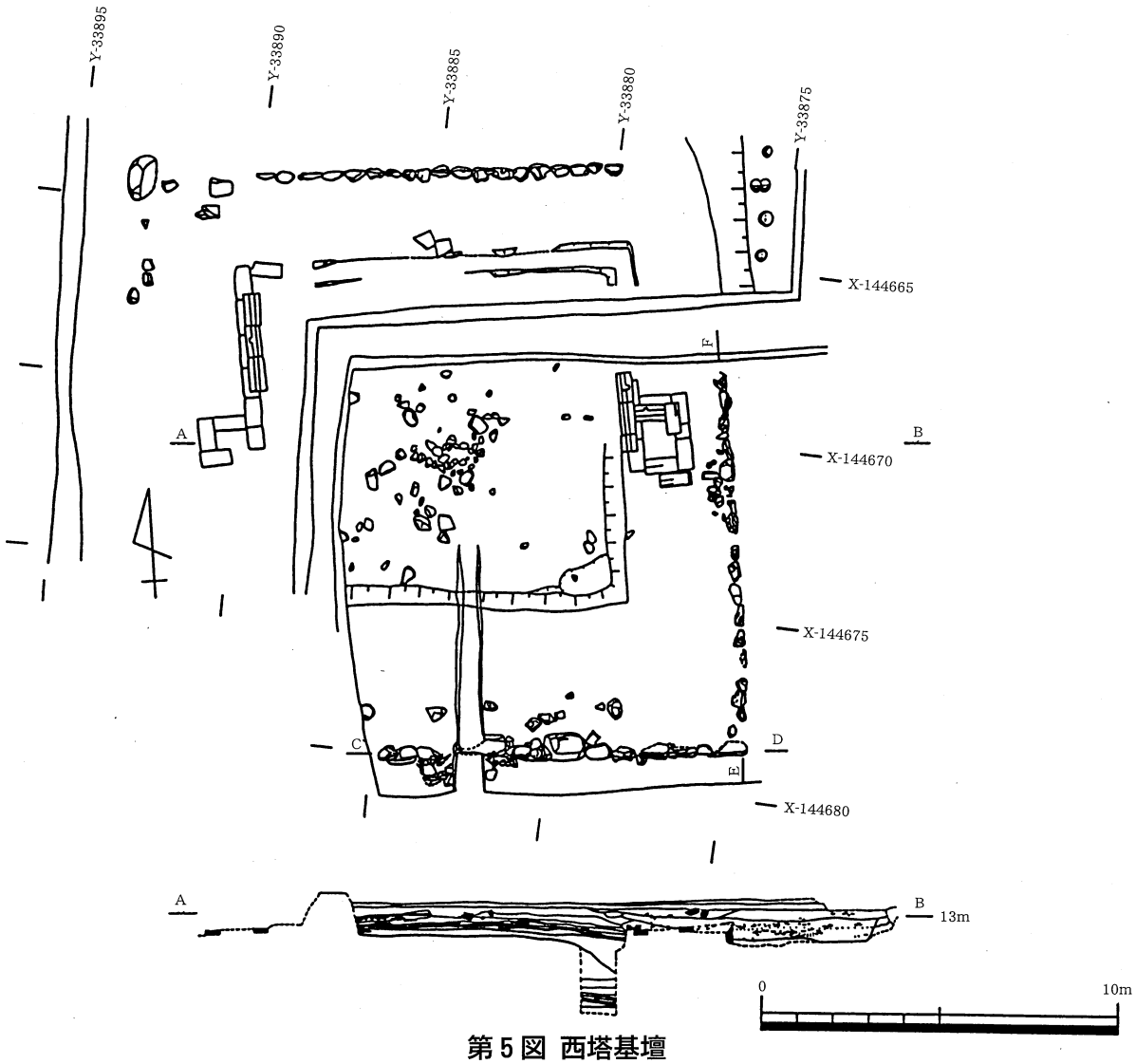


第３図 西塔基壇（東から）



第4図 金堂基壇



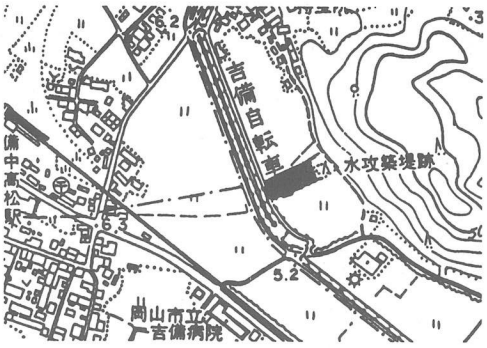


第5図 西塔基壇

備中高松城水攻め築堤跡

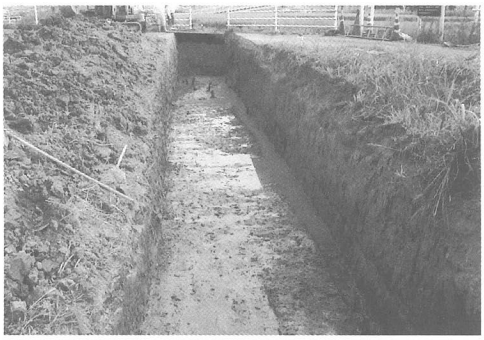
所 在 地	岡山市高松原古才	**調査期間**	021025～021028
調査原因	公園整備	**調査面積**	60㎡
時　　代	戦国時代	**担 当 者**	高橋伸二

遺跡の概要　備中高松城水攻め築堤跡は天正10年（1582）備中高松城攻略のために羽柴秀吉によって築かれたものである。明治時代の鉄道工事によって、盛土の大半が運び去られたと言われており、現状では国指定史跡となっている部分を除いてはわずかに水田区画にその痕跡をとどめるにすぎない。1997年の調査では築堤の基底部が確認され、杭列や俵の痕跡が検出され、2001年の調査では基底部から編物が検出された。

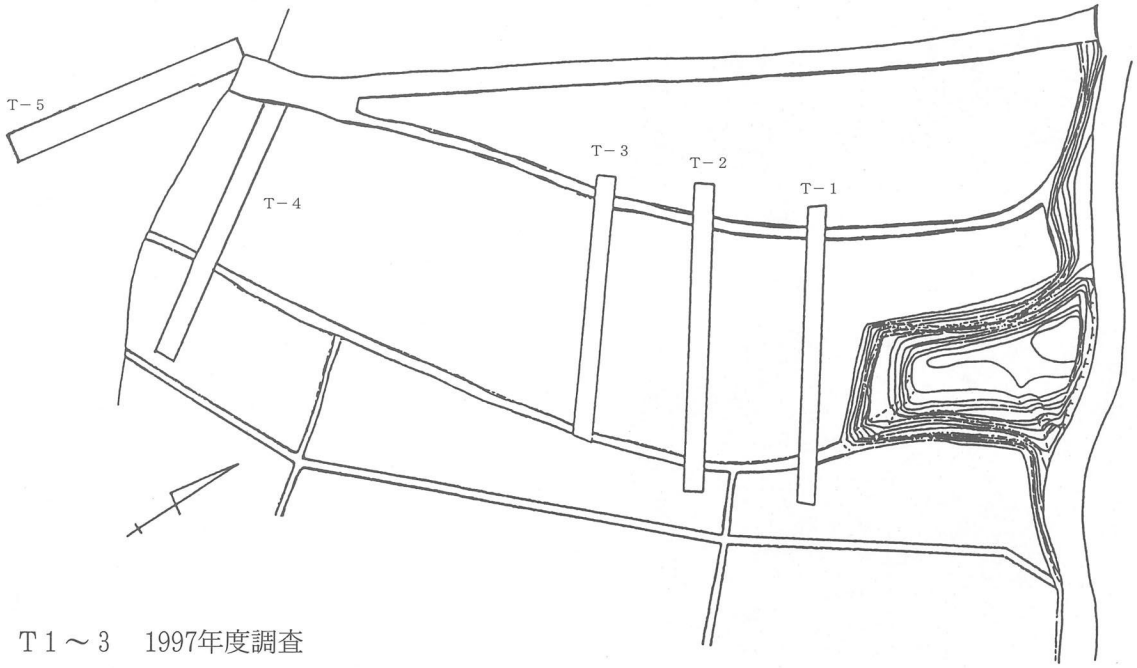


第１図 調査位置図

調査の概要　今回の調査は築堤の公園整備に付随して実施された水路と水門の改修工事に伴うもので、コンクリート製の水路と水門基礎部分を掘削機械によって除去した後、トレンチ調査を実施した。調査の結果、ほぼ全域が過去の工事による破壊を受けており、年代不明の杭列を検出するにとどまった。



第２図



Ｔ１～３　1997年度調査

Ｔ４　　2001年度調査

第３図 トレンチ配置図

0　20m

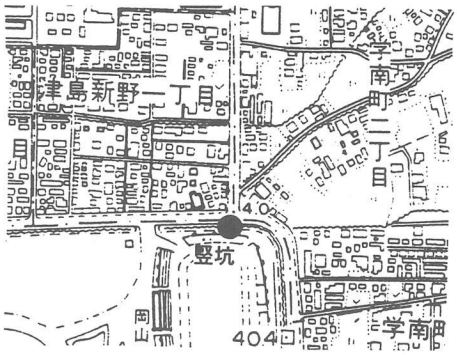
津島遺跡

所 在 地	岡山市いずみ町	**調査期間**	030214
調査原因	下水道管埋設	**調査面積**	8 ㎡
時　　代	弥生時代	**担 当 者**	高橋伸二

遺跡の概要　津島遺跡は弥生時代前期の集落と水田が一体としてとらえられるほか、弥生時代後期に至るまでの生活遺構が連綿と確認されるなど、弥生時代の拠点集落として著名である。

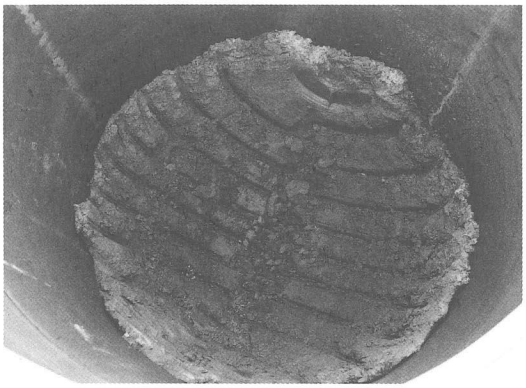
調査の概要　調査は掘削機械によって開削される竪坑部分について実施した。1997年度の隣接地の調査により当該地は河道にあたることが予測されたため、調査は掘削工事に併行して行った。

調査の結果、6層に大別される土層堆積状況を確認し、弥生時代から江戸時代までの遺物9点を採取した。当調査地は97年度の調査地とほぼ同様の状況で、造成土層の下は古代から中・近世にいたる水田層の堆積がみられ、海抜1m付近より下では弥生時代中期から後期の土器片を含む砂礫層で河道堆積であると考えられる。

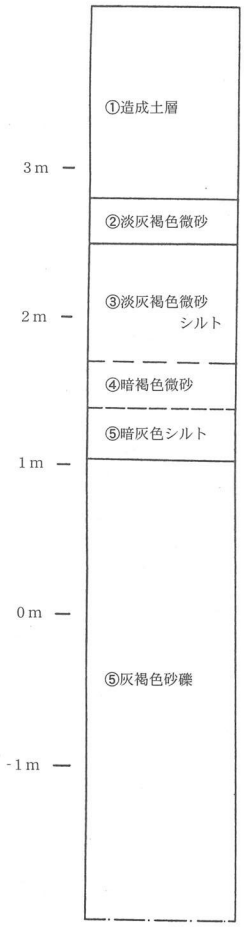


第1図 調査位置図

第2図 調査区（西から）



第3図 掘削状況



第4図 土層柱状図

北方横田遺跡

所 在 地	岡山市学南町二丁目210－１ほか	**調査期間**	020606
調査原因	ガソリンスタンド増設	**調査面積**	25.2㎡
時　　代	弥生時代～中世	**担 当 者**	柴田英樹

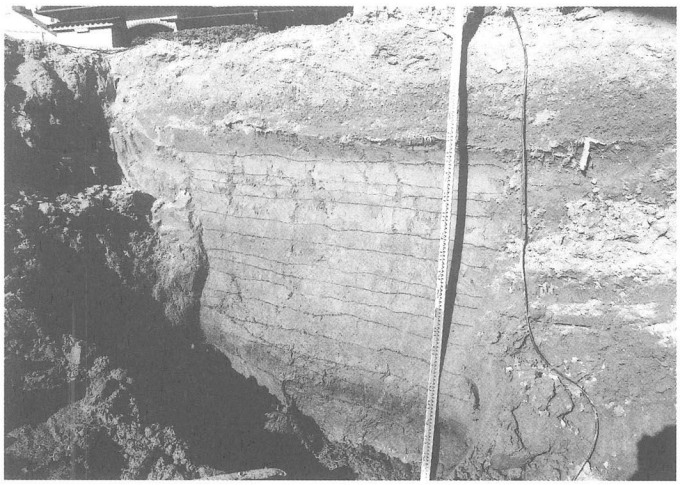
遺跡の概要　当該地は県総合グランドの北東に所在し、都市計画道路万成国富線に接している。1998年７～８月には、ガソリンスタンド建設に伴い試掘等の調査を行ったが（『岡山市埋蔵文化財調査の概要1998（平成10）年度』2000）、今回はその増築に伴い地下タンク部分の発掘調査を実施した。

なお、都市計画道路建設に伴って県教育委員会が実施した発掘調査では、一部微高地と弥生時代前期の水田をはじめとして古代の大溝などが検出されている（『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告126』1998）。

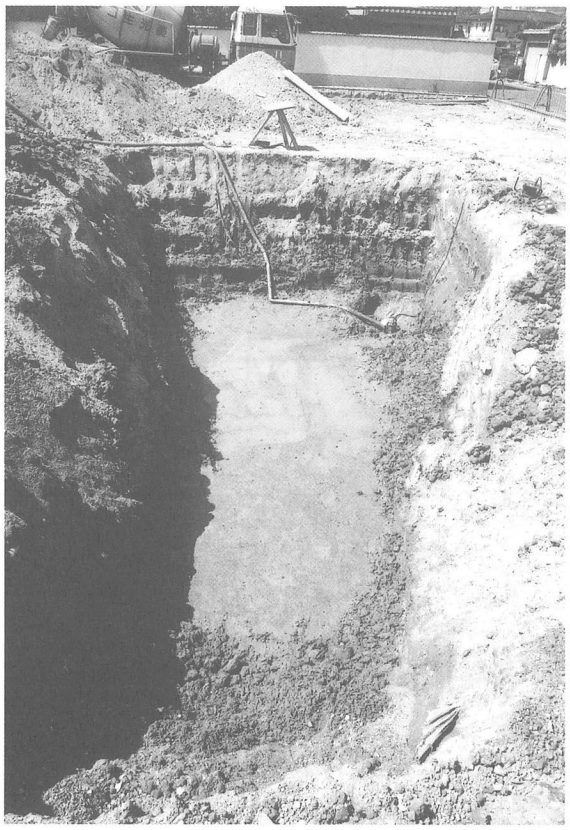
第１図 調査位置図

調査の概要　今回の調査では、弥生時代の水田が確認された。調査地点は古代～中世の大溝からは外れていると考えられるが、同時代のその他の遺構も確認されなかった。

－150㎝（仮）付近からは厚さ10㎝程度の砂層（第12層）が確認され、これを除去する過程で水田畦畔が確認できた。田面は北側に向かって徐々に高くなっており、ほぼ東西南北に設けられた畦畔が三叉に交わる部分を検出した。畦畔の高さは４㎝、下幅は約20㎝で、交差部分はやや広くなる。調査面積が狭小なため田面の形は確認できないが、東西に長くなると思われる。また南側の田面では、足跡と思われる長さ21.5㎝、最



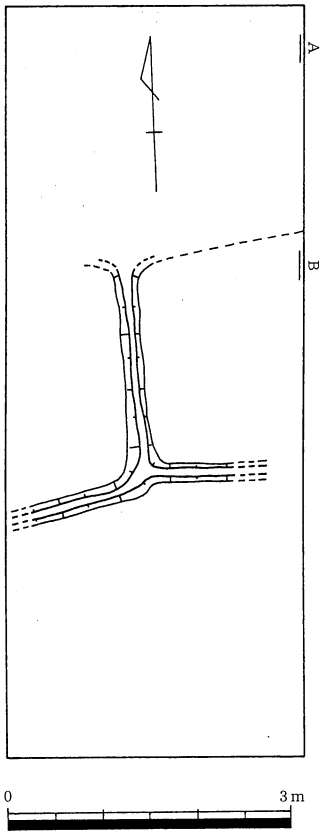
第２図 調査区東壁断面（北西から）



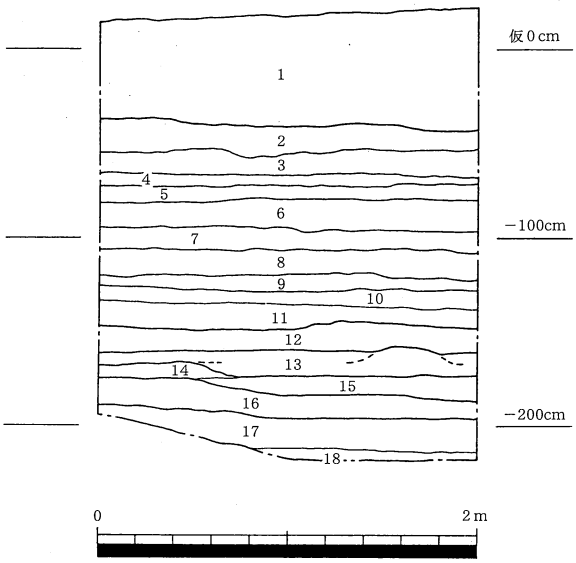
第３図 水田検出状況（南から）

大幅9.5cmを測る不整楕円形を呈する砂で埋没したくぼみがいくつか認められた。－180cm（仮）前後で検出される第16層は弥生時代前期の水田とされる層であるが、畦畔は確認できなかった。いずれの水田も時期を示すような遺物の出土は無かった。

今回、畦畔を検出した水田の高さは－160cm（仮）前後である。造成土直下の耕作地が標高約360cm程度と考えられることから、標高約240cmでの水田検出と推定される。この数値と前期水田よりも新しいこと、洪水砂で埋没していることなどから、大きくとらえると当水田は弥生時代中期～後期として県が報告している北方下沼・北方横田遺跡の「水田10～14」等に対応する可能性がある。



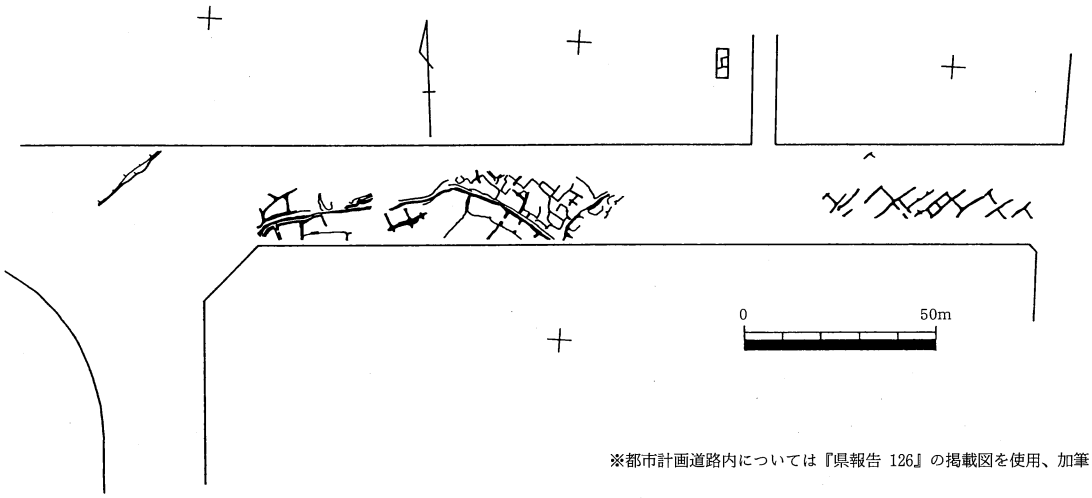
第４図 水田平面図（１／80）



※レベルは年計画道路の歩道上を基準にした。

1 〈造成土〉
2 暗緑灰色粘質微砂〈旧耕作土〉
3 淡黄灰色粘質微砂（一部鉄分沈着層、下面鉄分沈着）
4 灰色粘質微砂（マンガン粒含む）
5 黄灰色粘質微砂（鉄分沈着）
6 暗灰色粘質土（土器片含む）
7 暗灰褐色粘質微砂
8 灰褐色粘質微砂（マンガン粒含む）
9 灰黄褐色粘質微砂（マンガン粒・鉄分含む）
10 暗灰色粘質微砂（マンガン含む）
11 黄褐色粘質微砂（マンガン含む）
12 灰褐色細砂～粗砂〈洪水砂〉
13 暗褐色粘質微砂〈水田層〉（細砂、マンガン粒含む）
14 灰黄褐色粘質土（鉄分含む）
15 暗灰黄褐色粘質土（鉄分含む）
16 黒色粘質土〈弥生前期水田層〉
17 暗灰色粘質土（鉄分含む）
18 淡黄褐色粘質土

第５図 調査区東壁断面図（１／40）



※都市計画道路内については『県報告 126』の掲載図を使用、加筆した。

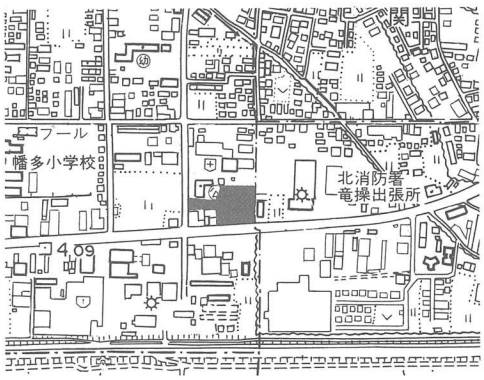
第６図 弥生時代中～後期水田平面図（１／2,000）

高屋遺跡

所在地	岡山市高屋字丸田345-1	**調査期間**	20020917～20020924
調査原因	ガソリンスタンド建設	**調査面積**	約100㎡
時　代	弥生時代後期～古墳	**担当者**	安川　満

遺跡の概要　調査地点は旭川東岸平野のほぼ中央部にあたり、周辺では南東隣の店舗建築に伴う浄化槽部分の発掘調査で、百間川遺跡群などで確認されている弥生時代末～古墳時代初頭の水田遺構が広がっていることが確認されている。

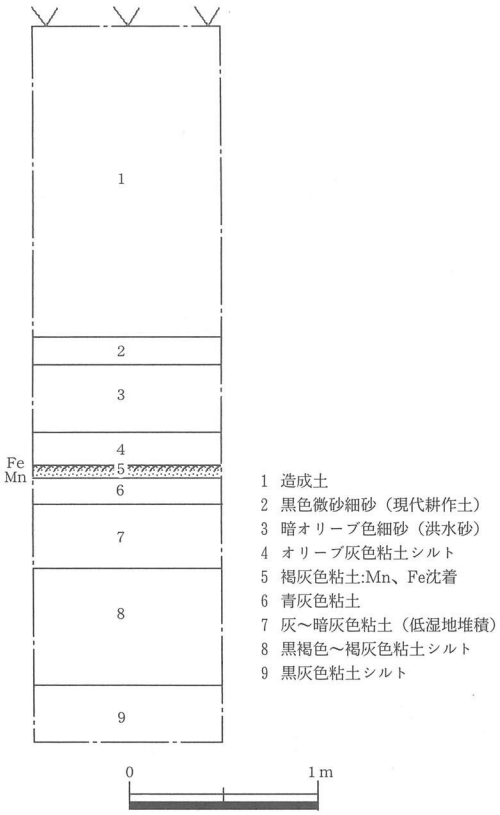
当該事業では大部分が地下タンク部分にあたり、設計変更による遺跡の保存が困難であることから、試掘確認調査を実施することなく、地下タンク部分は発掘調査、浄化槽・整備工場地下ピット部分は立会調査を実施することで合意した。



第1図 調査位置図

調査の概要　発掘調査は地下タンク部分約100㎡を対象として実施した。東側部分での土層堆積状況は、現地表下1.65ｍほどまで現代の造成土であり、その下層は15cmほどの厚さで砂質の強い旧耕作土、ごく最近の洪水砂層が厚く35cmほど堆積していた。地表下2.15～2.55ｍ付近までは粘土質の強い中世～近世とみられる水田層であったが、より下層は地表下3.8ｍまで掘削したが、未分解の植物質を含む灰～黒灰色粘土シルトが続く状態であり、南東隣地で確認している水田遺構や微高地基盤等を確認できなかった。そのため地下タンクの掘削にあわせて立会調査を実施することとしたが、同様の低湿地堆積物が続いており、掘削部分中には埋蔵文化財包蔵層を確認することができなかった。

なお、急遽立会調査に切り替えたこともあり、海抜高度等の計測は行っていない。調査地点の標高は4.0～4.5ｍ程度である。また、地下ピット部分は掘削深度が浅く、旧耕作土下の洪水砂中付近までしか到達していなかった。



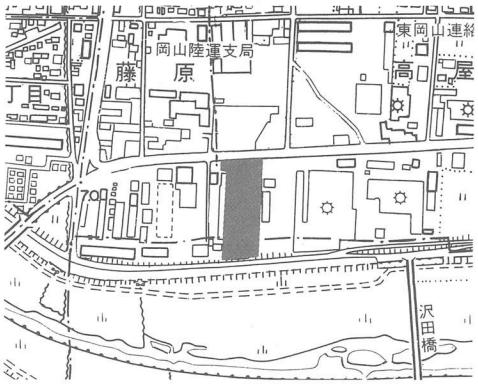
第2図 土層柱状図

まとめ　以上の状況から調査地点は河道や微高地間の低地、後背湿地とみられ、埋蔵文化財の範囲内ではないと判断される。

高屋遺跡

所在地	岡山市高屋字庄田42-1ほか	**調査期間**	20020924
調査原因	店舗建設（浄化槽）	**調査面積**	約96㎡
時　代	弥生時代後期～古墳	**担当者**	安川　満

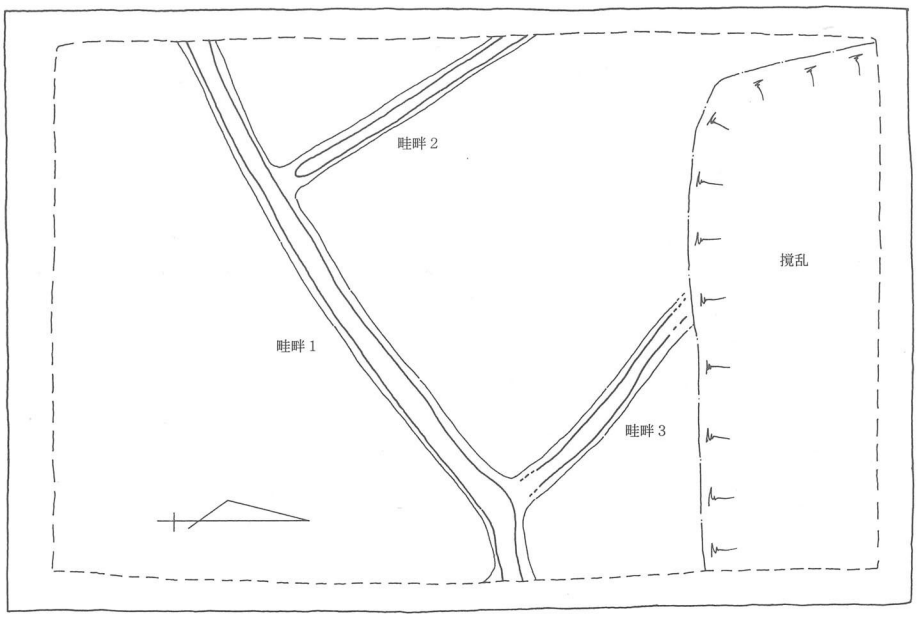
遺跡の概要　調査地点は百間川沢田遺跡等の北側にあたり、周辺は広い範囲で弥生時代末～古墳時代初頭の洪水砂に埋没した水田が確認されている。当該地においても、平成14年２月28日に実施した試掘調査で同様の状況を確認し、掘削が埋蔵文化財包蔵層に達する浄化槽部分（約96㎡）について発掘調査を実施した。

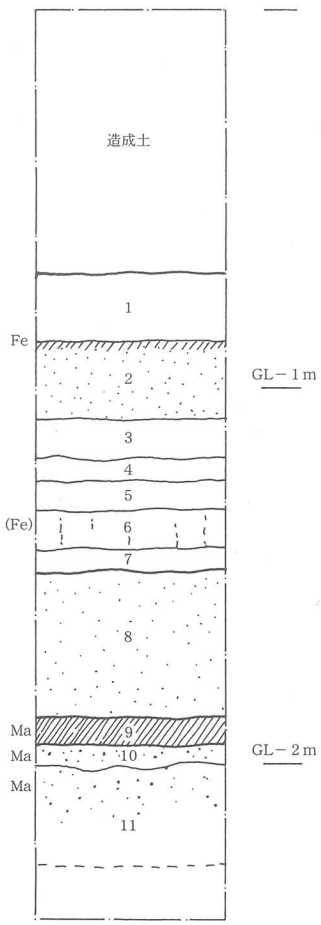


第１図 調査位置図

調査の概要　調査では、地表下約1.9ｍの高さ（柱状図10層）から、水田層および水田畦畔を検出した。畦畔は南西から北東方向に１とそこから分岐する畦畔２を検出した。調査範囲が限られるため、水田１面の広さ等は不明だが、百間川遺跡群等で検出されているものと同じ構造と判断できる。

なお、海抜高度等の計測は行っていないが、調査地点の標高はおよそ4.5～5.0ｍ程度である。





土層注記

1　黒色微砂（現代耕土）
2　オリーブ灰色細砂（洪水砂）
3　オリーブ灰色微砂
4　オリーブ灰色粘土シルト
5　灰白色シルト
6　灰色粘土シルト
7　暗灰色粘土（古墳～古代・水田）
8　黄褐色細砂（古墳・洪水砂）
9　暗灰色粘土シルト（弥生～古墳・水田）
10　（明るい）褐灰色シルト粘土（弥生・洪水砂？）
11　暗灰色粘土

（中世水田）

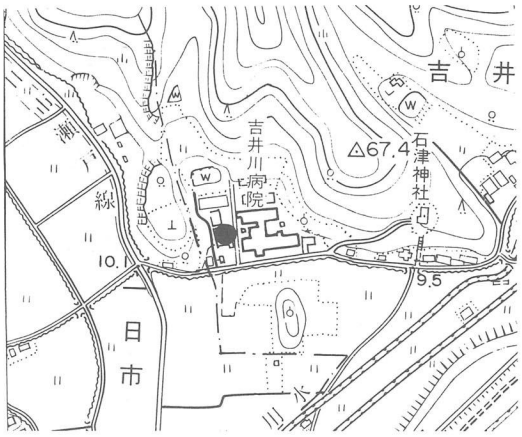
第２図 調査区平面及び土層柱状図

吉井廃寺跡

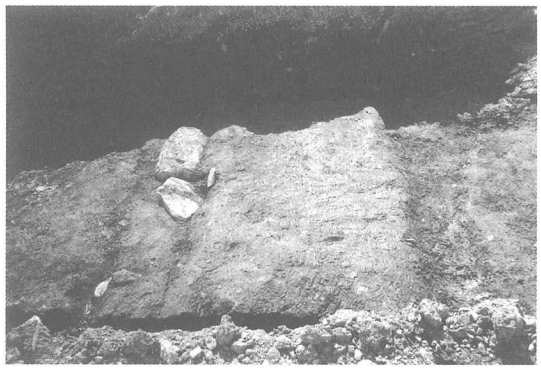
所在地	岡山市吉井208ほか	**調査期間**	20020903～20020905
調査原因	病院施設建設（浄化槽）	**調査面積**	約28㎡
時　代	奈良～平安時代	**担当者**	神谷正義・高橋伸二・安川　満

遺跡の概要　吉井廃寺跡は1962(昭和37)年に水田の地下げ作業中に発見された奈良～平安時代の古代寺院跡である。その後、1971(昭和46)年ごろ造成され病院となったため、伽藍配置等詳細は全くわかっていない。現在ではどの地点か不明だが、造成時の試掘調査で基壇状の石列、高まりを検出しているほか、今回の調査地点の北側の倉庫建築時にも築地跡とみられる南北方向の基壇状の高まりを検出しているという。

周辺は南1kmほどに『一遍上人絵伝』で有名な備前福岡市をひかえ、東700mほどに中世寺院・吉祥院跡、岡山県重要文化財(石造美術)吉井宝塔が所在する。これらは調査例がなく実態が不明であるが、古代から中世にかけての繁栄ぶりを想像するに難くない。



第1図 調査位置図


第2図 基壇状高まり

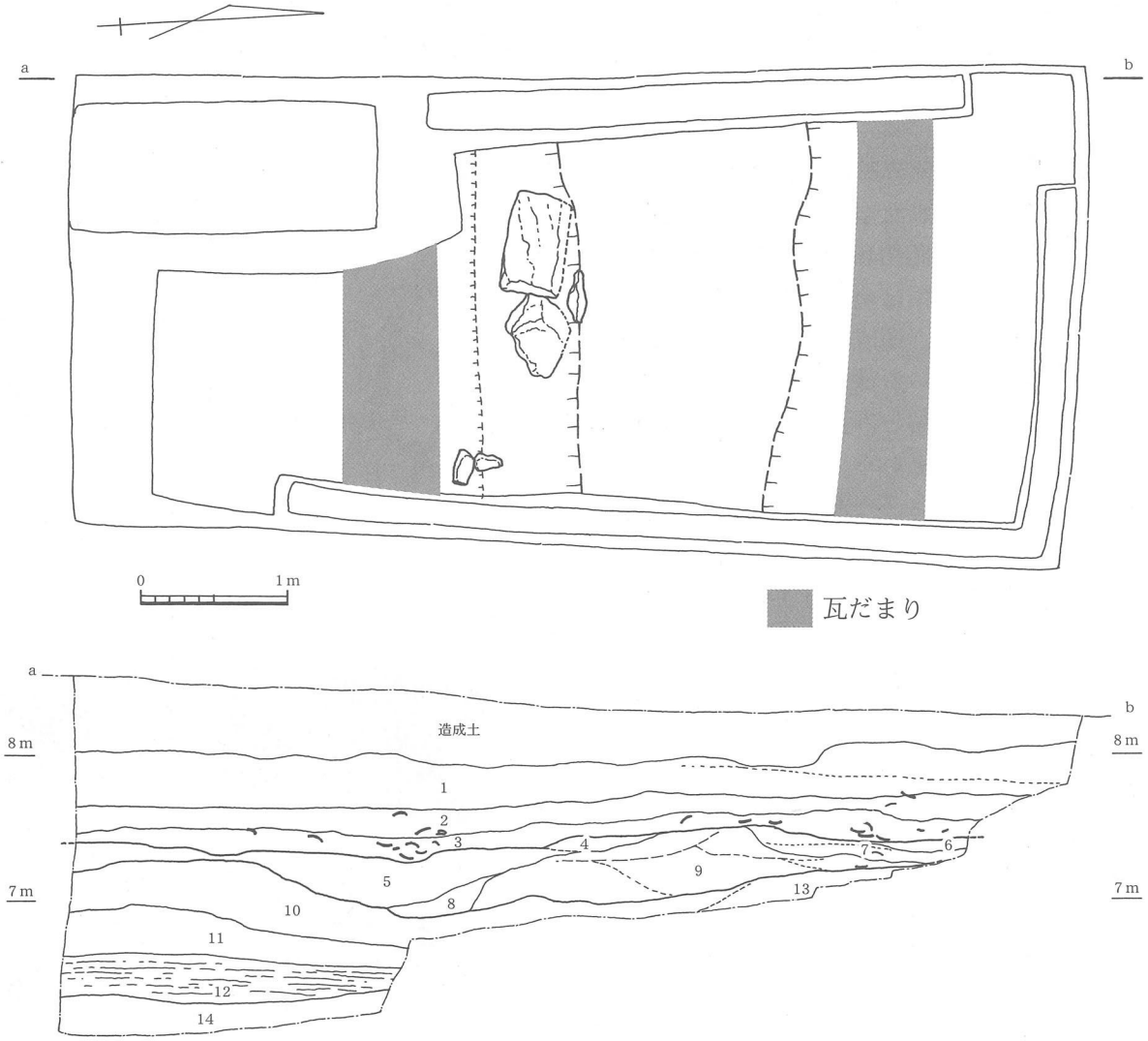
調査の概要　調査地点は吉井廃寺跡の想定寺域のうち西よりにあたる。計画段階で照会があり、事前に試掘確認調査を実施するよう求めたが、既存建物の撤去が着工直前になるなど確認調査後の設計変更が困難なこともあり、基礎の掘削深度をできる限りおさえること、浄化槽部分(約28㎡)は発掘調査の対応とすることで合意した。

発掘調査では海抜7.5mほどの高さで、東西方向の基壇状の高まりを検出した。基壇状の高まりは幅1.5mほど、高さ10cm程度のわずかなものだが、その南北両側に帯状に瓦だまりが形成されており、検出時はかなり明瞭に認識できた。基壇状の高まりを含む造成面は、南に下がる基盤土(流紋岩質の風化礫を含むシルト質土及び流紋岩質の岩盤）と谷状地形の埋積土とみられる軟質の砂質土、黒色粘土シルトの上に10～40cmの厚さに基盤土を含むシルト質土を盛ることで形成されている。基壇状の高まりには50～60cm大の花崗岩の角礫が一見並ぶ部分があり、基壇を構成するものである可能性があるが、いずれにしても元の状態を保っているとは思われなかった。なお、造成土とみられるシルト質土中にもわずかながら瓦片が含まれており、基壇状の高まりも創建当初のものではない可能性が高い。造成面付近や造成土の上層には木炭を多く含む部分があるほか、瓦にも熱を受けたものがあり、幾度か火災があったことを伺わせる。

一方、建物部分の立会調査では、基礎掘削部分が限られることもあり明瞭な遺構は検出できなかったが、浄化槽部分では瓦だまりが東西方向に展開していたが、建物部分の西側では南北方向に向きを変えており、築地などの角部分あたる可能性がある。なお、この南北方向の瓦だまりの北側が先述の、南北方向の基壇状の高まりを検出した倉庫にあたっている。

出土遺物はすべて瓦片である。残念ながら瓦当の残る軒瓦などは出土しなかった。

まとめ　今回の調査は、これまで情報のほとんどなかった吉井廃寺において、初めてのまとまった成果であり、ごく小規模な調査ではあるが貴重な情報が得られた。



土層注記

1　褐灰色シルト質砂(1～5mm大の風化礫多く含む)
2　暗褐灰色シルト微砂(瓦片、風化礫多い)
3　(暗)褐灰色　シルト質砂(瓦片多量)
4　灰黄褐～褐灰色シルト(風化礫多い。木炭・焼土粒含む)
5　褐灰色シルト(風化礫多い。木炭・焼土粒まばら)
6　灰黄褐色シルト質微砂(風化礫多い。焼土粒含む)
7　灰黄褐色シルト(風化礫多い。瓦片わずかに含む)
8　灰色粘土シルト(やや軟質、風化礫多い)
9　灰黄褐色シルト(黒色粘土、黄褐色土をブロック状に含む)
10　黒色粘土シルト（軟弱)
11　灰黄色礫混じり砂質シルト
12　細砂・風化礫のラミナ状堆積
13　灰黄～灰黄褐色砂質シルト(11層に対応？)
14　岩盤

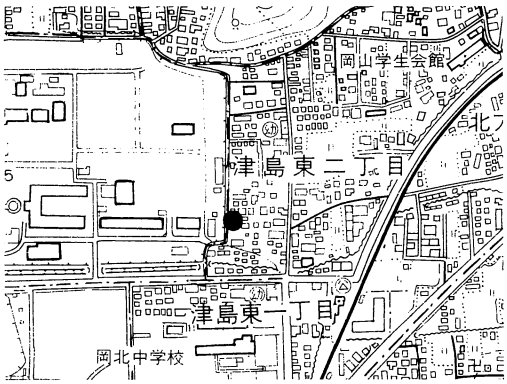
第３図　調査区平面及び土層堆積状況（１／50）

津島遺跡

所在地	岡山市津島東二丁目1624-3	**調査期間**	20021007～20021010
調査原因	集合住宅建設（浄化槽）	**調査面積**	約18㎡
時　代	弥生時代後期～古墳	**担当者**	安川　満・西田和浩

遺跡の概要　調査地点は旭川西岸平野北部にあたり、周辺には朝寝鼻貝塚、津島岡大遺跡、津島江道遺跡などの遺跡が集中する地点である。

一帯は津島岡大遺跡や朝寝鼻貝塚では縄文時代後期の集落跡や貝塚が確認されてるほか、弥生時代には津島岡大遺跡、津島江道遺跡などで各時期の遺構、遺物が確認されている。調査地点の周辺でもこれまでの試掘調査、立会調査から広い範囲に遺跡が広がることが予想されてる。また、津島東から法界院にかけての山頂部、尾根上などでも多くの土器の出土が知られており、こうした地点に墓域が形成されているものとみられる。



第1図 調査位置図

古墳時代には最古段階の古墳といわれる都月坂1号墳、七つ坑1号墳が築かれるほか、神宮寺山古墳、一本松古墳、塚の本古墳など前方後円墳が連綿と築かれる。古代～中世には官道・山陽道の迂回路といわれる「福輪寺縄手」がとおり、また、津島江道遺跡では御野郡衙ではないかといわれる遺構群も検出されている。

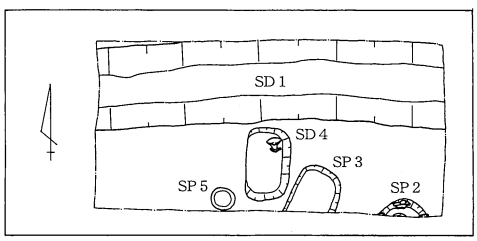
調査の概要　発掘調査は、周辺の状況から掘削が埋蔵文化財包蔵層に達すると予想される浄化槽部分（約18㎡）について実施した。

a）基本層序

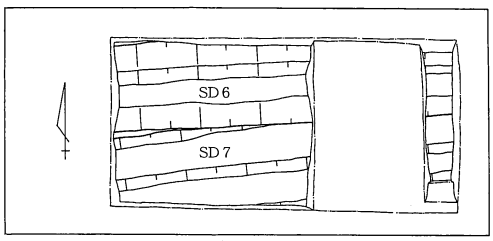
調査地点は標高約5.2mを測り、地表面から約65～70cmは宅地造成に伴う山土の造成土であり、その下には造成前の中世～現代までの水田土層が50cmほどの厚さで堆積していた。

その下層は浅黄色～黄褐色の洪水砂層となっており、砂層上から掘られている遺構群が存在する(第1遺構面)。この砂層は浅いところで50～60cmほど堆積しており、その下層には黒色シルト質土、さらに灰白色～黄灰色のシルト質砂層が存在する。黒色シルト質土の上からは溝状遺構が掘り込まれており、先述の洪水砂層で埋没している状況であった(第2遺構面)。

洪水砂下の黒色土は周辺一帯で検出される弥生時代前期の包含層・水田層と見られる。また、その下のシルト質砂層は微高地基盤層と考えられる。



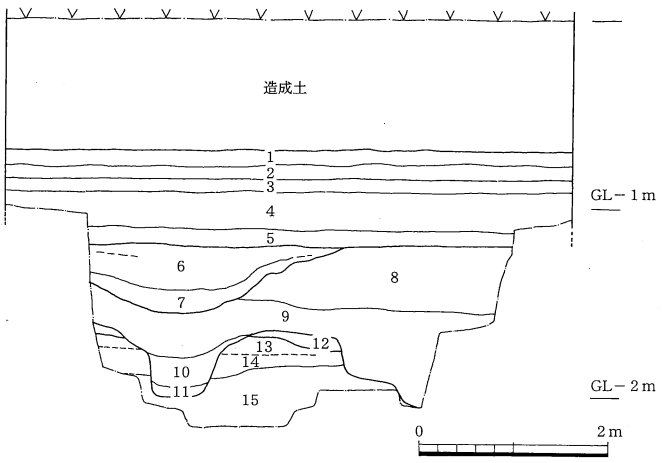
第1遺構面



第2遺構面

0　2m

第2図 調査区平面図



土層注記

1	灰～褐灰色微砂細砂	
2	黒灰～黒色微砂細砂	
3	オリーブ灰色微砂シルト	（中世～現代 水田層）
4	オリーブ褐色微砂シルト	
5	明黄灰～灰白色シルト微砂	
6	黒褐色微砂シルト	（SD１ 埋土）
7	褐灰色微砂シルト	
8	浅黄色微砂細砂	（洪水砂）
9	明るい灰黄色細砂微砂	
10	褐灰色～灰黄褐色砂質シルト	（SD６ 埋土）
11	褐灰色シルト	
12	黒褐色砂質シルト	（弥生前期包含層・水田）
13	黄灰色微砂細砂	（縄文時代包含層対応層）
14	黄～明黄色細砂微砂	（微高地基盤）
15	明オリーブ灰色細砂	

第３図 調査区上層堆積状況

ｂ）第１遺構面

第１遺構面は中世水田層直下、洪水砂上面から掘り込まれた遺構群である。地表から約1.2ｍ（標高約4ｍ）の高さで、上面は中世の水田により削平されているようである。この遺構面からは溝状遺構（SD１）、土坑状遺構（SP２～SP４）などを検出している。

SD１は東西方向に流れる幅約1.2ｍ、深さ0.35ｍを測る溝状遺構で、用水路と考えられる。埋土中から出土した土器から古墳時代初頭の時期と見られる。SP２～SP４はやはり古墳時代初頭のものと見られるが、削平のため深さもほとんど残っておらず性格は不明である。

ｃ）第２遺構面

第２遺構面は洪水砂層により埋没している遺構群であり、SD６、SD７の２条の溝状遺構を検出した。

SD６は東西方向に流れる幅1.2ｍ以上、深さ0.4ｍを測る溝状遺構で、SD１に比べるとやや南北に傾いてる。SD７はSD６とほぼ並行して流れる溝状遺構で、幅1ｍ以上、深さ0.5ｍ以上を測る。これらの溝は最終段階には一度の洪水によって埋没しているため併行して使われていた用水路と考えられ、両者とも埋土中から出土した土器の特徴から弥生時代後期後半～末ごろのものと考えられる。

ｄ）黒色シルト質土層以下

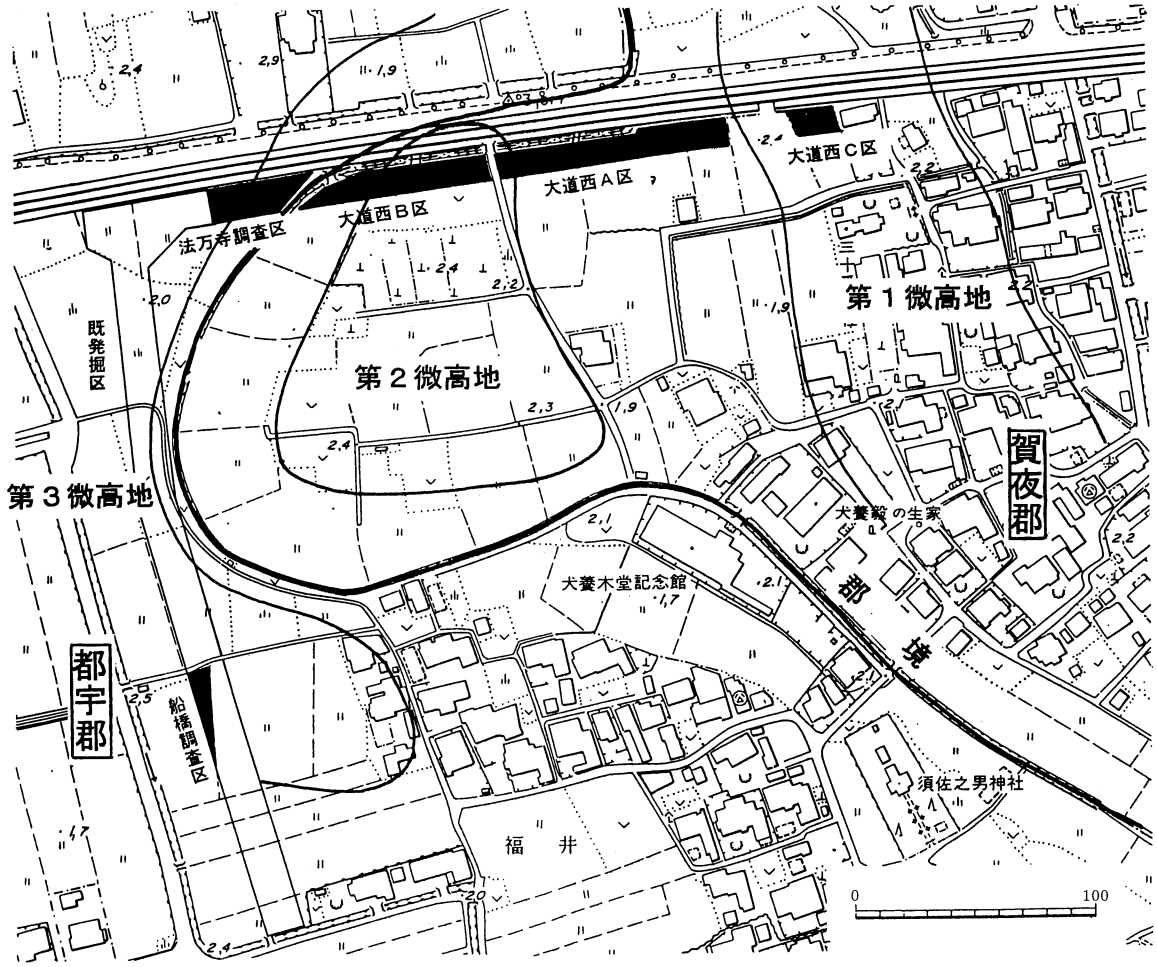
洪水砂下の黒色土層は先述のとおり周辺一帯に広がる弥生時代前期の包含層・水田層と見られる。また、黒色土層と微高地基盤層の間にはやや土壌化した黄灰色砂質土層が存在しており、津島岡大遺跡で確認されている縄文時代の包含層に対応する可能性がある。しかし、この両者とも第２遺構面の２条の溝により削り込まれており、遺構などは確認できなかった。また、微高地基盤層はかなり砂質の強い軟弱なもので、微高地でも縁辺部に近い部分だったようである。

まとめ　20㎡に満たないごく狭い範囲の調査だったが、弥生時代を中心とする遺構や包蔵層を重層的に確認でき、大きな成果を上げることができた。長年多くの地点を調査している岡山大学構内でも、この地点周辺はこれまで調査例がほとんどなく状況がわからなかったが、今回の調査でその一端を伺うことができ、周辺の遺跡の理解、遺跡の分布や構造を考える上で重要な資料になる。

川入・中撫川（市道２号線）遺跡

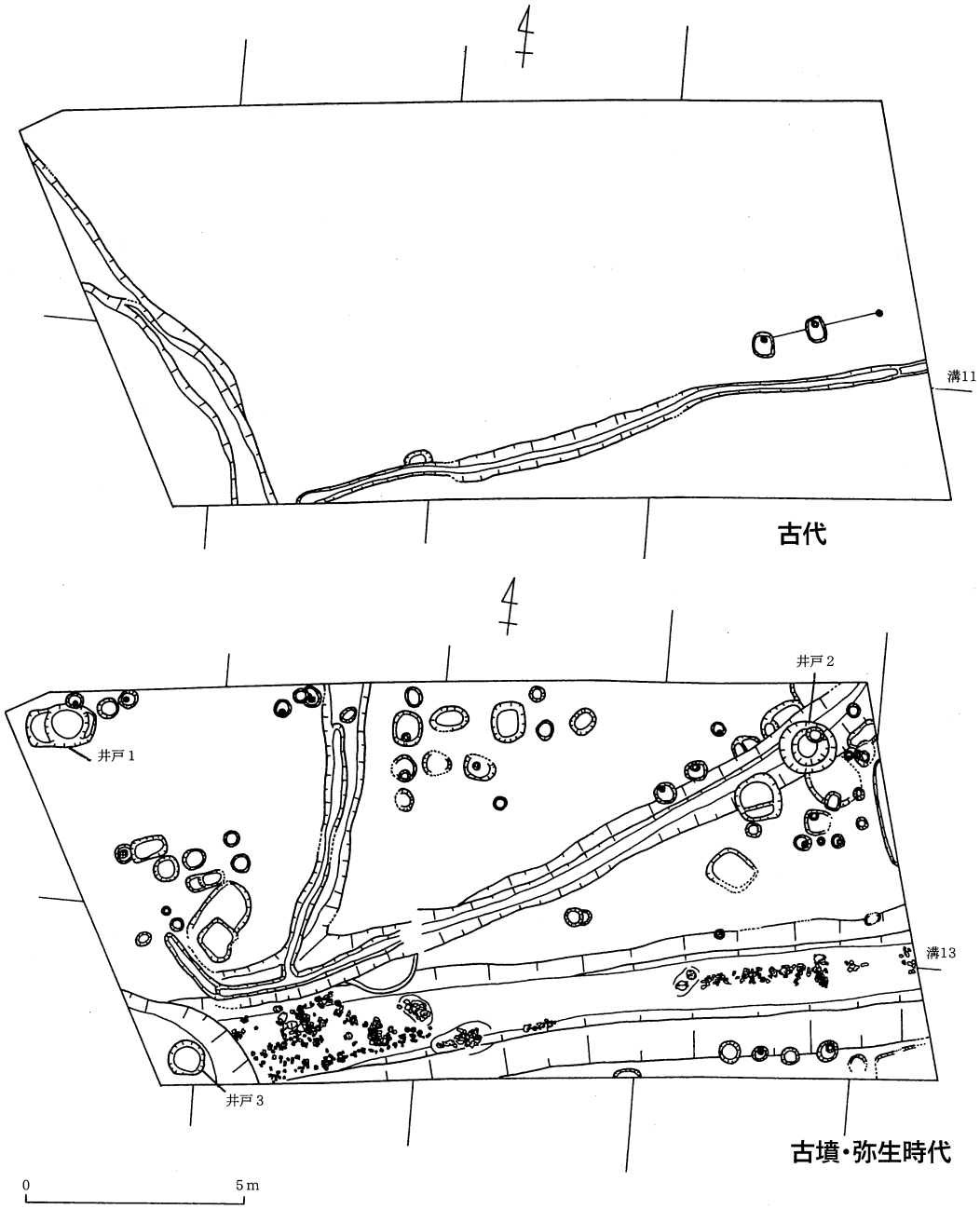
所 在 地	岡山市中撫川	**調査期間**	020801～
調査原因	市道建設	**調査面積**	3500㎡(今年度2400㎡)
時　　代	弥生時代前期～中世	**担 当 者**	草原孝典・西田和浩

遺跡の概要　川入・中撫川遺跡は足守川下流域に位置するが、現平野部の南半はかつて「吉備穴海」といわれた内海であり、川入・中撫川遺跡の周辺部と当時の海岸線とは重なると考えられている。現足守川の対岸に位置する上東遺跡からは、弥生時代後期の港湾施設が検出されている。川入・中撫川遺跡は新幹線や道路建設に伴う発掘調査で、飛鳥時代の奥山久米寺式の素弁八弁蓮華文軒丸瓦や、奈良時代の平城宮式系軒瓦を出土する築地塀が検出されており、古代の港に関する遺跡である可能性が指摘されている。また、弥生時代から古墳時代にかけての変換点とされる土器型式である「布留０式」の当地における規準資料も出土している。

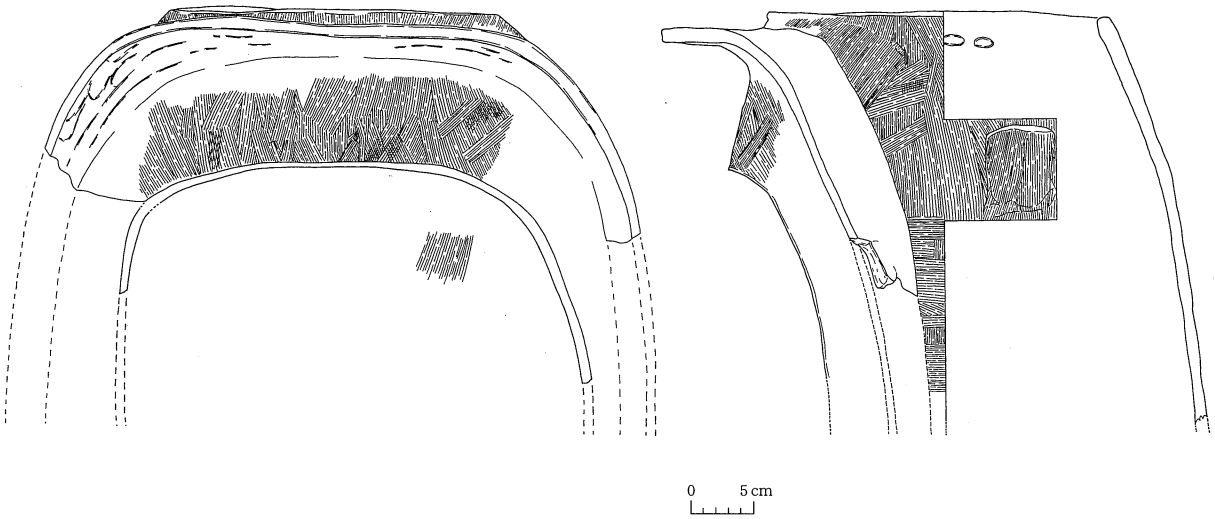


第１図 調査区位置図

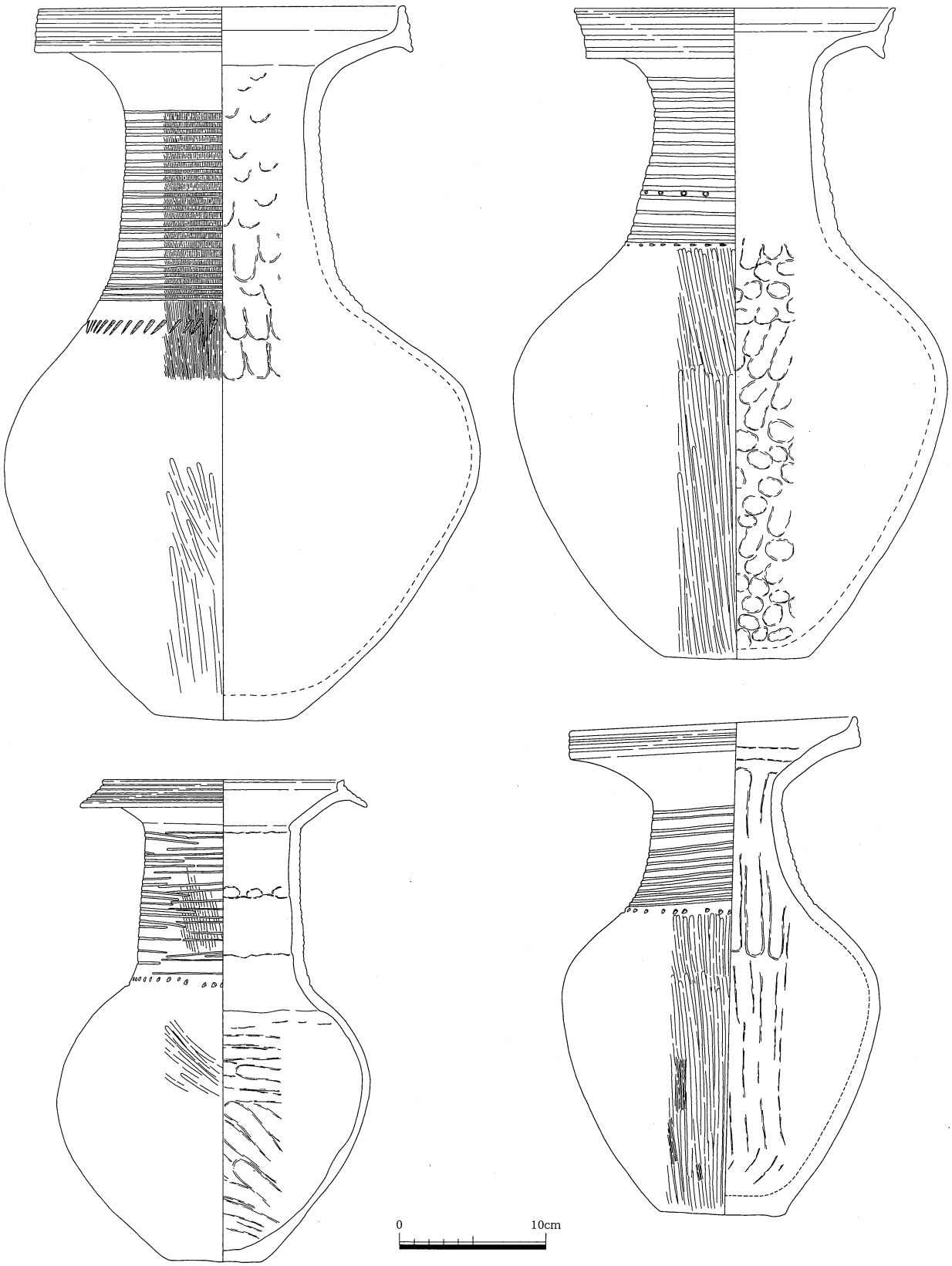
調査の概要　今年度の調査は全調査区の西半部分である。調査区の設定は第１図に示すとおりである。かつての調査成果や微地形の分布から、今回の調査は東西に３つ並ぶ微高地上に対して東西



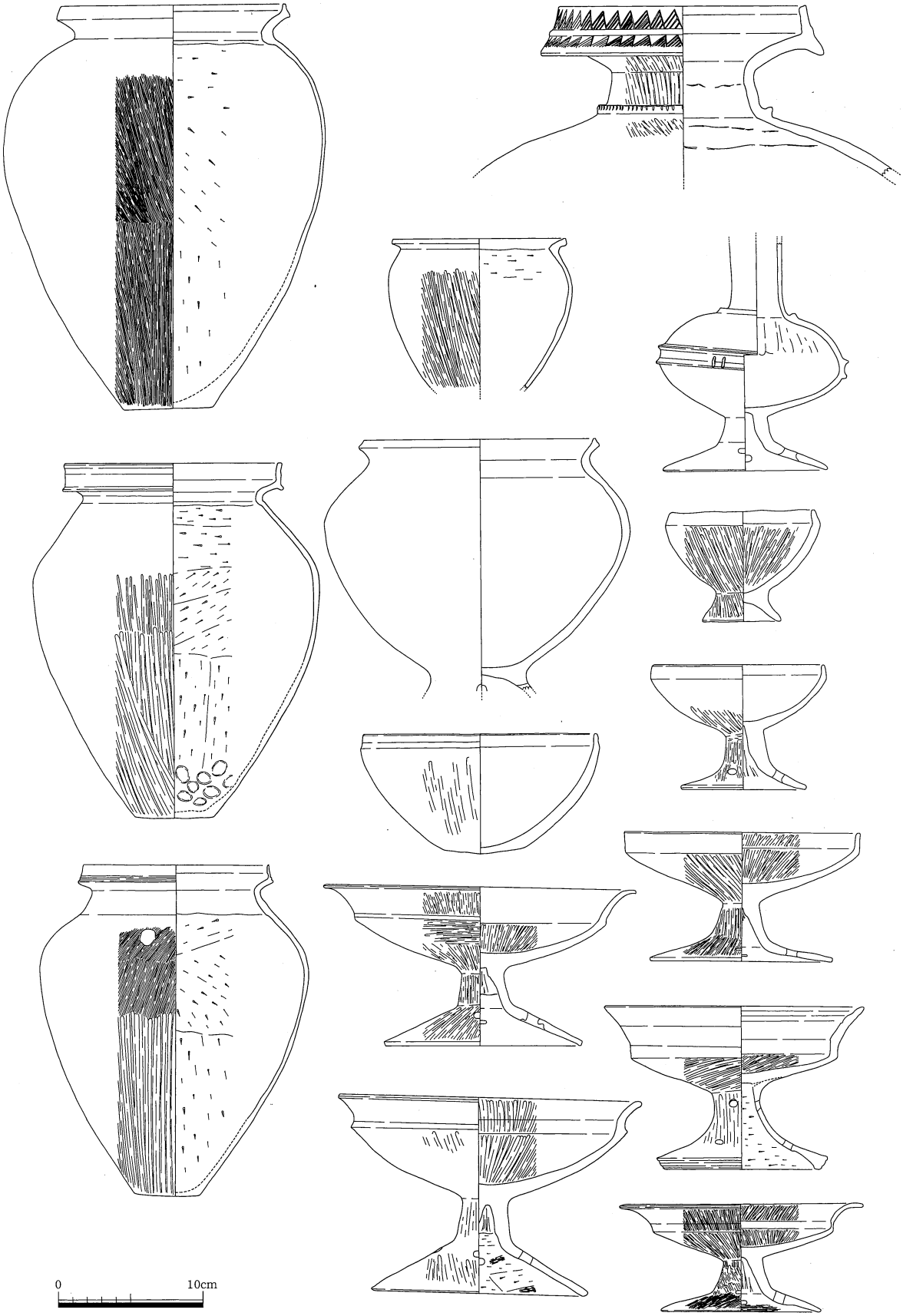
第2図 大道西C区 遺構配置図



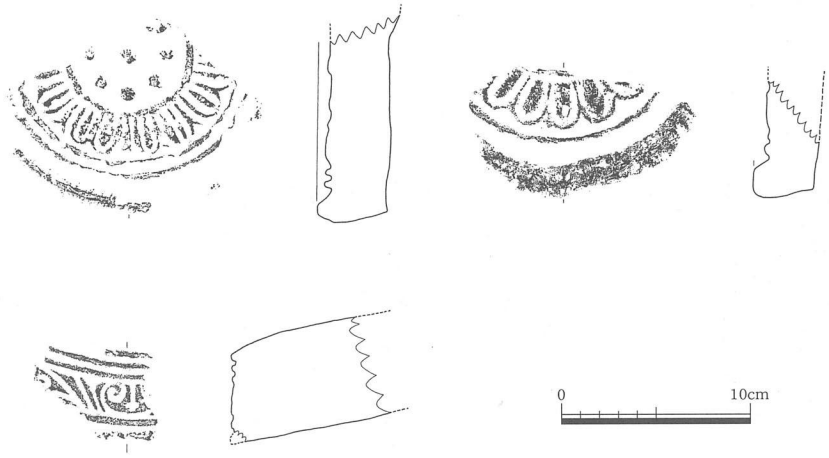
第3図 溝11出土カマド実測図



第４図 溝13出土遺物（１）



第５図 溝13出土遺物（２）

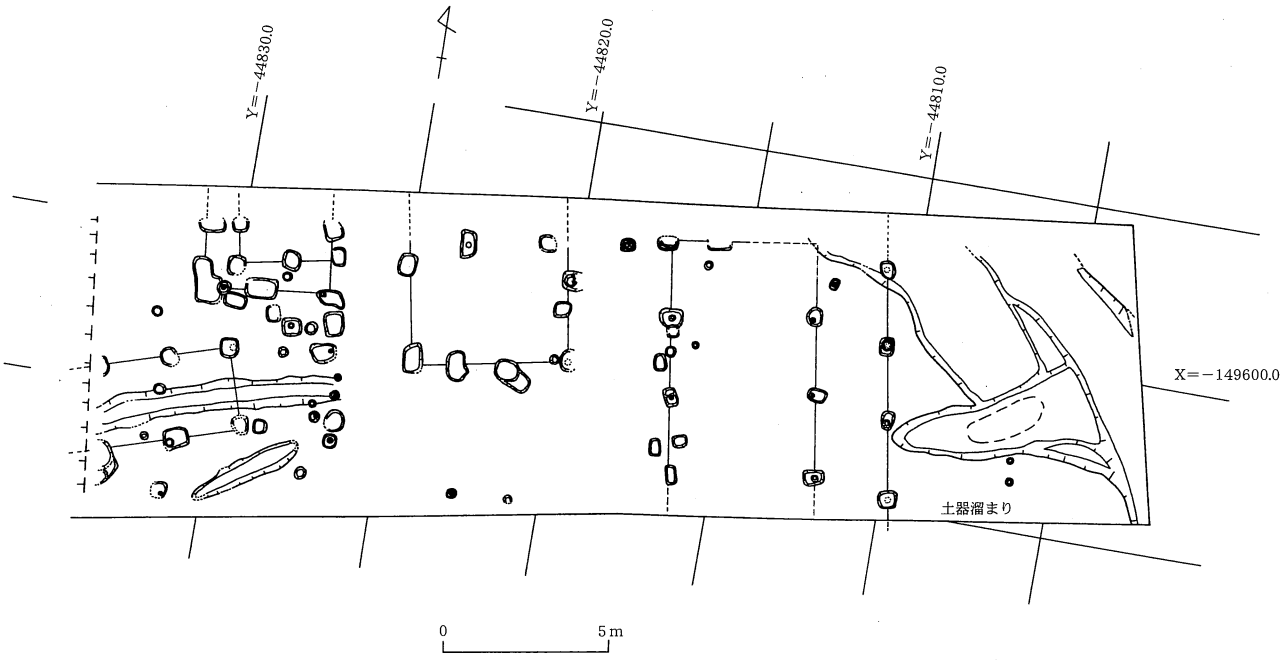


第５図 大道西区出土軒瓦

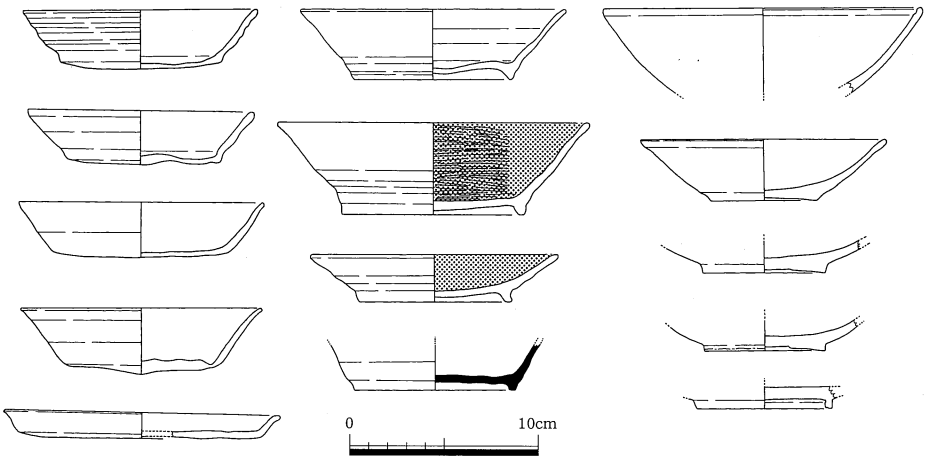
第６図 溝13土器出土状況

方向のトレンチを入れたことになる。仮に東側から第１微高地、第２微高地、第３微高地とする。第１微高地は大道西Ｃ区、第２微高地は大道西Ｂ区と大道西Ａ区の一部、第３微高地は法万寺調査区と船橋調査区に相当する。

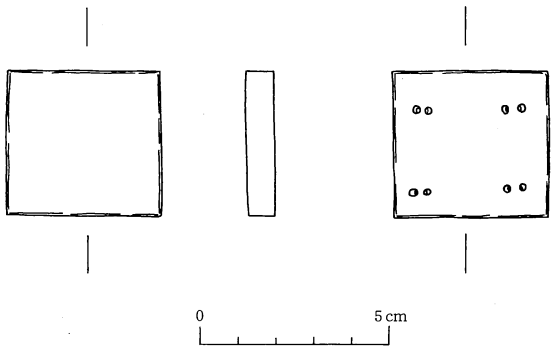
第１微高地は東西幅が100ｍほどの微高地で、かつての調査で奈良時代の平城宮式系軒瓦や築地が検出されている。今回の調査では、その築地の南限の可能性が推測される東西方向の溝が検出され、溝埋土からは多くの平瓦片とともに軒瓦も出土した。軒丸瓦は神力寺廃寺や富原遺跡出土の軒丸瓦と同文の平城宮式系軒瓦と、やや退化して単弁化した蓮華文で、軒平瓦は陰陽の文様の逆転した平城宮式系軒平瓦である。また、同一検出面ではあるが後期中葉の遺構も比較的多く、柱穴、土壙、井戸、



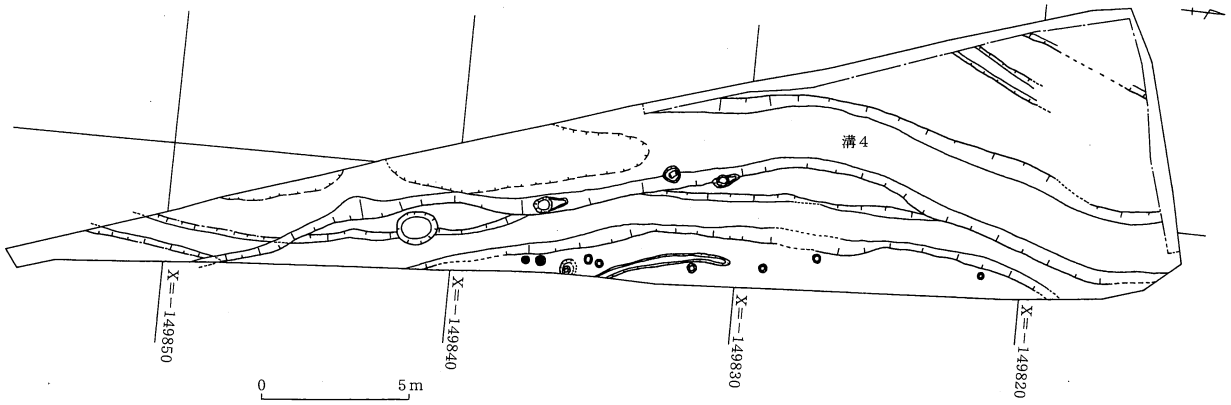
第７図 大道西Ｂ区古代遺構配置図



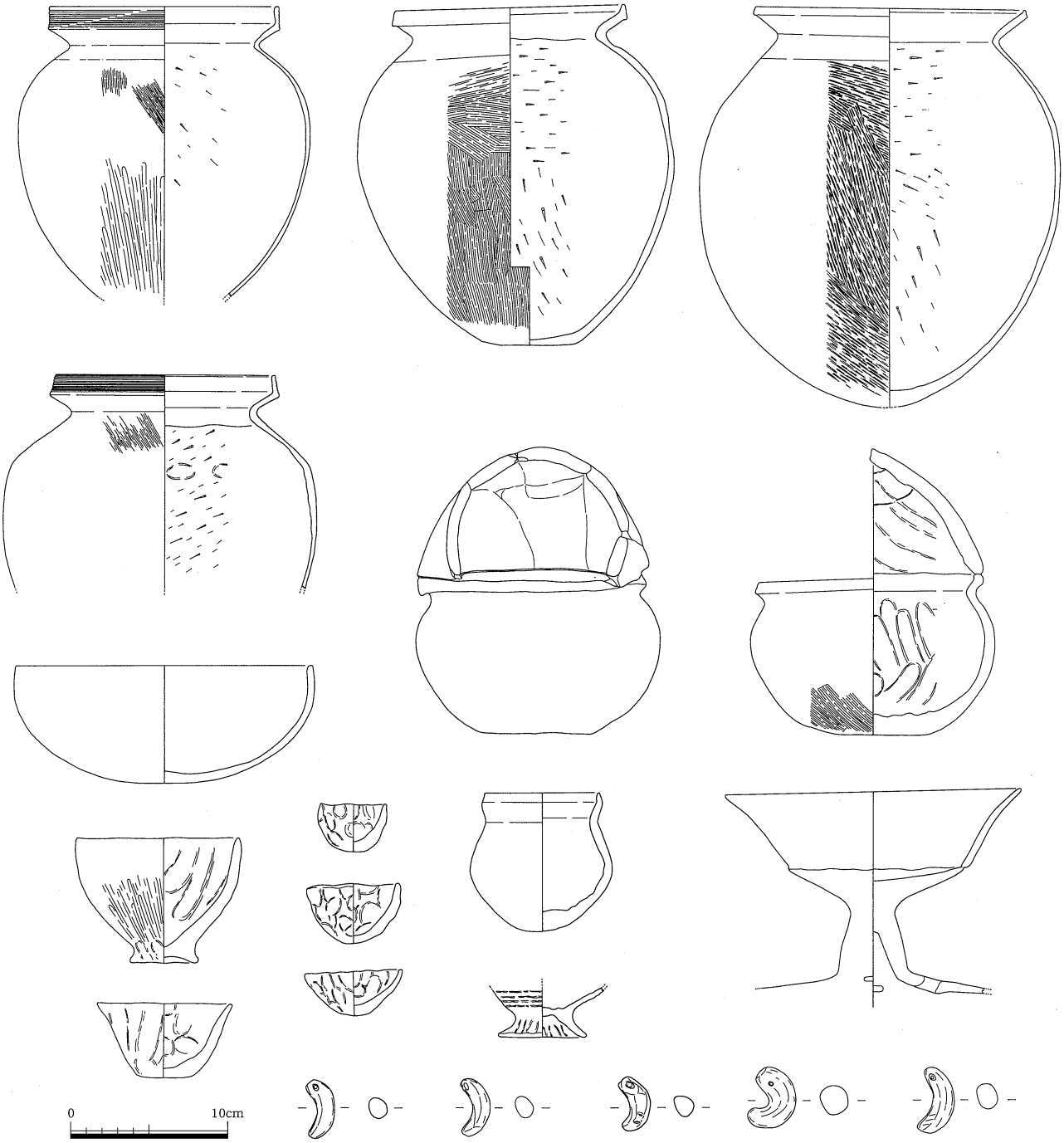
第８図 土器溜り出土土器



第９図 石帯

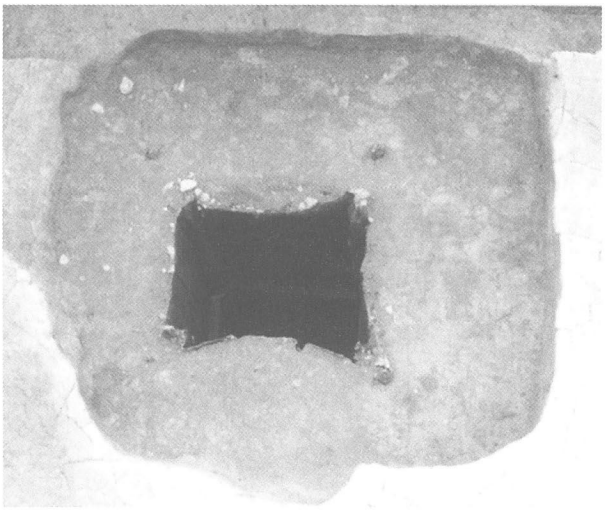


第10図 船橋調査区遺構配置図

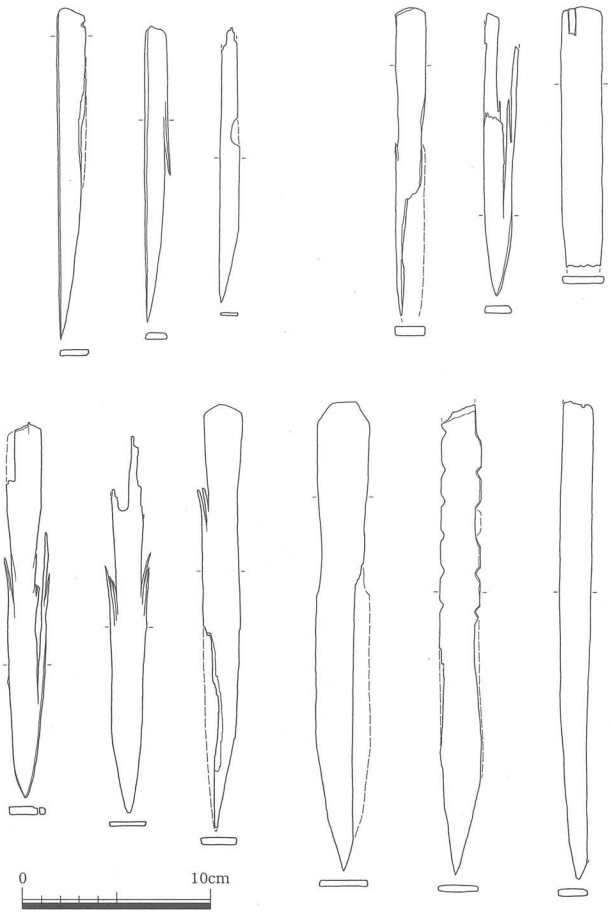


第11図 法万寺調査区 溝4出土遺物

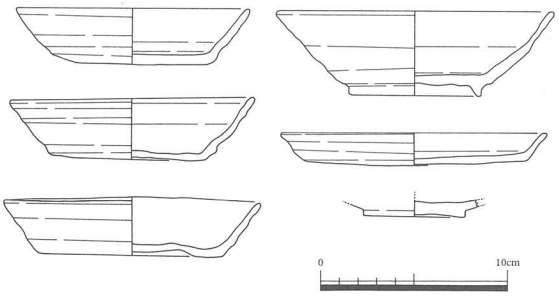
第12図 法万寺区 平安時代遺構面



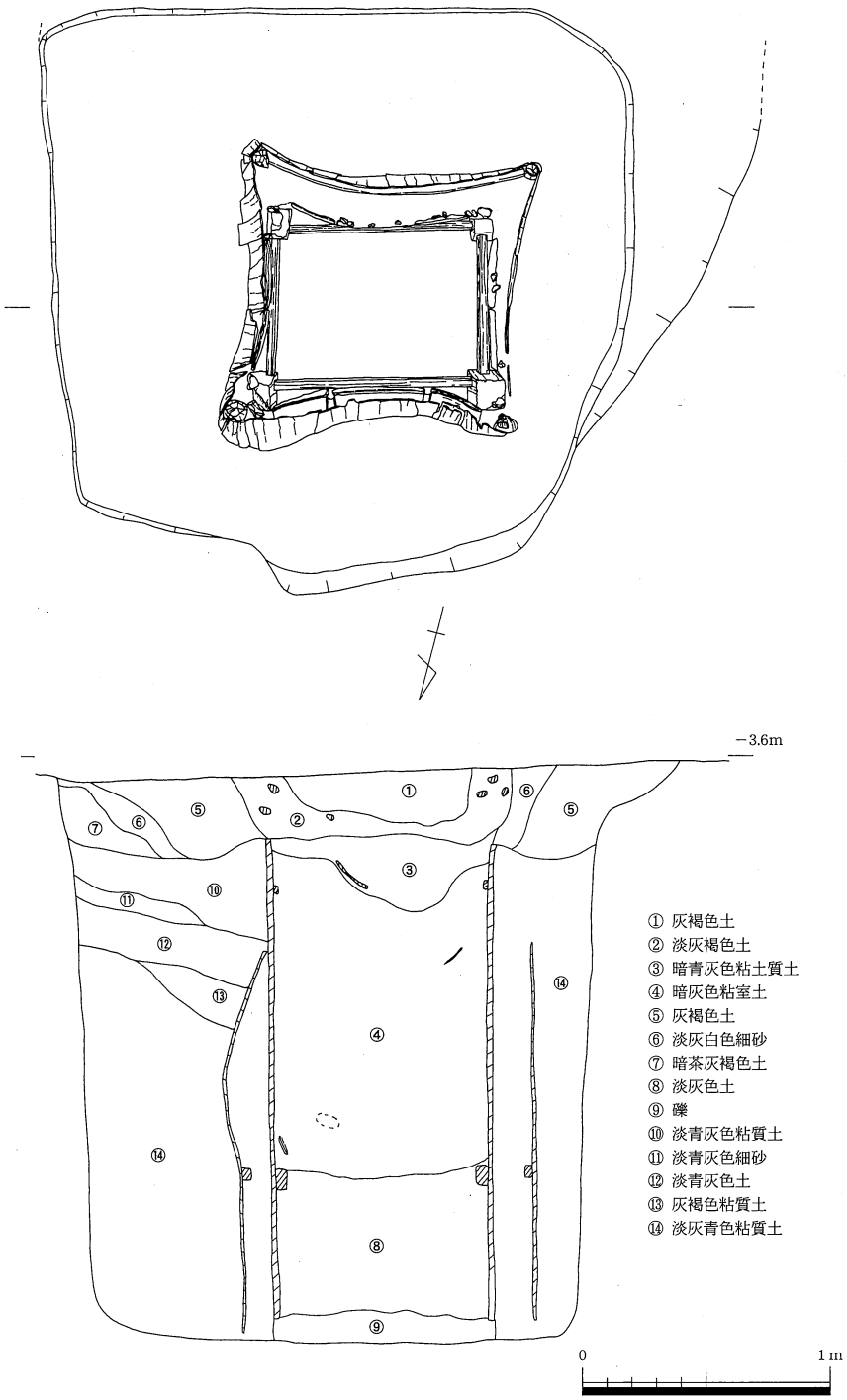
第13図 井戸 6



第14区 井戸 6 出土斎串



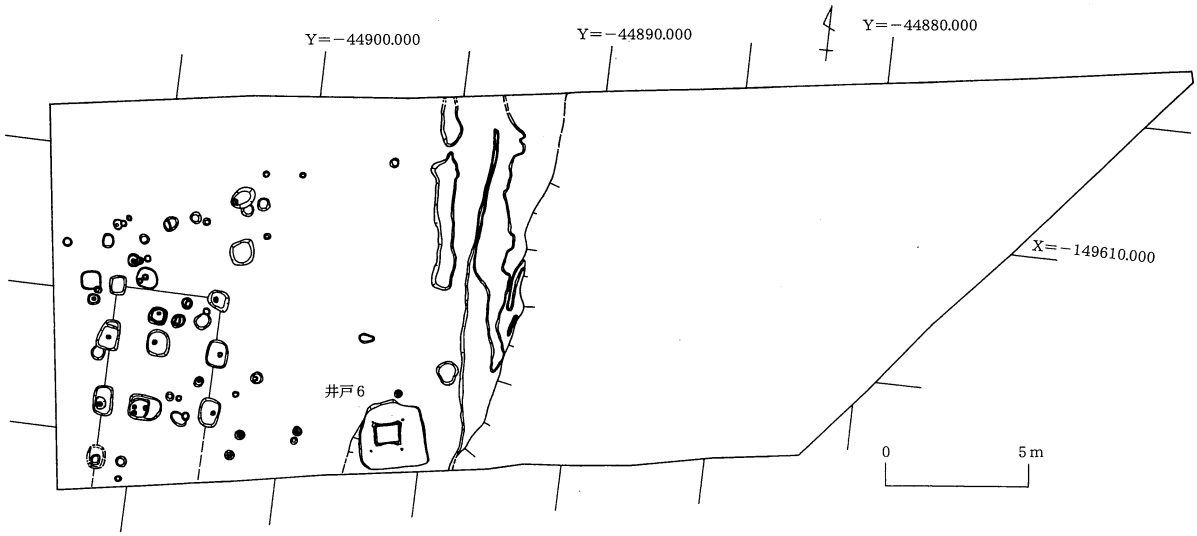
第15図 井戸 6 出土遺物土器



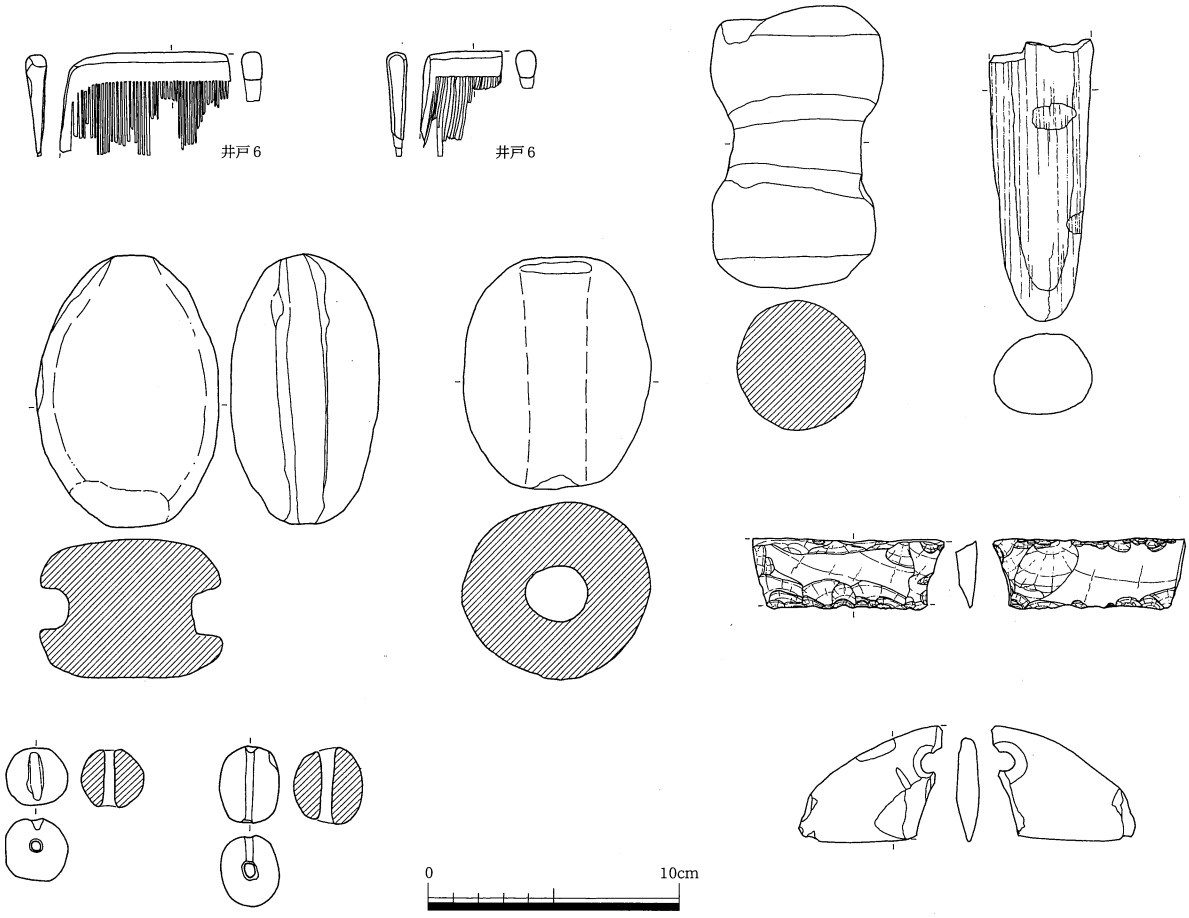
第16図 井戸 6

溝が検出された。とくに溝13からは埋没時に多量の土器が投棄されており、その多くは完形品であった。第 1 微高地は次年度の調査が主体であり、各期の様相がより明確になるものと思われる。

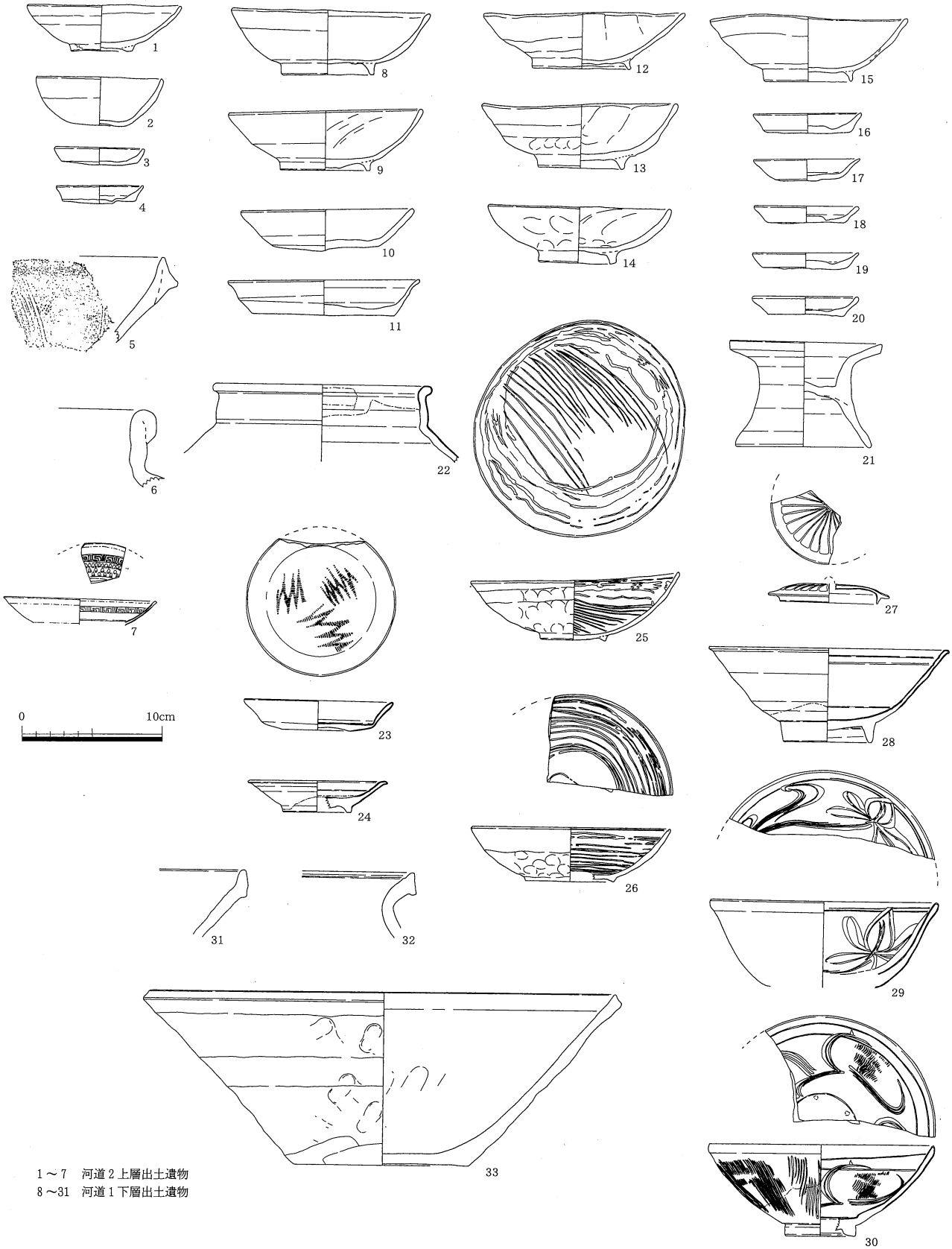
第 2 微高地は、調査歴のない微高地である。微高地基盤は砂質が強く、第 1 、第 3 微高地と比べるとやや安定度が悪い。遺物も古代を遡るものは出土しなかった。遺構面は中世と古代の 2 時期である。古代の遺構面からは方形掘り方の柱穴の建物、柱穴列、土器溜まりが検出された。出土遺物から 9 世紀後半を中心とする時期である。また石帯も出土し、土器溜まりには京都産と防長産の緑釉陶器も含



第12図　法万寺区 鎌倉時代遺構面



第17図 井戸 6 河道 1 出土遺物



1～7　河道2上層出土遺物
8～31　河道1下層出土遺物

第18図 河道1出土遺物

まれている。総柱建物も認められず、若干方向をずらす傾向も認められることや、食膳具を中心とした土器の出土が多いことから、いわゆる居住区的な様相であることがうかがわれる。第1微高地の瓦を多量に出土する古代の溝からは土器も若干出土しており、それらの時期も9世紀後半である。第1、第2微高地は一連である可能性が高い。第一微高地からは、かつての調査で鬼瓦片や隅瓦も出土しており、かなり本格的な瓦葺建物が存在していたと思われる。今のところ寺院である可能性が最も高いと考えられる。築地内部の調査では、古代の掘立柱建物が認められないこともその考えを支持させる。

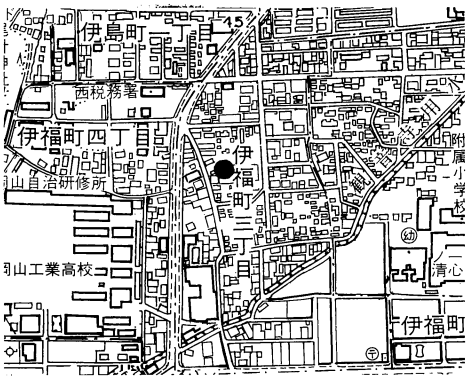
第3微高地は郡境である法万寺川旧河道と中世の柱穴、古代の建物と井戸、古墳時代の竪穴住居と井戸が検出された。今回の調査では第3微高地の南端にあたる船橋調査区も調査し、古墳時代の溝（溝4）や柱穴を検出した。溝4からは多くの土器が出土したが、最終埋土からは須恵器片や手づくね土器も出土しており、5世紀ぐらいまではたわみ状の溝として存続している。また出土土器にも時期差があり、数時期にわたって土器が堆積したと考えられる。法万寺調査区で検出された井戸は、井戸枠の一辺が95㎝×65㎝の方形で、掘り方は一辺2.3ｍもある。井戸枠の外側には一辺1ｍの方形プランに対応する隅柱が残っており、現況の井戸は、同地点の井戸をやや縮小して再構築しているといえる。井戸側には幅20～30㎝、長さ1.85ｍほどの板材を用いている。井戸底には約10㎝ほどの厚さに砂利を敷いていた。井戸枠内からは土師器、緑釉陶器とともに、櫛、斎串、銅銭（神功開宝）が出土した。とくに斎串は10本以上もある。大祓などの公的祭祀との関連の可能性がうかがえる。時期は9世紀後半である。第1微高地からは市道建設に伴う調査で総柱建物群が検出されており、多数の斎串が出土した井戸とともに、官衙施設的性格の遺構が存在していることが推測される。そうすると、9世紀後半には第1微高地では寺院、第2微高地では居住区、第3微高地では官衙といったものが機能別に並存していることになり、とくに寺院と官衙がセットになることから、それは郡衙クラスの施設といえる。また、現況の郡境が古代まで遡ると考えてよいならば、それらは郡境を越えて広がっているといえる。そうすると、郡レベル以上の官衙という考えも成り立つ。内海の縁辺に立地していることから、いわゆる国府津に相当する可能性が高いと思われる。つまり、川入・中撫川遺跡の様相は国府津の実態を具体的に示す良好な事例になるといえる。

第3微高地で検出された旧法万寺川の旧河道からは、土器とともに長さ11㎝、幅7㎝、厚さ5.4㎝のアワビ形をした土錘が300個以上も出土した。焼成を失敗した不良品も含まれていることから、同種の土錘を付近でつくっていたことがうかがわれる。この土錘は鯛縛網に用いられたものである。ちなみに、吉備穴海周辺の遺跡からは、弥生時代から中世の時期に属する鯛骨が出土しており、近世以前はかなり鯛が棲息していたといえる。このほか瓦器、魚住焼、青磁、白磁なども多く出土した。とくに青磁の量は多く、一般的な集落というよりも、鯛漁を盛んにおこなう地域の中心的漁港であったことがうかがわれる。なお、兵庫北関に入った積み荷に課した収税台帳である『兵庫北関入舩納帳』（文安二年（1445））によると、岡山県側の港に船籍を持つ船の積み荷には塩鯛や干鯛がみえ、鯛が当地の主要産物の1つであったことがわかる。また、備前国一宮の祭りの内容を記録した『備前国一宮社法』（康永元年（1342））のなかに、内海周辺の村々からの奉納品の名称がみえる。そのうち、川入・中撫川遺跡の対岸にある妹尾からは鯛魚や塩鯛が奉納されている。邑久郡や児島郡の浦々の村からの奉納品のなかには鯛が含まれていないことからも、足守川河口付近を中心とした内海部で盛んに鯛漁がおこなわれていたことがうかがえ、当遺跡から出土した多量の土錘もそのことと直接関係があるものと推測される。

上伊福遺跡

所在地	岡山市伊福町三丁目	**調査期間**	20030306
調査原因	集合住宅建設	**調査面積**	―
時　代	弥生時代後期末	**担当者**	安川　満

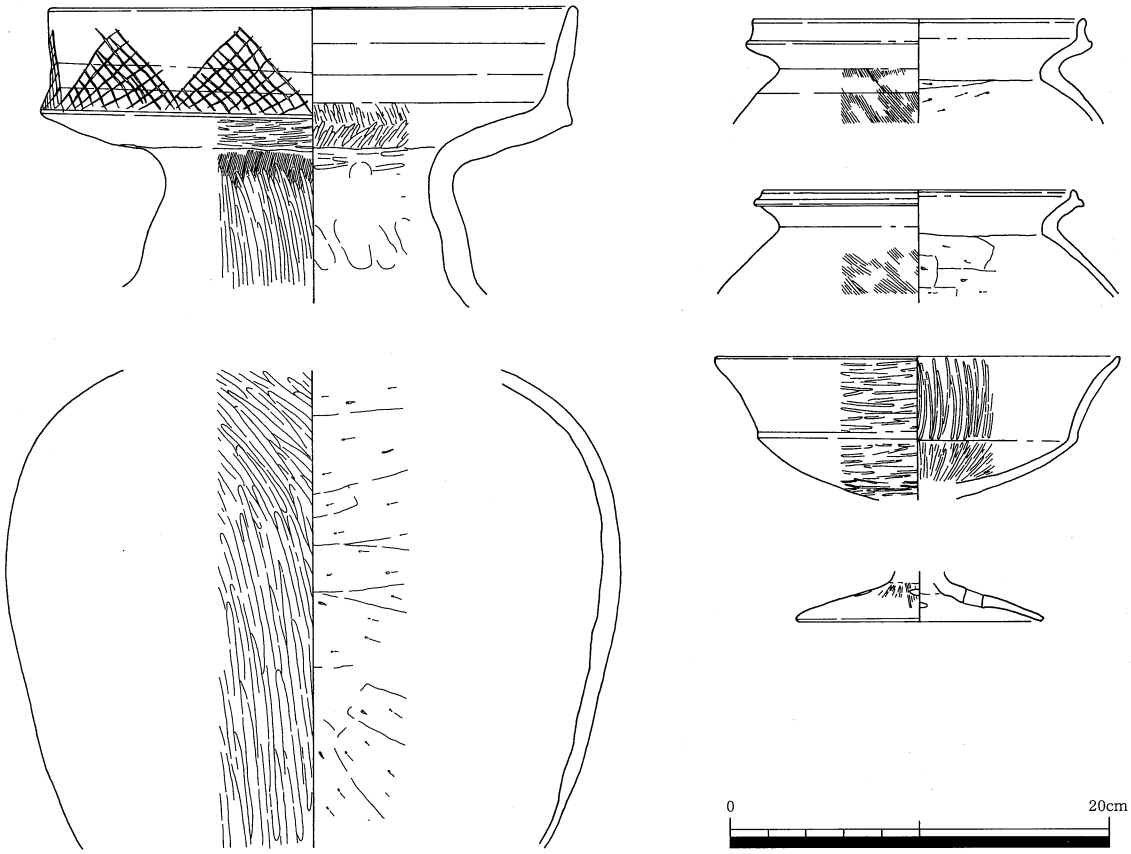
遺跡の概要　上伊福遺跡は旭川右岸の北西部に位置し、周辺には津島遺跡、絵図遺跡、南方遺跡など大規模な遺跡が集中する。今回の調査地点は、伊福町三丁目から伊福定国前遺跡を含む地点のほぼ北西端付近にあたる。



第1図 調査位置図

調査の概要　当該事業では、以前の旅館建物増築の際に確認調査を実施し河道跡であることを確認しているうえ、既存建物によりかなり攪乱されていることが予想されたため、基礎掘削時に立会調査を行うこととした。

その結果、やはり掘削範囲はほぼ北東から南西に向かうとみられる埋没河道中であったが、その西端付近から弥生後期末を中心とする土器が大量に出土した。これらは土層から埋没河道の斜面堆積中のものであり、調査地点より北西側から投棄されたものと予想される。



第2図 出土土器

Ⅲ　埋蔵文化財保護に関わる協議と調整

埋蔵文化財に関する業務のうち、調査や出土物の収蔵・管理等以外の埋蔵文化財包蔵地の照会、埋蔵文化財に関する事前協議、調整などは文化財課が窓口となって行っている。

埋蔵文化財包蔵地内での民間の土木工事は、開発事前調査申請時、開発許可申請時、建築確認申請時にチェックする体制となっているが、建築確認申請が市役所以外でもとれるようになって以来、これに伴う照会、協議の件数は激減している。

一方、平成14年７月３日改正、平成15年１月１日施行の「鑑定評価基準」の見直しに伴い、埋蔵文化財の存在状況が土地の評価額に反映されることとなり、こうした埋蔵文化財の照会、調整業務にも変化が表れつつある。第１に、これまでは具体的な開発計画を伴っての埋蔵文化財存在状況等の照会が中心であったが、それ以前、特に土地の所得以前の照会があるものが増加している。第２に先述のこととも関係するが、１件の土地に対し複数の業者等から照会があるものが増加している。第３に、埋蔵文化財存在状況の照会件数自体が増加していることである。こうしたことは、ある意味、埋蔵文化財に対する関心の高まりとして、保護の面でも利する面も大きいが、一方で、これまで以上に埋蔵文化財の照会、調整業務に統一性、公平性が求められることと、存在状況の照会と実際の開発行為とが切り離されてしまい直接的な対応に結びつかない可能性をもはらんでいる。また、計画が具体化する以前であるため、回答や対応が硬直化し、実際の設計や埋蔵文化財の存在状況に応じた対応がとれなくなることも危惧される。いずれにしても、現在の照会、調整業務を早急に見直す必要があるだろう。

なお、平成14年度に当教育委員会が取り扱った文化財保護法等に係る届出等は以下の通りである。

- 埋蔵文化財発掘調査の届出（第57条）　１件
- 埋蔵文化財発掘の届出（第57条の２）　37件
- 埋蔵文化財発掘の通知（第57条の３）　41件
- 埋蔵文化財発見の届出・通知（第57条の５・６）　０件
- 埋蔵文化財発掘調査の報告（第58条の２）　12件
- 埋蔵文化財試掘確認調査の報告（第57条・第58条の２）　14件（確認11件、試掘３件）
- 埋蔵文化財発見通知（第59条）　４件
- 埋蔵文化財監査（第61条）　５件
- 記念物現状変更申請（第80条）　24件（うち、17件は権限委任許可）
- 県指定文化財の現状変更申請（県文化財保護条例第35条第１項）　３件

また、当教育委員会を経ず、岡山県教育委員会で処理された通知等に以下のものがある。詳細は『岡山県埋蔵文化財報告　33』岡山県教育委員会　2003で報告されている。

- 埋蔵文化財発掘の通知（第57条の３）　20件
- 埋蔵文化財発掘調査の報告（第58条の２）　９件
- 埋蔵文化財試掘確認調査の報告（第58条の２）　１件（確認１件）
- 埋蔵文化財発見通知（第59条）　６件

埋蔵文化財発掘調査の届出（第57条）

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	調査主体者	担当者	岡山県文書番号 日　付
集落跡 津島岡大遺跡	岡山市津島中一丁目1番1号	1105	岡山大学(農) 校舎改修工事	20020917 ～20021220	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 助手　横田美佳	教文埋第762号 20020828

埋蔵文化財発掘の届出（第57条の２）

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
散布地 東岡山遺跡	岡山市長岡110-4、110-6	95.1	店舗・一般住宅	20020427 ～20020930	個人	・立会調査	教文埋第47号 20020405
集落跡・生産遺跡(水田) 上伊福遺跡	岡山市伊福町一丁目17-102	261.47	その他建物(事務所兼住宅)	20020420 ～20020920	個人	・立会調査	教文埋第51号 20020408
集落跡 南方遺跡	岡山市南方一丁目2-119	259.65	集合住宅	20020610 ～20030130	個人	・設計変更により包蔵層に到達せず ・立会調査	教文埋第136号 20020419
集落跡 上伊福遺跡	岡山市伊福町四丁目地内	1.08	通信設備	20020422 ～20020531	岡山市中山下二丁目1-90 西日本電信電話株式会社 岡山支店長　伊佐治正隆	・慎重工事	教文埋第137号 20020419
散布地・集落跡・官衙跡 備前国府関連遺跡	岡山市国府市場字西浦1077-1	499.67	一般住宅	20020623 ～20021025	個人	・立会調査	教文埋第134号 20020419
城館跡 岡山城二の丸跡	岡山市表町二丁目4-109、4-129	609.07	集合住宅	20020501 ～20030721	東京都江東区大島二丁目8-6 多田建設株式会社 代表取締役社長　多田久視	・試掘確認調査で包蔵層確認せず。 ・立会調査	教文埋第141号 20020419
集落跡 鹿田遺跡	岡山市東古松一丁目20番1号	15500	電気通信事業用建物	20021101 ～20040521	広島市中区大手町二丁目11番10号 株式会社NTTドコモ中国 代表取締役社長　聖成光一	・設計変更により建物部分は現状保存。 ・発掘調査(地下油槽) ・立会調査(その他の掘削)	教文埋第232号 20020510
生産遺跡(水田) 北方上沼遺跡	岡山市学南町二丁目270-1ほか	279.95	ガソリンスタンド増築	20020601 ～20020731	東京都港区台場3番2号 昭和シェル石油株式会社 常務取締役　鹿島賢治	・新築時に地下タンク部分発掘調査。 ・建物部分は影響なし。 ・発掘調査(地下タンク部分)	教文埋第315号 20020527
集落跡 南方遺跡	岡山市清心町4番31号	1888	ガソリンスタンド新築	20020604 ～20021210	広島市中区鶴見町4番22号 出光興産株式会社 中国支店長　本田邦良	・発掘調査(地下タンク部分)	教文埋第349号 20020604
生産遺跡(水田) 高屋遺跡・沢田遺跡	岡山市高屋字庄田42-1、太田45-1、一ノ坪土手北114-1	7469.28	店舗建設	20020801 ～20021115	倉敷市堀南704番5 大黒天物産株式会社 代表取締役　大賀昭司	・H13確認調査。建物部分は影響なし。 ・発掘調査(浄化槽)	教文埋第443号 20020619
社寺跡 吉井廃寺	岡山市吉井208	1201.85	病院施設建設	20020915 ～20021231	岡山市吉井208 医療法人仁誠会吉井川病院 理事長　日野八洲行	・立会調査(建物基礎) ・発掘調査(浄化槽)	教文埋第498号 20020701
古墳・城館跡 南坂８号墳ほか	岡山市下足守字隠地1012	約200	土砂採取	20021001 ～20030331	岡山市下足守1723 株式会社林建設 代表取締役　林　健二	・発掘調査	教文埋第549号 20020709
城館跡 岡山城二の丸跡	岡山市丸の内二丁目1-101ほか	312.27	病院施設改築	20021001 ～20041103	岡山市丸の内二丁目1番10号 医療法人社団十全会心臓病センター榊原病院 理事長　榊原　宣	・既存建物撤去時に確認調査実施。包蔵層確認せず。 ・岡山城旧本丸石垣については80条対応。	教文埋第571号 20020716
集落跡・生産遺跡(水田) 高屋遺跡	岡山市高屋字丸田345-1	4974.99	ガソリンスタンド新築	20020816 ～20021130	玉野市用吉1746-1 ペガサス石油株式会社 代表取締役　枠山　環	・発掘調査（地下タンク部分） ・立会調査(浄化槽・整備ピット)	教文埋第640号 20020730
散布地・集落跡 上沼遺跡	岡山市高松原古才字館東481-1	72.87	一般住宅	20020929 ～20030220	個人	立会調査(浄化槽)	教文埋第676号 20020809

遺跡名	所在地	面積(㎡)	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
散布地・社寺跡 山神遺跡・神力寺跡	岡山市一宮1043・1043-2	40532.6	神社参集所新築	20021029 ～20030430	岡山市一宮1043 宗教法人吉備津彦神社 宮司　守分清身	・立会調査	教文埋第822号 20020912
散布地・城館跡 天神山遺跡	岡山市天神町10-106	59.08	一般住宅	20021001 ～20021015	個人	・立会調査	教文埋第897号 20020927
集落跡 津寺遺跡・加茂政所遺跡	岡山市加茂字今市893-4	461.9	宅地造成・一般住宅	20021001 ～20030331	個人	・立会調査	教文埋第904号 20020930
集落跡 津島岡大遺跡	岡山市津島中一丁目、二丁目		ガス管廃止・埋設	20021001 ～20021025	岡山市桜橋二丁目1番1号 岡山ガス株式会社 取締役社長　岡崎　彬	・立会調査	教文埋第916号 20021002
集落跡 津島遺跡	岡山市津島東二丁目1624-3	151.33	集合住宅	20021007 ～20030228	個人	・発掘調査(浄化槽)	教文埋第965号 20021010
散布地・集落跡 中井遺跡	岡山市中井275-1、280		宅地造成・道路新設	20021029 ～20021215	岡山市中島69番地3 有限会社ヤシロ 代表取締役　八代武利	・立会調査	教文埋第1055号 20021106
散布地・集落跡 津島遺跡	岡山市津島東四丁目2559-49、2559-62	71.99	一般住宅	20021130 ～20030412	個人	・立会調査(浄化槽)	教文埋第1057号 20021106
集落跡 津島遺跡	岡山市いずみ町		ガス管新設	20021125 ～20021225	岡山市桜橋二丁目1番1号 岡山ガス株式会社 取締役社長　岡崎　彬	・立会調査	教文埋第1123号 20021114
散布地・集落跡 上伊福遺跡	岡山市伊福町三丁目857-2、863-9、866-5、866-6、866-8	3551.11	集合住宅	20030120 ～20040131	香川県丸亀市宗古町13-1 白川ビル4階 株式会社 和田コーポレーション 代表取締役　和田康博	・以前の試掘調査で河道確認。 ・立会調査	教文埋第1136号 20021119
散布地・集落跡・生産遺跡(水田) 津島遺跡	岡山市学南町二丁目874-1	368.93	集合住宅	20021111 ～20030331	個人	・確認調査で包蔵層確認できず。 ・立会調査	教文埋第1155号 20021121
散布地・集落跡 中井遺跡	岡山市中井447-4	797.21	店舗建替	20021220 ～200305末	岡山市番町二丁目3-4 トマト銀行 取締役社長　吉田忠明	・確認調査で包蔵層確認。建物部分は設計変更により現状保存。 ・発掘調査(浄化槽)	教文埋第1294号 20021219
集落跡 小山馬揃遺跡	岡山市小山字堀530番ほか	346.22	店舗増築	20030217 ～20030317	津山市材木町1328番地の25 株式会社ナンバ 代表取締役　難波　榮	・慎重工事	教文埋第1484号 20030203
散布地・集落跡 中井遺跡	岡山市中井字鍵田22-2、28-1		宅地造成	20030130 ～20030220	個人	・立会調査	教文埋第1504号 20030205
集落跡 北口遺跡	岡山市国府市場字内田1008-1、1008-6、1008-7、1008-8、1008-9、1008-10、1008-11	1115.22	宅地造成	20030121 ～20030331	岡山市下伊福上町2番5号 株式会社藤井組 代表取締役　藤井健司	・立会調査	教文埋第1512号 20030207
散布地 国司遺跡	岡山市吉宗字茶木下439番地の4	116.19	一般住宅	200303頃 ～200305頃	個人	・立会調査	教文埋第1568号 20030218
集落跡 吉備津奥田遺跡	岡山市吉備津字奥田260番4	238.59	一般住宅	20030303 ～200312末	個人	・立会調査	教文埋第1626号 20030304
集落跡 名称未定	岡山市櫛東町二丁目321-1	938.44	宅地造成	20030304 ～20030315	個人	・慎重工事	教文埋第1648号 20030310
集落跡 北口遺跡	岡山市国府市場字内田1007-5、1007-6	257.97	一般住宅	20030520 ～20030831	個人	・立会調査	教文埋第1699号 20030319
集落跡 北口遺跡	岡山市国府市場字内田1007-3、1007-7、1007-8	249.40	一般住宅	20030520 ～20030831	個人	・立会調査	教文埋第1700号 20030319
集落跡 北口遺跡	岡山市国府市場字内田1007-1	185.20	一般住宅	20030520 ～20030831	個人	・立会調査	教文埋第1701号 20030319
集落跡 北口遺跡	岡山市国府市場字内田1007-2、1007-4	175.36	一般住宅	20030520 ～20030831	個人	・立会調査	教文埋第1702号 20030319
集落跡 山神遺跡	岡山市一宮字寺内850番	363.10	一般住宅	20030326 ～20030705	個人	・立会調査	教文埋第1716号 20030324

埋蔵文化財発掘の通知（第57条の３）

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
城館跡 岡山城二の丸跡	岡山市丸の内二丁目8-1番地先～9-11番地先	162.4	上下水道（水道管敷設）	20020520 ～20020731	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　遠藤嘉昭	・立会調査	教文埋第74号 20020411
散布地・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市津島福居二丁目4-20番地先～9-11番地先	34	上下水道（下水道管敷設）	200204下旬 ～20021030	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第75号 20020412
集落跡・生産遺跡（水田） 中井遺跡	岡山市中井163番地先～185番地先	143	上下水道（下水道管敷設）	200204中旬 ～20021227	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第76号 20020412
集落跡 雄町遺跡	岡山市雄町149-1番地先～295-3番地先	107	上下水道（下水道管敷設）	200205中旬 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第78号 20020412
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	150	ガス管埋設	20020513 ～20020530	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第233号 20020510
集落跡 妹尾住田遺跡	岡山市妹尾1039番地先～1184-1番地先	118.6	上下水道（下水道管敷設）	200205下旬 ～20030328	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第244号 20020513
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	394	ガス管埋設	20020601 ～20020830	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第341号 20020603
散布地 可知遺跡	岡山市可知一丁目320-8番地先～386-7番地先	109	上下水道（下水道管敷設）	200205 ～20021227	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第363号 20020606
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	1560	上下水道（病棟新営その他工事）	20020627 ～20021128	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第474号 20020626
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	30	電気設備工事	20020719 ～20020830	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第578号 20020717
集落跡 津島岡大遺跡	岡山市津島中一丁目1番1号	1105	校舎改修	20020703 ～20030319	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・発掘調査	教文埋第755号 20020826
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	20	病棟新営その他工事	20020819 ～20020830	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第751号 20020826
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	2324	ガス管埋設	20020819 ～20021220	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第752号 20020826
その他の遺跡（築堤跡） 高松城水攻め築堤跡（蛙が鼻築堤跡）	岡山市立田797、783	120	公園建設に伴う水路改修	200208下旬 ～20021130	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・発掘調査	教文埋第775号 20020902
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市いずみ町	30	上下水道（下水道人孔埋設）	200210頃 ～200302頃	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・発掘調査	教文埋第818号 20020910
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	178	上下水道（エネルギーセンター新営その他工事）	20020917 ～20020930	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第854号 20020917
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市津島福居二丁目6-30番地先～12-12番地先	64.69	上下水道（下水道管埋設）	200210下旬 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第855号 20020917
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市津島福居二丁目5-14番地先～8-18番地先	36.55	上下水道（下水道管埋設）	200210下旬 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第856号 20020917
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	1550	ガス管埋設	20020919 ～20021220	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第878号 20020920
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	10	ガスメーター移設	20020930 ～20021031	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第920号 20021002
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	10	電気設備工事	20020919 ～20021220	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第915号 20021003
散布地 西大寺門前遺跡	岡山市西大寺門前562-1、563-1	786	公園造成	200211頃 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・慎重工事	教文埋第1011号 20021022
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市学南町二丁目5-31番地先～5-50番地先	358	上下水道（下水道管埋設）	200301旬 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1086号 20021111

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	1200	工事用電柱設置	20021118 ～20021129	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第1119号 20021114
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	10	機械設備工事	20021118 ～20021129	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第1129号 20021113
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	380	樹木移植	20021125 ～20021206	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第1159号 20021122
集落跡・生産遺跡（水田） 中井遺跡	岡山市中井14番地先～47-1番地先	193.87	上下水道（下水道管敷設）	200211中旬 ～20030328	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1175号 20021126
散布地・社寺跡 津島遺跡・名称未定寺院跡	岡山市津島本町18-15番地先～18-32番地先	163	上下水道（下水道管敷設）	200301中旬 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1214号 20021204
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市津島東二丁目1544番地先～津島東三丁目2043番地先	172	上下水道（下水道管埋設）	200301旬 ～20030328	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1245号 20021211
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市津島東四丁目5-2-1番地先～4-7-1番地先	36.55	上下水道（下水道管埋設）	200301旬 ～20030731	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1252号 20021212
城館跡 足守陣屋町遺構	岡山市足守1052番地先～1084番地先	107.76	上下水道（下水道管埋設）	200301旬 ～	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1257号 20021212
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	29	樹木移植	20030114 ～20030228	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第1316号 20021227
集落跡・生産遺跡（水田） 北方遺跡	岡山市学南町三丁目3-3番地先～3-10番地先	67.94	上下水道（下水道管埋設）	200301旬 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1433号 20030123
集落跡 川入遺跡	岡山市川入字大道西199-1、199-2、200、201-1、204-1	208.8	路肩整備	20030128 ～20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1509号 20030207
城館跡 岡山城三之外曲輪跡	岡山市弓之町9-7	5500	学校建設	200310頃 ～200502頃	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・発掘調査	教文埋第1513号 20030207
散布地 津島福居遺跡	岡山市津島本町15-9番地先～16-18番地先	485	上下水道（下水道管敷設）	200303下旬 ～20040130	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1586号 20030226
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	10	グリーンストラップ改修	20030303 ～20030328	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	・立会調査	教文埋第1620号 20030228
集落跡 中井遺跡	岡山市中井203番地先～雄町601-11番地先	332.76	上下水道（下水道管敷設）	200304中旬 ～20040329	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長職務代理者 岡山市助役　菱川公資	・立会調査	教文埋第1690号 20030318
集落跡 雄町遺跡	岡山市雄町161-3番地先～313-7番地先	130.05	上下水道（下水道管敷設）	200304中旬 ～20040329	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長職務代理者 岡山市助役　菱川公資	・立会調査	教文埋第1691号 20030318
城館跡 岡山城二の丸跡	岡山市表町一丁目2-36番地先～6-24番地先	124.56	上下水道（水道管敷設）	20030401 ～20030731	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　遠藤嘉昭	・立会調査	教文埋第1698号 20030319
散布地 津島福居遺跡	岡山市津島本町1地内	880	学校進入道新設	200303 ～20030930	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	・確認調査実施。包蔵層確認できず。 ・立会調査	教文埋第1758号 20030331

埋蔵文化財発掘調査の報告（第58条の２）

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
生産遺跡（水田） 北方上沼遺跡	岡山市学南町二丁目210-1ほか３筆	25	ガソリンスタンド増築	20020606	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主任　柴田英樹	岡市教委文第169号 20020610
集落跡 鹿田遺跡	岡山市東古松１丁目20番1	97.3	電気通信事業用建物（地下油槽）	20020708 ～20020731	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 主任　柴田英樹	岡市教委文第249号 20020722

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
集落跡・官衙跡 川入遺跡	岡山市中撫川436-1ほか	3700	市道中撫川平野線・同2号線建設	20020801 ～20040331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　草原孝典・西田和浩	岡市教委文第282号 20020809
社寺跡 吉井廃寺	岡山市吉井208ほか	約20	病院施設建設（浄化槽）	20020903 ～20020905	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 文化財保護主事　高橋伸二・安川満	岡市教委文第336号 20020906
集落跡・生産遺跡（水田） 高屋遺跡	岡山市高屋字丸田345-1	約100	ガソリンスタンド新築（地下タンク）	20020917	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第364号 20020926
古墳・城館跡 南坂８号墳ほか	岡山市下足守字隠地1012	約200	土砂採取	20020902 ～20020930	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 主任　柴田英樹	岡市教委文第370号 200200927
生産遺跡（水田） 高屋遺跡	岡山市高屋字庄田42-1、太田45-1、一ノ坪土手北114-1	約96	店舗建設（浄化槽）	20020924	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第377号 20020930
集落跡 津島遺跡	岡山市津島東二丁目1624-3	約18	集合住宅（浄化槽）	20021008 ～20021010	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満・西田和浩	岡市教委文第402号 20021010
その他の遺跡（築堤跡） 高松城水攻め築堤跡（蛙が鼻築堤跡）	岡山市立田797、783	120	公園建設に伴う水路改修	20021024 ～20021029	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　高橋伸二	岡市教委文第504号 20021128
城館跡 岡山城三之外曲輪跡	岡山市弓之町9-7	4000	学校建設	20021209 ～20040331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 主任　柴田英樹	岡市教委文第548号 20021226
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市いずみ町	8	上下水道（下水道人孔埋設）	20030214	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　高橋伸二	岡市教委文第633号 20030221
散布地・集落跡 中井遺跡	岡山市中井447-4	約28	店舗建替（浄化槽）	20030129	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第635号 20030221

埋蔵文化財試掘確認調査の報告（第57条・第58条の２）

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	包蔵地の有無	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
集落跡 上伊福遺跡	岡山市伊福町四丁目3-92	4	県立岡山工業高等学校創立100周年記念会館新築	20020430	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第112号 20020507
古墳・城館跡 南坂８号墳ほか	岡山市下足守字隠地1012	20	土砂採取	20020703	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　草原孝典・安川満	岡市教委文第221号 20020708
備前国府関連遺跡	岡山市中井字円済360-2	4	集合住宅	20020924	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第365号 20020926
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市学南町二丁目874-1	4	集合住宅	20021108	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第462号 20021108
散布地・集落跡 高松沼田遺跡	岡山市高松139-5、140-1、140-7、141-1、142-1、142-6、142-7、142-8、143-1、143-8	9	店舗・その他建物（JA高松支所ほか）	20021113	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第462号 20021108
散布地・集落跡 中井遺跡	岡山市中井447-4	4	店舗	20021120	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義	岡市教委文第514号 20021203
集落跡 津島岡大遺跡	岡山市津島中一丁目1番1号	3	本部棟新営その他工事	20021205	有	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 助手　光本　順	岡大企第235号 20030210

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	包蔵地の有無	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
散布地・集落跡 三野遺跡	岡山市三野一丁目2番1号	10	急速ろ過池施設更新	20030106	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第554号 20030107
生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市大和町二丁目727-1	6	集合住宅	20030130	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第593号 20030203
（未周知）	岡山市中井町二丁目1559	4	集合住宅	20030129	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第595号 20030203
（未周知）	岡山市北方一丁目977-1	4	集合住宅	20030224	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第639号 20030225
その他の遺跡（藩学跡） 岡山藩学跡	岡山市蕃山町6番10号	4	学校（校舎改築）	20030303	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義	岡市教委文第653号 20030306
（未周知）	岡山市京山二丁目1387番1、1388番1	4	集合住宅	20020313	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第667号 20030314
散布地 津島福居遺跡	岡山市津島本町地内	6	学校進入道新設	20030320	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡市教委文第667号 20030325

埋蔵文化財発見通知（第59条）・埋蔵文化財監査（第61条）

物件名・数量	発見の場所	発見年月日	発見者	土地所有者	保管場所	文書番号 日付
弥生土器　150箱 土師器　50箱 須恵器　120箱 獣骨　20箱 石器　7箱 鉄滓　3箱 合計　350箱	岡山市赤田188-1	20010618 ～ 20020603	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市土地開発公社 理事長　菱川公資	岡山市埋蔵文化財センター	岡市教委文第156号 20020604
土器　14箱 石器　0.5箱 木器　0.5箱 金属器　0.5箱 土壌サンプル　16箱 合計　31.5箱	岡山市津島中一丁目1番1号	20020624	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡市教委文第209号 200200705
古代・中世土器等　2箱 中世木製品　2箱 合計　4箱	岡山市東古松一丁目20番1号	20020708 ～20020723	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	広島市中区大手町二丁目11番10号 株式会社NTTドコモ中国 代表取締役　戸澤弘男	岡山市埋蔵文化財センター	岡市教委文第255号 20020726
土器　0.3箱 合計　0.3箱	岡山市津島中一丁目1番1号	20021003	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡市教委文第411号 20021016
土器・石器　216箱 木器　10箱 土壌サンプル　69箱 合計　295箱	岡山市鹿田町二丁目5番1号	20021025	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡市教委文第449号 20021105
土器　1箱 合計　1箱	岡山市津島中一丁目1番1号	20021121	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡市教委文第509号 20021129
土器　9箱 石器　5箱 木器　1箱 合計　15箱	岡山市津島中一丁目1番1号	20030115	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡市教委文第574号 20030123
奈良・平安時代瓦片1箱 合計　1箱	岡山市吉井208番地	20020903 ～20020905	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市吉井208 医療法人仁誠会吉井川病院 理事長　日野八洲行	岡山市埋蔵文化財センター	岡市教委文第679号 20030319
弥生後期土器　1箱 合計　1箱	岡山市津島東1624-3	20021008 ～20021010	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	個人	岡山市埋蔵文化財センター	岡市教委文第680号 20030319

記念物現状変更申請（第80条）

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	申請者	対応・指導事項等	文書番号 日　付
史跡 岡山藩主池田家墓所附津田永忠墓	岡山市円山1083番地先ほか		電柱改修	20020601～20020630	岡山市青江二丁目6番51号 中国電力岡山営業所 所長　小野雅樹	・現状景観を著しく損なわないよう注意。	岡市教委文第57号 20020416
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （岡山市賞田地内・中田川）		一時捕獲（渇水期の保護及び観察会）	許可の日～観察会後一週間以内	岡山市賞田126-2 岡山市賞田町内会 会長　服部仁寿	・アユモドキを傷付けることの無いよう注意。	岡市教委文第140号 20020520
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （岡山市中島地内・中原川）		一時捕獲（生息調査）	許可の日～20030630	岡山市鹿田町二丁目4番36号 国土交通省中国地方整備局 岡山河川工事事務所 所長　渡部秀之	・アユモドキを傷付けることの無いよう注意。	岡市教委文第146号 20020528
史跡 岡山藩主池田家墓所附津田永忠墓	岡山市円山1090-1隣地市道	20.8	下水道管埋設	許可の日～20030328	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・工事に際しては、岡山市教育委員会職員（埋蔵文化財担当）の立ち会いを求めること。 ・その他、実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	14委庁財第4の352号 200200628
特別名勝 岡山後楽園	岡山市後楽園1番5号		公共下水道接続工事及び既設浄化槽撤去	許可の日～20020930	岡山市後楽園1番5号 岡山県立博物館 館長　松井新一	・進達するが、県から市の権限委任事項に当たると指示。 ・工事に際しては、岡山市教育委員会職員が立ち会う。 ・現状景観を著しく損なわないよう注意。	岡市教委文第244号 20020722
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目1-101ほか	312.27	病院施設改築	許可の日～20041130	岡山市丸の内二丁目1番10号 医療法人社団十全会心臓病センター榊原病院 理事長　榊原　宣	・指定範囲の旧本丸石垣の埋没部分（指定外）に影響を与える可能性があるとして県の指導で申請を提出。 ・文化庁から指定範囲外であり許可事項でないと指導。 ・旧本丸石垣（埋没部分）は試掘結果を基に設計変更で保存。	
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目9番1号		仮設物設置	許可の日～20041130	岡山市丸の内二丁目1番10号 医療法人社団十全会心臓病センター榊原病院 理事長　榊原　宣	・現状景観を著しく損なわないよう注意。 ・許可後、県からプレハブは工作物ではなく建築物であるため権限委任事項にあたらないと指導。	岡市教委文第292号 20020820
特別天然記念物 タンチョウ	（岡山県）		繁殖に伴う移動	許可の日～許可後90日以内	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	14委庁財第4の548号 20020826
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず		一時捕獲（生息調査）	許可の日～20030331	岡山市鹿田町二丁目4番36号 国土交通省中国地方整備局 岡山河川工事事務所 所長　渡部秀之	・アユモドキを傷付けることの無いよう注意。	岡市教委文第302号 20020827
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目3番901ほか		仮設物（菊展示用テント）設置	20021010～20021122	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・遺構等を破損することのないよう注意。	岡市教委文第323号 20020906
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （岡山市祇園地内・祇園用水）		保護のための一時捕獲	許可の日～20030331	岡山市弓之町6-1 岡山県岡山地方振興局 局長　山田宗志	・アユモドキを傷付けることの無いよう注意。	岡市教委文第340号 20020911
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	350	発掘調査（北池・南池内の確認調査）	許可の日～20030331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	14委庁財第4の454号 20020920
特別名勝 岡山後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園1番5号	2.8	地中ケーブル埋設	20020930～20021130	岡山市青江二丁目6番51号 中国電力岡山営業所 所長　小野雅樹	・掘削工事に際しては、岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会の埋蔵文化財担当職員の立会を求めること。 ・その他、実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	14委庁財第4の678号 20020920
特別名勝 岡山後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園1番5号		下水管布設及び圧送用ポンプ設備整備	許可の日～20030331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・現状景観を著しく損なわないよう注意。 ・岡山県教育委員会、岡山市教育委員会と協議の上、立会調査実施。	岡市教委文第387号 20021016

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	申請者	対応・指導事項等	文書番号 日　付
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （古田樋尻川中流部）		護岸改修に伴う保護のための一時捕獲	許可の日～ 20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・護岸の設計をアユモドキの生息に適したものに変更。 ・アユモドキを傷付けることの無いよう注意。 ・アユモドキを捕獲・保護した場合は速やかに安全な場所に放流。	岡市教委文第 422号 20021023
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （岡山市国府市場地内）		樋底部復旧に伴う保護のための一時捕獲	許可の日～ 200212中旬	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・アユモドキを傷付けることの無いよう注意。 ・アユモドキを捕獲・保護した場合は速やかに安全な場所に放流。	岡市教委文第 440号 20021031
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （岡山市祇園618番地先）		電動樋門設置に伴う保護のための一時捕獲	許可の日～ 20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・アユモドキを傷付けることの無いよう注意。 ・アユモドキを捕獲・保護した場合は速やかに安全な場所に放流。	岡市教委文第 439号 20021030
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目3番901ほか		史跡整備及び付帯工事	許可の日～ 20060331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・掘削工事に際しては、岡山市教育委員会の埋蔵文化財担当職員の立会を求めること。 ・その他、実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	14委庁財第4の 1030号 20021220
特別名勝 岡山後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園1番5号	約10	鶴見橋歩道橋新設	許可の日～ 20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・掘削工事に際しては、岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会の埋蔵文化財担当職員の立会を求めること。 ・その他、実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	14委庁財第4の 1029号 20030117
史跡 造山古墳	岡山市新庄下996-3	9.8	石棺保護施設設置	許可の日～ 20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	・遺構等を破損することのないよう注意。	岡市教委文第 614号 20030213
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町1番1号		仮囲い設置	許可の日～ 20030630	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘		岡市教委文第 626号 20030219
史跡 高松城跡附水攻築堤跡	岡山市立田797ほか		史跡と隣接する公園整備	許可の日～ 20030331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・指定地内に掘削工事が及ばないよう協議。 ・掘削部分については発掘調査済み。	岡市教委文第 676号 20030317
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目3番909		イベント用看板設置	許可の日～ 20031031	岡山市駅前町二丁目1番7号 西日本旅客鉄道株式会社岡山支社営業課長　森本卓壽	・掘削、埋設を伴わない構造に変更するよう指示。	岡市教委文第 677号 20030318
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目3番909		記念植樹及びタイムカプセル設置	許可の日の翌日	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長職務代理者 岡山市助役　菱川公資	・築山部分のため遺構への影響なし。	岡市教委文第 685号 20030320

その他の届出・申請等

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	通知者等	対応・指導事項等	文書番号 日　付
岡山県文化財保護条例第３５条第１項							
岡山県重要文化財 吉備津神社回廊	岡山市吉備津字吉備中山931-1		転結建物改修に伴う変更	20021015～ 20030430	岡山市吉備津931 宗教法人吉備津神社 代表役員宮司　藤井　敬		岡山県教育委員会指令教文保第529号 20020703
岡山県史跡 浄土寺	岡山市湯迫699		石造三重塔移設	許可の日以降	岡山市湯迫699 宗教法人浄土寺 代表役員　枝川　陽		岡山県教育委員会指令教文保第777号 20020902
岡山県重要文化財 吉備津神社回廊	岡山市吉備津字吉備中山931-1		転結建物改修に伴う変更（追加工事）	20021015～ 20030430	岡山市吉備津931 宗教法人吉備津神社 代表役員宮司　藤井　敬		岡山県教育委員会指令教文保第1073号 20021108

Ⅳ　資料紹介と研究ノート

岡山市南方（済生会）遺跡出土土器付着物の^{14}C年代測定
小林謙一・春成秀爾・坂本　稔
今村峯雄・松崎浩之・扇崎　由
政田民俗資料館の収蔵資料２　門叩き
安倉清博

岡山市南方(済生会)遺跡出土土器付着物の^{14}C年代測定

小林謙一・春成秀爾・坂本　稔・今村峯雄・松崎浩之・扇崎　由

1　はじめに

岡山市南方(済生会)遺跡出土の弥生土器に付着した炭化物の^{14}C年代測定を試みた。試料記号はＯＫＭとした。ＯＫは岡山、Ｍは南方の意味である。

今回、20点の弥生土器から測定用の炭化物を採取し、測定可能な炭素量が見込まれる14点を処理したが、ＯＫＭ１と、ＯＫＭ３、ＯＫＭ９は充分な炭素量が回収できず、11点について^{14}C年代を得た。なお、ＯＫＭ６については、内面と外面の２試料を測定した。測定を試みた試料は、第１表および第１図に示す。以下に、処理方法、測定及び暦年較正を報告する。

第１表　対象試料一覧

No.	試料処理状況	出土区	部位	時代	型式
OKM 9	AAA処理	SD162下層	口縁・外	弥生前期	第１様式
OKM 3	AAA処理	SD163	口縁・外	弥生前期末葉	第１様式新
OKM 12	AAA処理	SD162上層	口縁・外	弥生前期末葉	第１様式新
OKM 5	AAA処理	SD163	口縁・外	弥生前期末葉	第１様式末
OKM 14	AAA処理	SD162上層	胴・外	弥生中期初頭	第２様式(高田式)
OKM 11	ターゲット充填	SD162下層	胴・外	弥生中期前葉	第２様式(新)
OKM 17	AAA処理	河•中•1	胴・内	弥生中期前半	第２・３様式相当
OKM 13	AAA処理	SD162上層	胴・外	弥生中期中葉	第３様式(古)
OKM 4	AAA処理	SD163	口縁・外	弥生中期中葉	第３様式(古)
OKM 8	AAA処理	河•中•2有機質土	口縁・外	弥生中期中葉	第３様式
OKM 7	AAA処理	河•中•2有機質土	胴・外	弥生中期中葉	第３様式
OKM 6	二酸化炭素	河•中•2有機質土	胴・外	弥生中期中葉	第３様式
OKM 6ad	AAA処理	河•中•2有機質土	胴・内	弥生中期中葉	第３様式
OKM 20	ターゲット充填	河道3上層	胴・外	弥生中期中葉	第３様式

2　炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。すべての試料の(１)の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林が行った。第１表の試料の処理状況は、国立歴史民俗博物館で行った処理の状況で、この状態のものを測定機関に委託した。ＯＫＭ６は、(２)の作業を、ＯＫＭ11・20は、(２)(３)の作業を坂本が行い、他の試料の(２)(３)は、地球科学研究所を通してベータアナリティック社へ委託した。

(１)前処理：有機溶媒による油脂成分等の除去、酸・アルカリ・酸による化学洗浄(AAA処理)。

まずアセトンに浸け振盪(しんとう)し、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(２回)。AAA処理として、80℃、各１時間で、希塩酸溶液(1N-HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去(２回)し、さらにアルカリ溶液(0.1N-NaOH)でフミン酸等を除去する。３～４回処理を行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに充分(180分)酸処理を行い中和後、水により洗浄した(４回)。各試料は、採集した総重量(第２表の採取量(mg)以下同じ)、AAA前処理を行った量(処理量)、前処理後回収した量(回収量)、二酸化炭素化精製に供した量(精製)、二酸化炭素の炭素相当量(ガス)を、それぞれ第２表に示す。通常は、基本的に前処理した試料の半分を精製しているが、これらの場合試料が少なく、ほとんど全量を処理した。前処理のうち、最初のアルカリ溶液を保存してある。

(2)二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を酸化(二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。
(3)グラファイト化：鉄(またはコバルト)触媒のもとで水素還元しグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともにバイコールガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

1.5mgのグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともにバイコールガラス管に封じた。これを電気炉で650℃で12時間加熱してグラファイトを得た。管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに60kgfの圧力で充填した。

3. 測定結果と暦年の較正

AMSによる^{14}C測定は、OKM11・20は、^{14}C標準試料(NIST)とともに、東京大学原子力研究総合センターのタンデム加速器施設(MALT、機関番号MTC)で行った。その他については、地球科学研究所を通してベータアナリティック社(測定機関番号Beta)へ委託した。

第2表　試料の重量・炭素含有率

№OKM	試料の重量(mg) 採集	処理	回収	含有率1(%)	状態	精製用	ガス*	含有率2(%)	含有率3(%)	
1	13	13	0.00	0.0	m多没	-	-	-	-	4)
3	17	17	1.47	8.4	m微	-	-	-	-	
3ad	9	9	0.98	11.5	m微	-	-	-	-	4)
4	61	49	10.48	21.6	良	3.80	2.04	53.7	11.6	3)
5	124	63	7.79	12.4	良	3.00	2.68	89.3	11.0	3)
6	195	21	2.20	10.3	m微量	1.06	0.65	61.3	6.3	1)
6ad	47	32	2.11	6.6	良	1.90	1.07	56.3	3.7	3)
7	167	60	11.13	18.6	良	2.40	1.34	55.8	10.4	3)
8	271	94	44.74	47.6	良	7.70	5.25	68.2	32.5	3)
9	37	23	1.11	4.8	m多没	-	-	-	-	
9re	14	14	0.16	1.1	m微	-	-	-	-	4)
11	66	22	3.56	15.8	m微	2.59	1.48	57.1	9.0	2)
12	73	42	10.40	24.8	良	3.40	2.04	59.9	14.8	3)
13	44	36	2.38	6.7	m微	2.00	1.07	53.5	3.6	3)
14	114	73	44.31	60.7	良	5.00	3.05	61.1	37.1	3)
17	89	58	39.01	67.3	良	6.90	3.21	46.6	31.3	3)
20	154	23	1.00	4.4	少ない	-	-	-	-	
20re	132	70	9.96	14.2	良	4.63	2.29	49.5	7.0	2)

註) reは試料の残量から再処理、adは新たに追加採取して再処理。mはミネラル。ガス*は、二酸化炭素ガス圧からの炭素換算量(mg)。
含有率1は回収量／処理量、含有率2はガス相当量／精製用重量、含有率3は含有率1*含有率2。
右欄外の1)は、処理(1)を小林、(2)を坂本、(3)をベータアナリティック社、2)は(1)を小林・(2)(3)を坂本、3)は(1)を小林・(2)(3)をベータアナリティック社、4)は、調整・測定は保留した。

年代データの^{14}C BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した^{14}C年代(モデル年代)であることを示す(BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では^{14}CBPとする)。^{14}Cの半減期は国際的に5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差(1標準偏差、68%信頼限界)である。

ＡＭＳでは、グラファイト炭素試料の^{14}C/^{12}C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した^{13}C/^{12}C比により、^{14}C/^{12}C比に対する同位体効果を調べ補正する。ベータアナリティック社は十分な炭素量がある場合、^{13}C用ガス試料を質量分析計により測定した^{13}C/^{12}C比の値を示してある。^{13}C/^{12}C比は、標準体(古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの^{13}C/^{12}C比)偏差値に対する千分率δ^{13}C(パーミル, ‰)で示され、この値を-25‰に規格化して得られる^{14}C/^{12}C比によって補正する。補正した^{14}C/^{12}C比から、^{14}C年代値(モデル年代)が得られる(英語表記ではConventional Ageとされることが多い)。

測定値を較正曲線INTCAL98(暦年代と^{14}C年代を暦年代に修正するためのデータベース、1998年版)(Stuiver,M.,et.al. 1998)と比較することによって実年代(暦年代)を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いている。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦calBCで示す。()内は推定確率である。図は、各試料の暦年較正の確率分布である。

第3表　測定結果

測定機関番号	試料番号	炭素年代^{14}C BP δ^{13}C‰	(補正値)	暦年較正cal BC(2σ)(%)は確率		
Beta178711	OKM 12	-25.2	2320±40	500-460 4.3%	450-430 1.8%	420-420 0.5%
				410-350 63.7%	310-300 1.2%	
Beta178708	OKM 5	-26.6	2260±30	390-340 35.6%	310-220 55.0%	220-200 4.8%
Beta178712	OKM 14	-26.3	2310±30	470-460 0.8%	440-440 0.5%	410-340 61.2%
				310-220 30.8%	220-200 2.0%	
MTC03615	OKM 11	-27.3	2215±30	370-190 95.2%		
Beta178713	OKM 17	-11.3	2170±30	350-270 43.5%	260-230 7.6%	230-140 40.9%
				130-110 2.9%		
Beta187231	OKM 13	-27.7	2360±40	750-680 10.4%	530-520 2.7%	520-360 81.1%
				260-260 0.8%		
Beta187233	OKM 4	-26.3	2340±40	750-720 2.7%	710-700 0.8%	530-530 0.5%
				520-350 83.3%	280-250 6.3%	
Beta178710	OKM 8	-26.6	2230±30	380-330 22.5%	320-200 72.1%	
Beta178709	OKM 7	-27.3	2210±30	370-260 58.9%	260-190 34.7%	180-180 1.2%
Beta183450	OKM 6	-26.6	2720±40	960-960 1.6%	930-800 93.8%	
Beta187232	OKM6ad	-22.7	2630±40	890-870 5.2%	860-840 2.5%	840-760 86.6%
				670-670 0.9%		
MTC03793	OKM 20	-35.6	2320±60	750-690 5.1%	530-520 1.5%	520-200 88.4%

註) MTCのδ^{13}Cは、加速器による測定、Betaは質量分析計により測定。
260-260cal BCは、260-255cal BCの暦年較正年代であることを示す。

4　年代的考察

暦年較正年代を、時期別に検討する。ＯＫＭ６については、外面付着物で他に比べて明らかに古い年代が測定されたため、ＯＫＭ６adとして、内面付着物を追加採取し測定したが、外面とほぼ同様の測定結果となった。ＯＫＭ６が、古く測定された原因については、炭素含有率は特に異常とは認められず、付着物としては他の試料と同様な煮焦げと考えられる。δ^{13}C値をみると、ＯＫＭ６adではやや大きく、海産物の煮焦げである可能性もあり、その場合海洋リザーバー効果により古い年代が測定された可能性もある。海洋リザーバー効果については、不明な点も多く、今後、検討していきたい。

紀元前750－ 400cal ＢＣ年頃(cal ＢＣ以下略)、炭素年代で2450^{14}ＣＢＰ頃は、炭素濃度の変化に乏しく、年代の上では「2400年問題」と呼ぶ、暦年代を絞りにくい問題をかかえている。南方遺跡での前期末であるＯＫＭ３・12・５の測定結果は、この期間にはかかっておらず、近畿・九州地方の弥生時代前期よりは新しい弥生時代中期に並行する前400年以降(春成ほか2003)である可能性が極めて高い。弥生時代中期初めの土器群が測定されている年代は、「2200年問題」といわれることもある較正曲線が大きく逆行する年代にあたり、その暦年較正年代は前390－前350年頃の暦年と前290－前230年頃の暦年が同程度の確率密度となる。

南方遺跡での今回の測定結果を見ると、第1様式に属するＯＫＭ12は、前410－前350年、第1様式末にあたるＯＫＭ５はやや新しく前390－前340年または前310－前220年に含まれる可能性が最も高い。中期初頭と位置づけられるＯＫＭ14は、前410－前340年に含まれる可能性が最も高い。

第２様式新期と位置づけられるＯＫＭ11は前370－前190年、第３様式古期と位置づけられるＯＫＭ４は、前520－前350年、同じくＯＫＭ13は、前520－前360年に含まれる可能性が高い。

第３様式の新しい様相を持つ土器群では、ＯＫＭ７が、前370－前190年とやや新しく、ＯＫＭ８が前380－前200年とやや古い範囲を示すが、これだけからは土器の新旧は推定できない。なお、ＯＫＭ20は、誤差範囲が大きいため、前520－前200年前と、大きな年代幅を示す。しかし、この３点の重複する範囲で年代を絞り込むと、これらの土器群は、前370年以降前200年までの範囲に含まれる可能性が極めて高いということができる。

今回の測定結果と土器の型式的な相対序列を加味して考える。

ＯＫＭ12→５→14→11→４・13→６・７・８・20の位置づけが正しく、かつ各付着物が土器の使用時に付着した植物質食料残滓で、その年代が製作時に近いと仮定すると、第１様式末は、紀元前390年から350年の間に含まれることは、高い確率で確かといえる。近畿地方の他の遺跡での第１様式の土器付着物の測定例からみて、第１様式のほとんどの部分が、いわゆる「2400年問題」の範囲、すなわち紀元前380～390年以前に収まっていることが確実なので、南方遺跡の第１様式末の土器付着物の年代は、紀元前390年に近い可能性が強いと考える。

第２様式初めは、当然ながらその紀元前390年よりは新しく、340年までの間である可能性が高い。第２様式と第３様式の境は、「2200年問題」の較正曲線の波があるため推定しにくいが、少なくとも前300年代後半以降前200年代半ばまで頃の間に求められることは動かしにくい。

第３様式の下限を定めることも、今回の測定例のみでは不可能である。しかし少なくとも第３様式の新しい様相をもつと考えられる土器が、前300年代後半以降おそらくは前300年代末以降で前200年代の幅の中に収まることは、きわめて確率が高いといえる。

なお、南方遺跡出土木材の年輪年代を1996年に光谷拓実氏(奈良文化財研究所)が測定している。それによると、第３様式土器に伴出したヒノキの建築板材２点の年代は前243年と前248年であった。前248年を示した板材は辺材が一部残っており、伐採年に比較的近い年代と推定されている。

なお、南方遺跡では年輪年代が前270年と測定されたヒノキの杭１点は、打ちこんだ状態で見つかったので、厳密な時期について明言できないけれども第３様式または第４様式期の可能性がある。

今回、^{14}Ｃ年代を測定した第３様式の年代は、前300年代後半から前200年までの範囲に収まっているので、年輪年代と^{14}Ｃ年代とは整合的な関係にあると判断される。

この分析は、日本学術振興会科学研究費　平成14・15年度基盤研究(A・1)(一般)「縄文時代・弥生時代の高精度年代体系の構築」(課題番号13308009)の成果を用いている。

参考文献

岡山市教育委員会　1996『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1994(平成6)年度』
岡山市教育委員会　1997『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1995(平成7)年度』
春成秀爾・藤尾慎一郎・今村峯雄・坂本稔　2003「弥生時代の開始年代　－14C年代の測定結果について-」『日本考古学境界第69回総会』研究発表要旨　日本考古学協会　65-68
Stuiver,M.,et.al. 1998 INTCAL98 Radiocarbon age calibration,24,000-0 cal BP.Radiocarbon 40 (3),1041-1083.

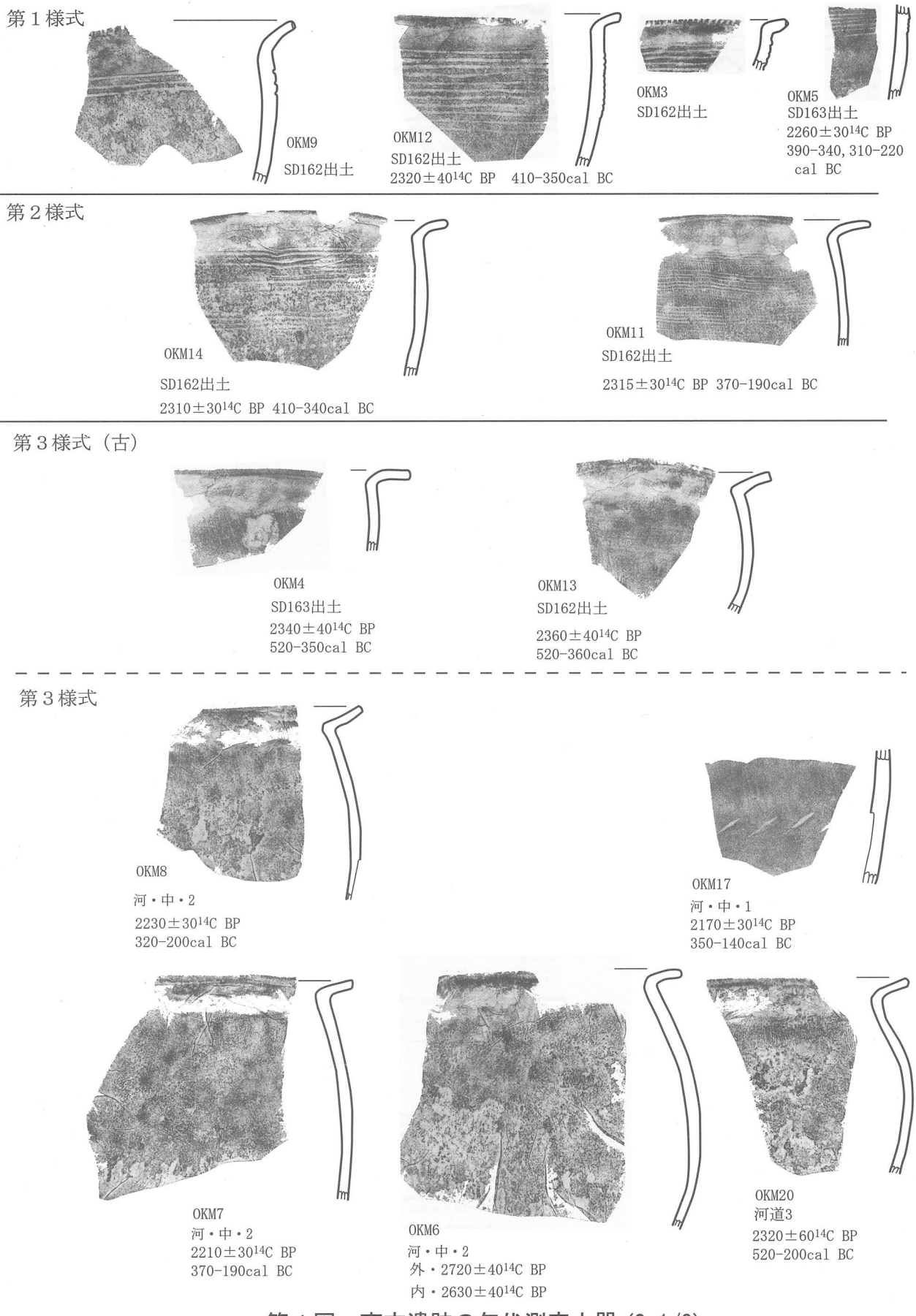
(文責：小林・春成)

小林：総合研究大学院大学博士後期課程日本歴史研究専攻
春成：国立歴史民俗博物館考古研究部
今村・坂本：国立歴史民俗博物館情報資料研究部
松崎：東京大学原子力研究総合センター・タンデム加速器研究部門
扇崎：岡山市埋蔵文化財センター

付表　**年輪年代測定結果**

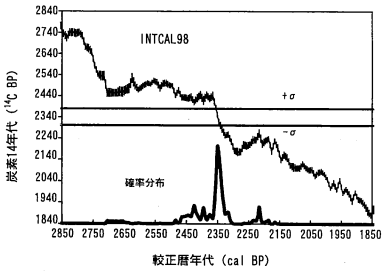
木材(樹種)	測定年代	土器編年
建築板材(ヒノキ)	紀元前243年	第3様式
建築板材(ヒノキ)	紀元前248年	第3様式
杭(ヒノキ)	紀元前270年	

『南方(済生会)遺跡発掘調査現地説明会資料』1996　から



第１図　南方遺跡の年代測定土器（S=1/3）

OKM4 2340 ± 40



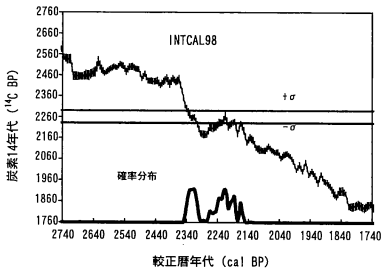
解析結果

t_{median} = 2350 cal BP

95% range

750 cal BC ～	720 cal BC	(2.7%)
710 cal BC ～	700 cal BC	(0.8%)
530 cal BC ～	530 cal BC	(0.5%)
520 cal BC ～	350 cal BC	(83.3%)
280 cal BC ～	250 cal BC	(6.3%)

OKM5 2260 ± 30



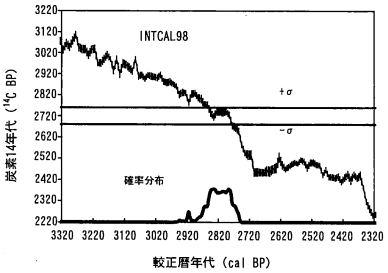
解析結果

t_{median} = 2240 cal BP

95% range

390 cal BC ～	340 cal BC	(35.6%)
310 cal BC ～	220 cal BC	(55.0%)
220 cal BC ～	200 cal BC	(4.8%)

OKM6 2720 ± 40



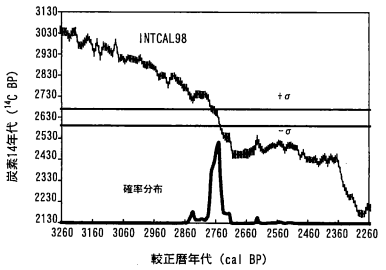
解析結果

t_{median} = 2820 cal BP

95% range

960 cal BC ～	960 cal BC	(1.6%)
930 cal BC ～	800 cal BC	(93.8%)

OKM6ad 2630 ± 40



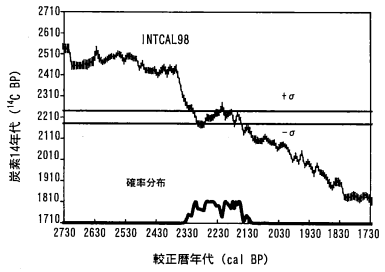
解析結果

t_{median} = 2760 cal BP

95% range

890 cal BC ～	870 cal BC	(5.2%)
860 cal BC ～	840 cal BC	(2.5%)
840 cal BC ～	760 cal BC	(86.6%)
670 cal BC ～	670 cal BC	(0.9%)

OKM7 2210 ± 30



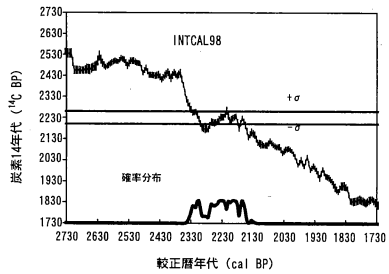
解析結果

t_{median} = 2230 cal BP

95% range

370 cal BC ～	260 cal BC	(58.9%)
260 cal BC ～	190 cal BC	(34.7%)
180 cal BC ～	180 cal BC	(1.2%)

OKM8 2230 ± 30



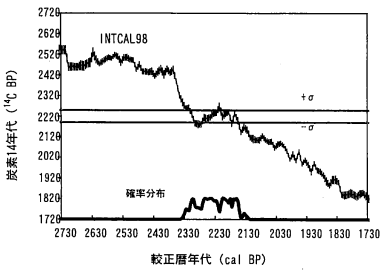
解析結果

t_{median} = 2230 cal BP

95% range

380 cal BC ～	330 cal BC	(22.5%)
320 cal BC ～	200 cal BC	(72.1%)

OKM11 2220 ± 30



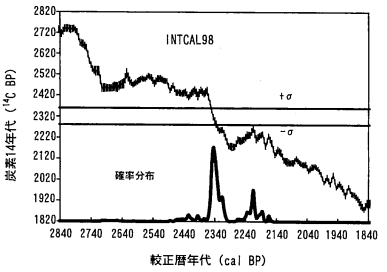
解析結果

t_{median} = 2230 cal BP

95% range

370 cal BC ～	190 cal BC	(95.2%)

OKM12 2320 ± 40



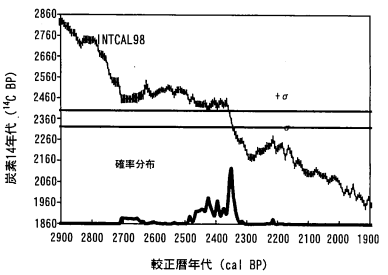
解析結果

t_{median} = 2340 cal BP

94% range

500 cal BC ～	460 cal BC	(4.3%)
450 cal BC ～	430 cal BC	(1.8%)
420 cal BC ～	420 cal BC	(0.5%)
410 cal BC ～	350 cal BC	(63.7%)
310 cal BC ～	300 cal BC	(1.2%)

OKM13 2360 ± 40



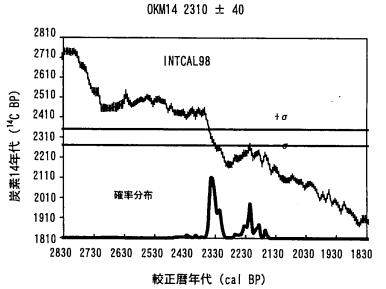
解析結果

t_{median} = 2400 cal BP

95% range

750 cal BC ～	680 cal BC	(10.4%)
530 cal BC ～	520 cal BC	(2.7%)
520 cal BC ～	360 cal BC	(81.1%)
260 cal BC ～	260 cal BC	(0.8%)

OKM14 2310 ± 40



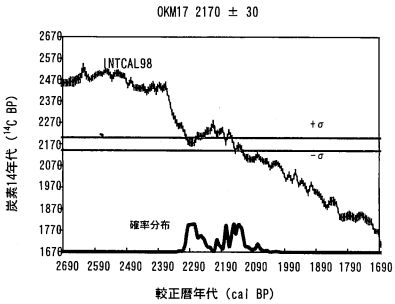
解析結果

t_{median} = 2330 cal BP

95% range

470 cal BC ～	460 cal BC	(0.8%)
440 cal BC ～	440 cal BC	(0.5%)
410 cal BC ～	340 cal BC	(61.2%)
310 cal BC ～	220 cal BC	(30.8%)
220 cal BC ～	200 cal BC	(2.0%)

OKM17 2170 ± 30



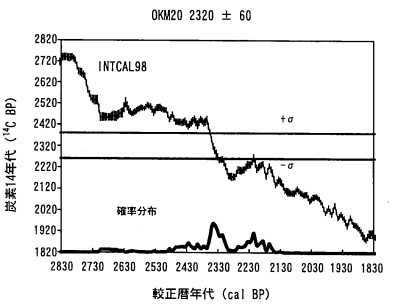
解析結果

t_{median} = 2190 cal BP

95% range

350 cal BC ～	270 cal BC	(43.5%)
260 cal BC ～	230 cal BC	(7.6%)
230 cal BC ～	140 cal BC	(40.9%)
130 cal BC ～	110 cal BC	(2.9%)

OKM20 2320 ± 60

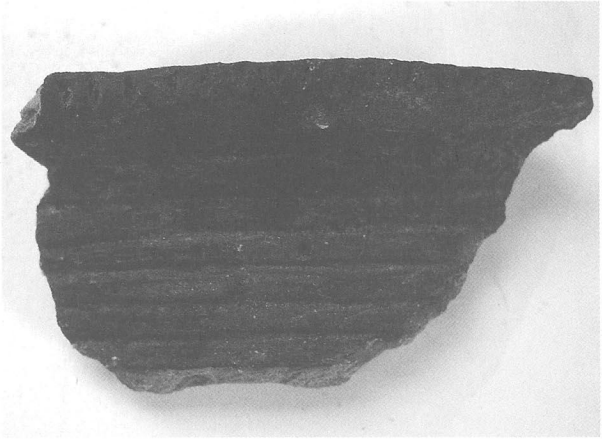


解析結果

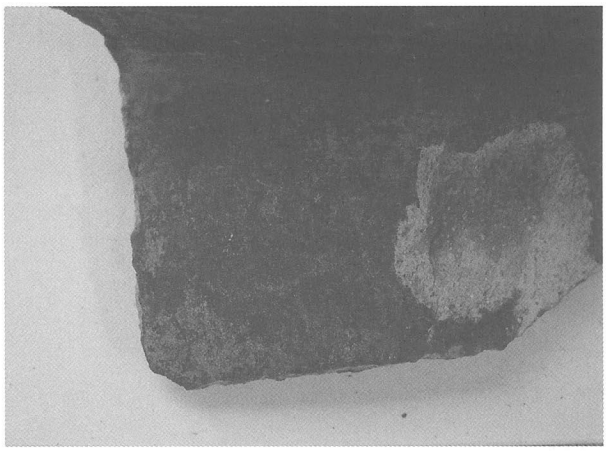
t_{median} = 2330 cal BP

95% range

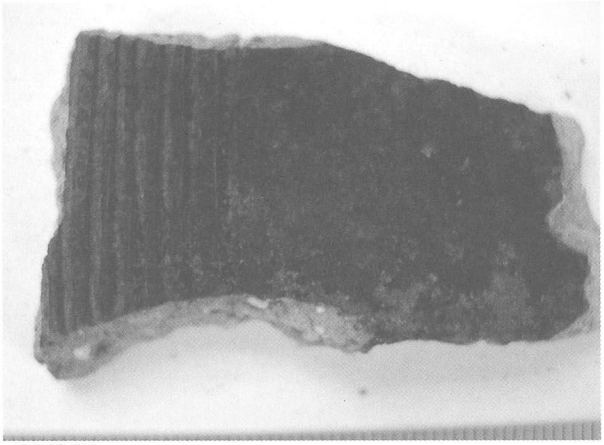
750 cal BC ～	690 cal BC	(5.1%)
530 cal BC ～	520 cal BC	(1.5%)
520 cal BC ～	200 cal BC	(88.4%)



OKM3

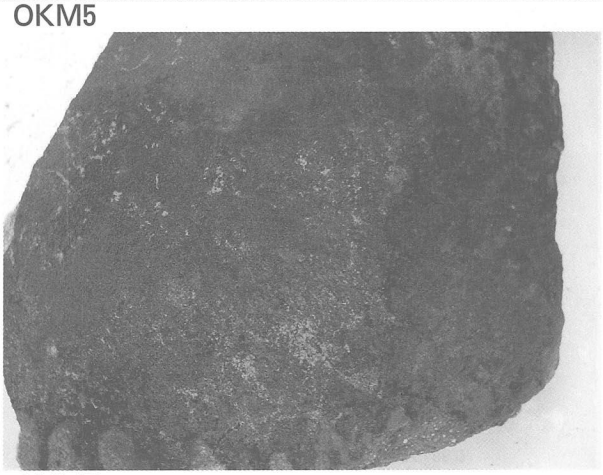


OKM4

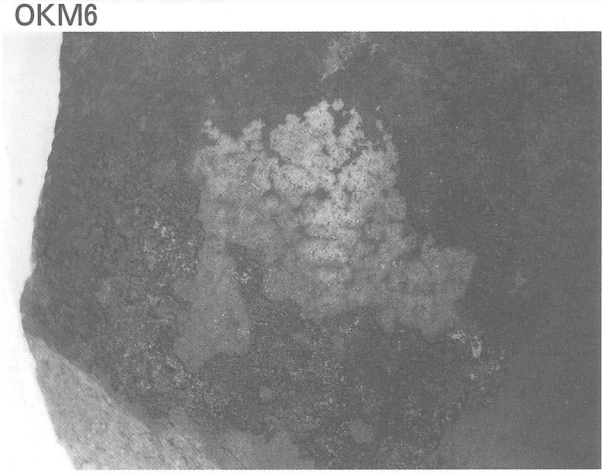


OKM5

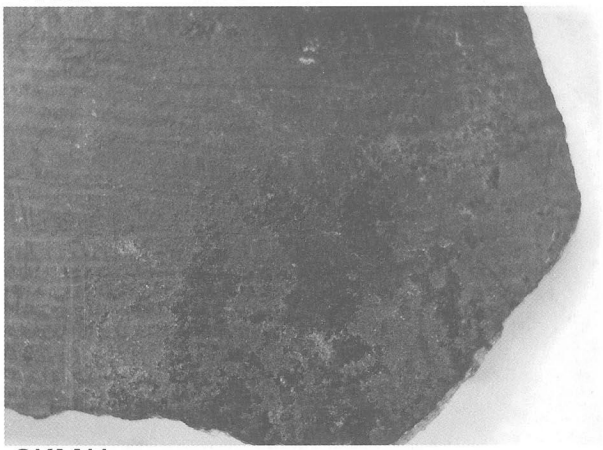
OKM6



OKM7



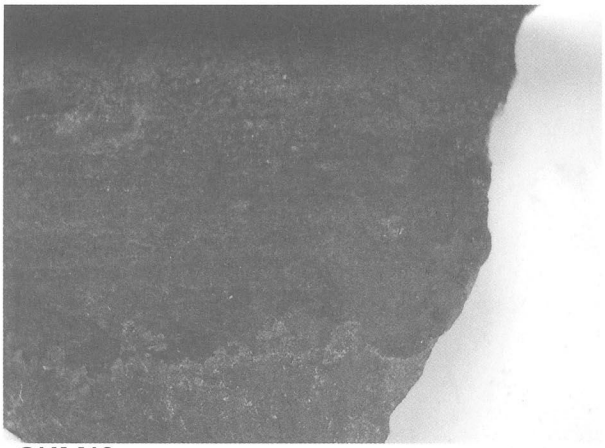
OKM8



OKM11

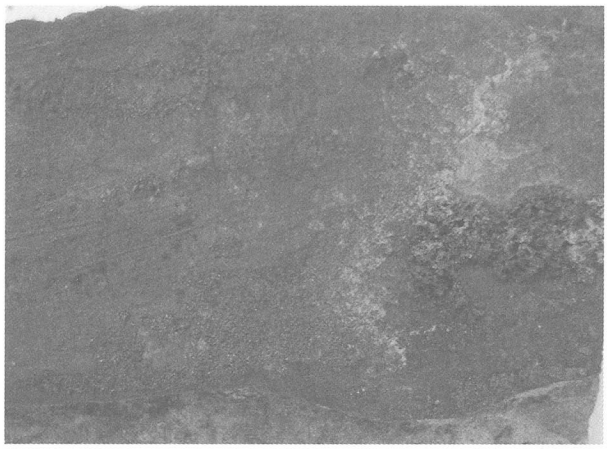
OKM12

写真1　南方遺跡出土土器炭化物付着状態



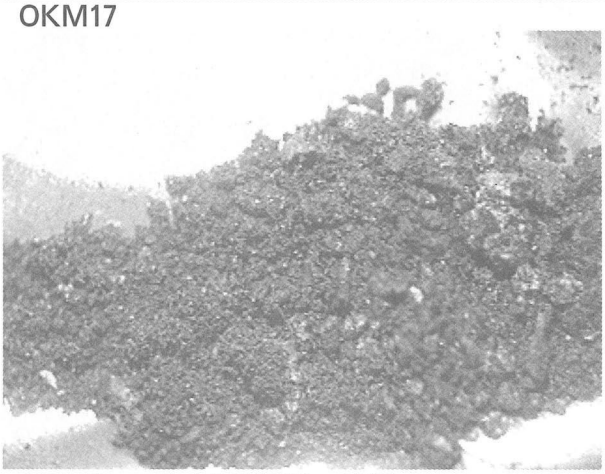
OKM13

OKM14

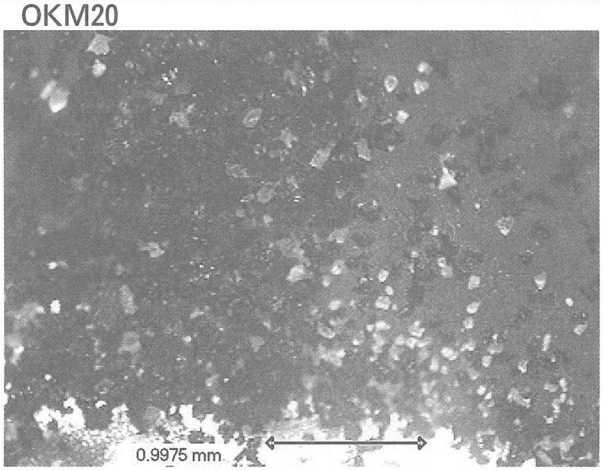


OKM17

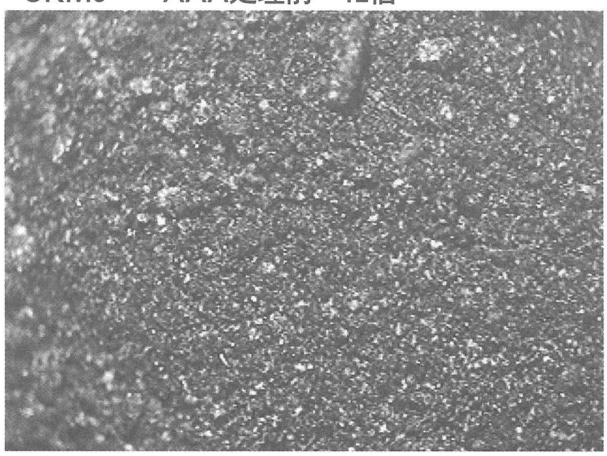
OKM20



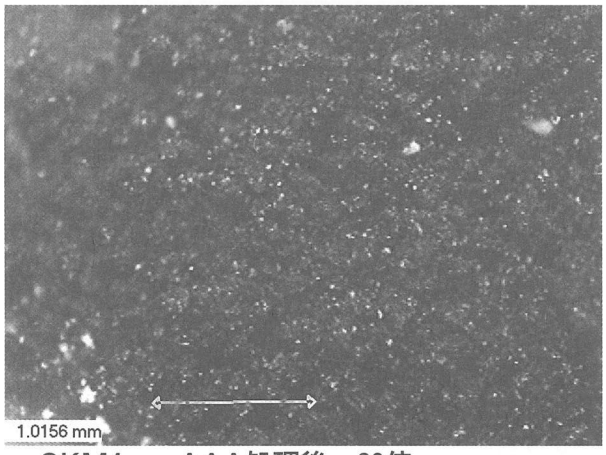
OKM3　　AAA処理前　12倍



OKM3　　AAA処理後　21倍

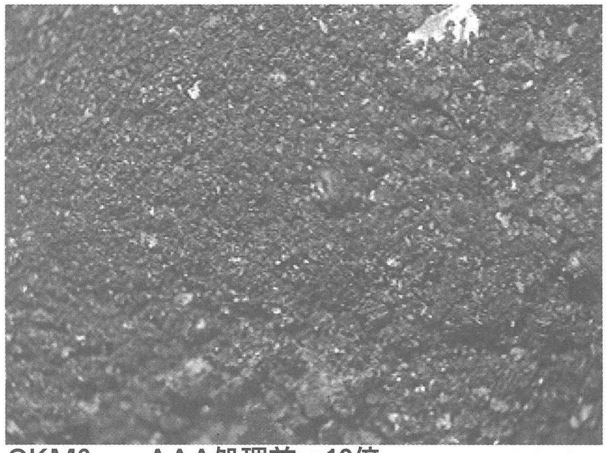


OKM4　　AAA処理前　12倍

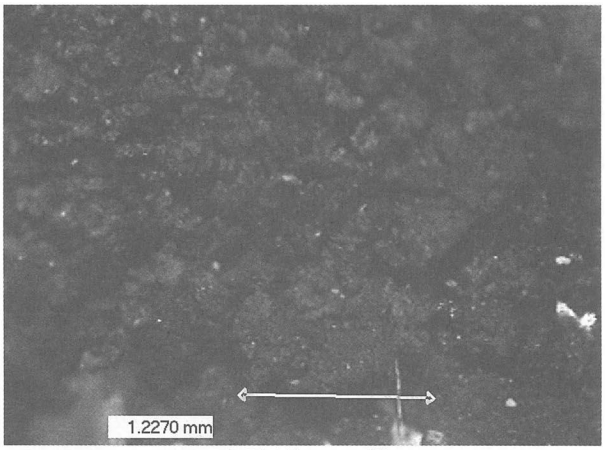


OKM4　　AAA処理後　20倍

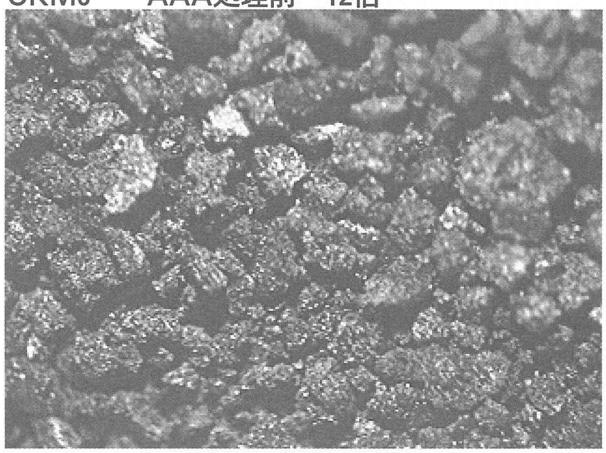
写真2　南方遺跡出土土器炭化物付着状態・炭化物拡大写真



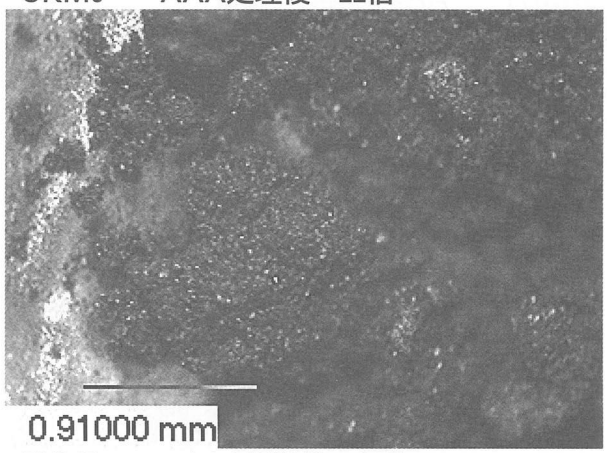
OKM6　　AAA処理前　12倍



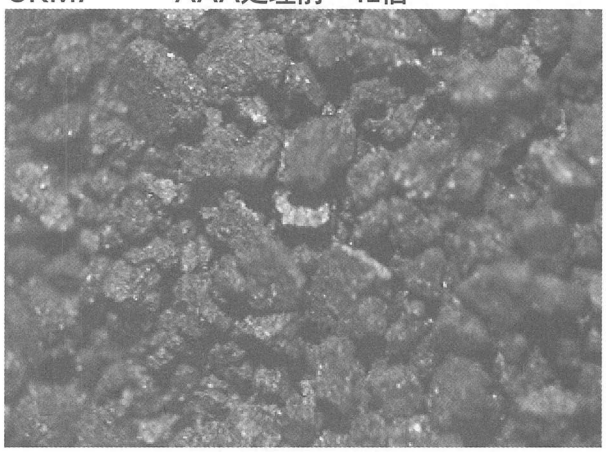
OKM6　　AAA処理後　22倍



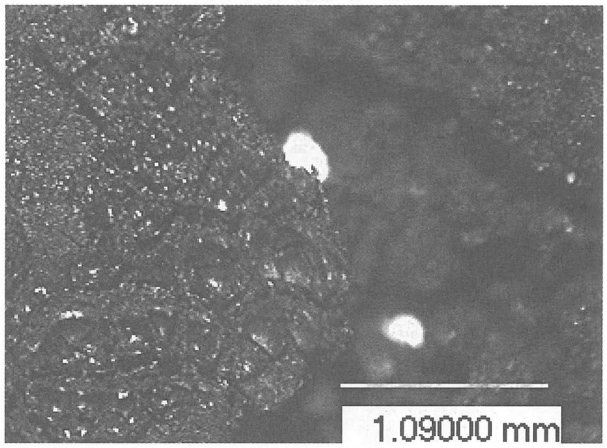
OKM7　　AAA処理前　12倍



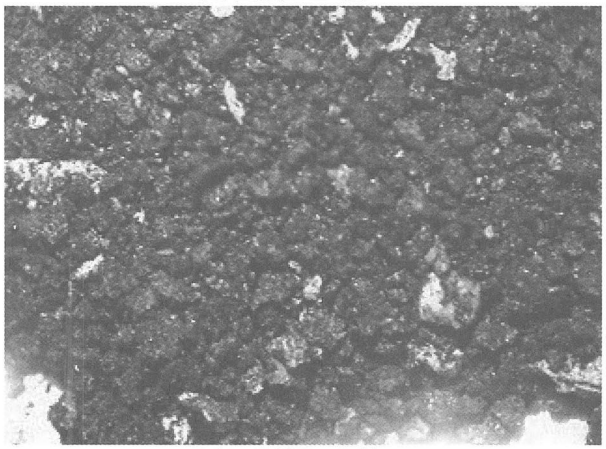
OKM7　　AAA処理後　24倍



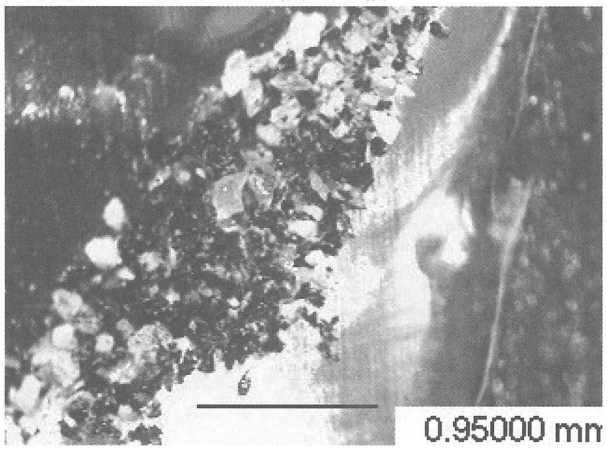
OKM8　　AAA処理前　12倍



OKM8　　AAA処理後　24倍

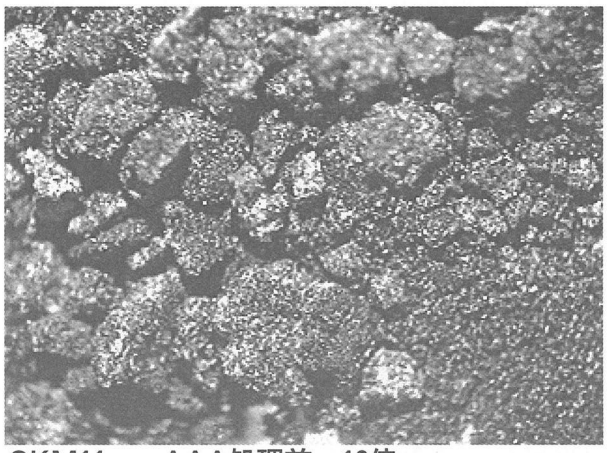


OKM9　　AAA処理前　12倍

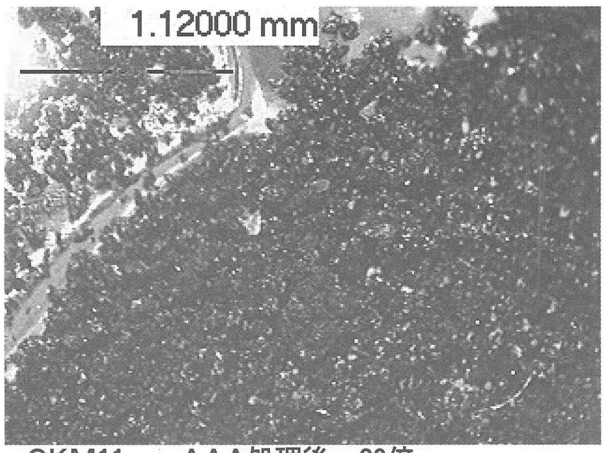


OKM9　　AAA処理後　24倍

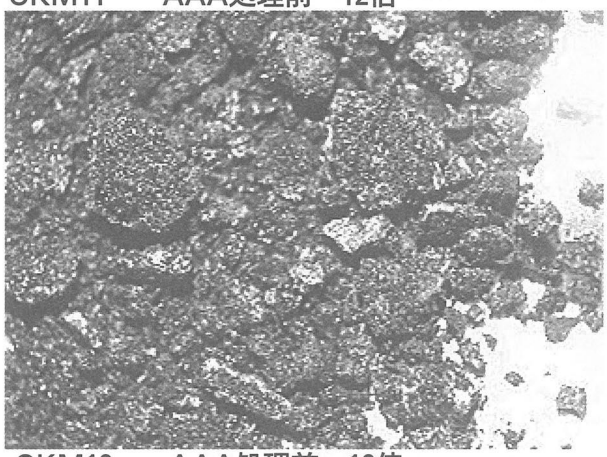
写真3　南方遺跡炭化物拡大写真



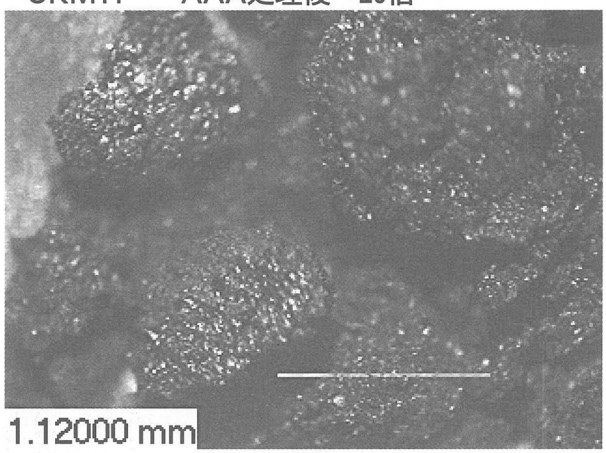
OKM11　　AAA処理前　12倍



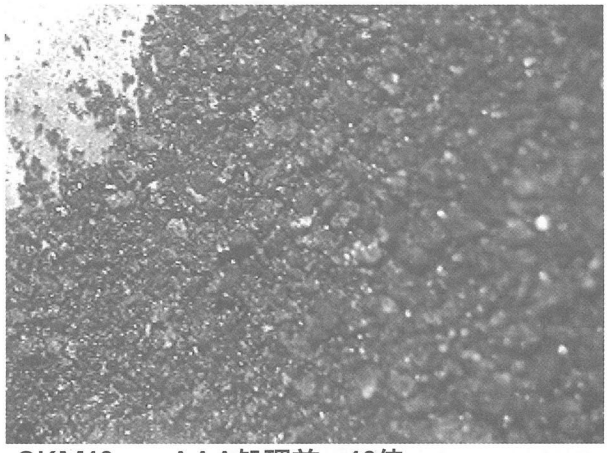
OKM11　　AAA処理後　20倍



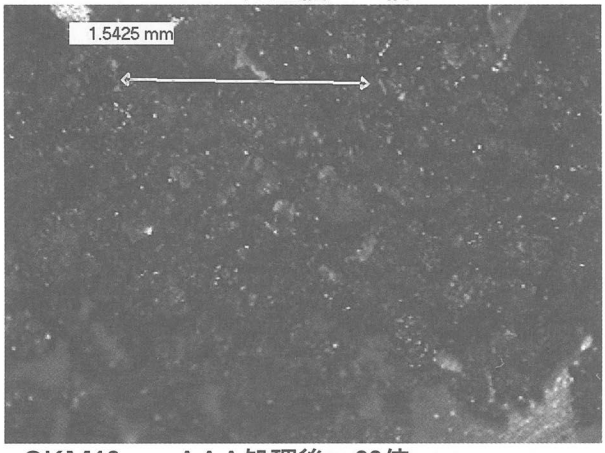
OKM12　　AAA処理前　12倍



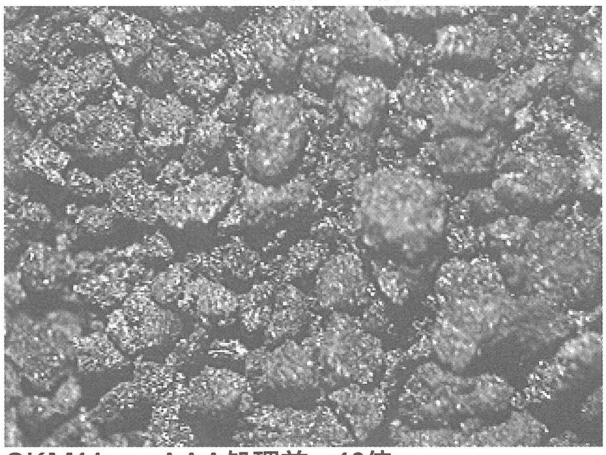
OKM12　　AAA処理後　25倍



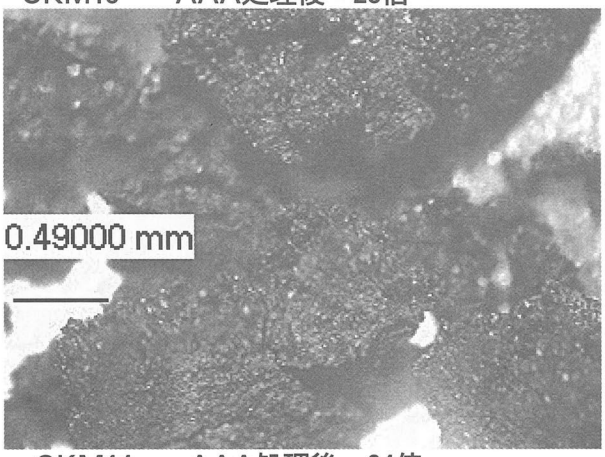
OKM13　　AAA処理前　12倍



OKM13　　AAA処理後　23倍

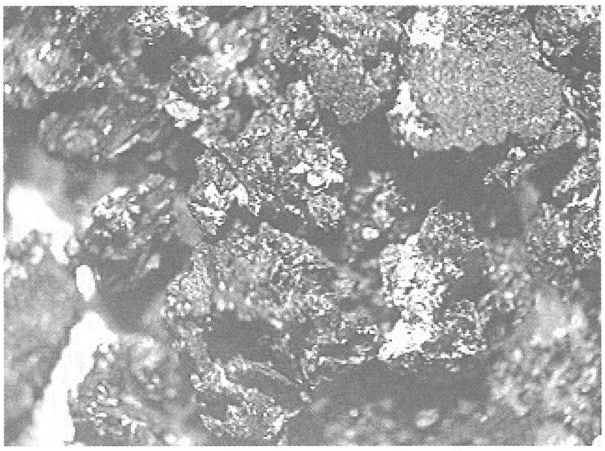


OKM14　　AAA処理前　12倍

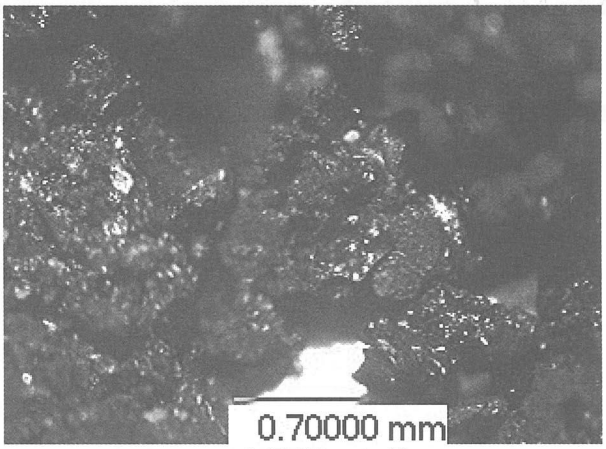


OKM14　　AAA処理後　24倍

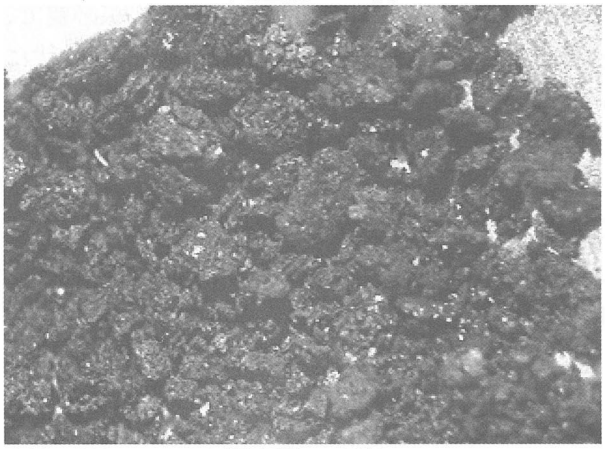
写真3　南方遺跡炭化物拡大写真



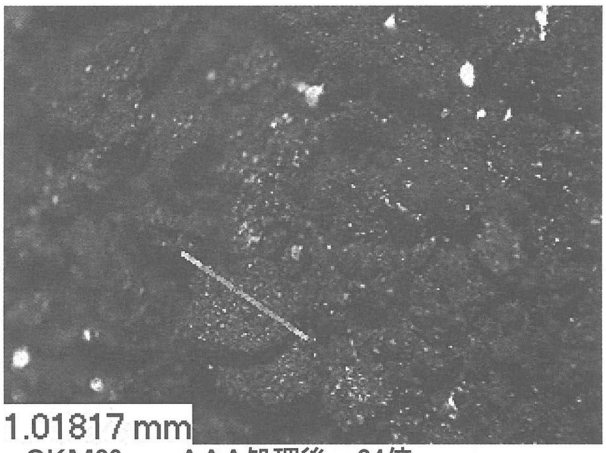
OKM17　　AAA処理前　12倍



OKM17　　AAA処理後　24倍



OKM20　　AAA処理前　12倍



OKM20　　AAA処理後　24倍

写真4　南方遺跡炭化物拡大写真

政田民俗資料館の収蔵資料２　門叩き

安倉清博

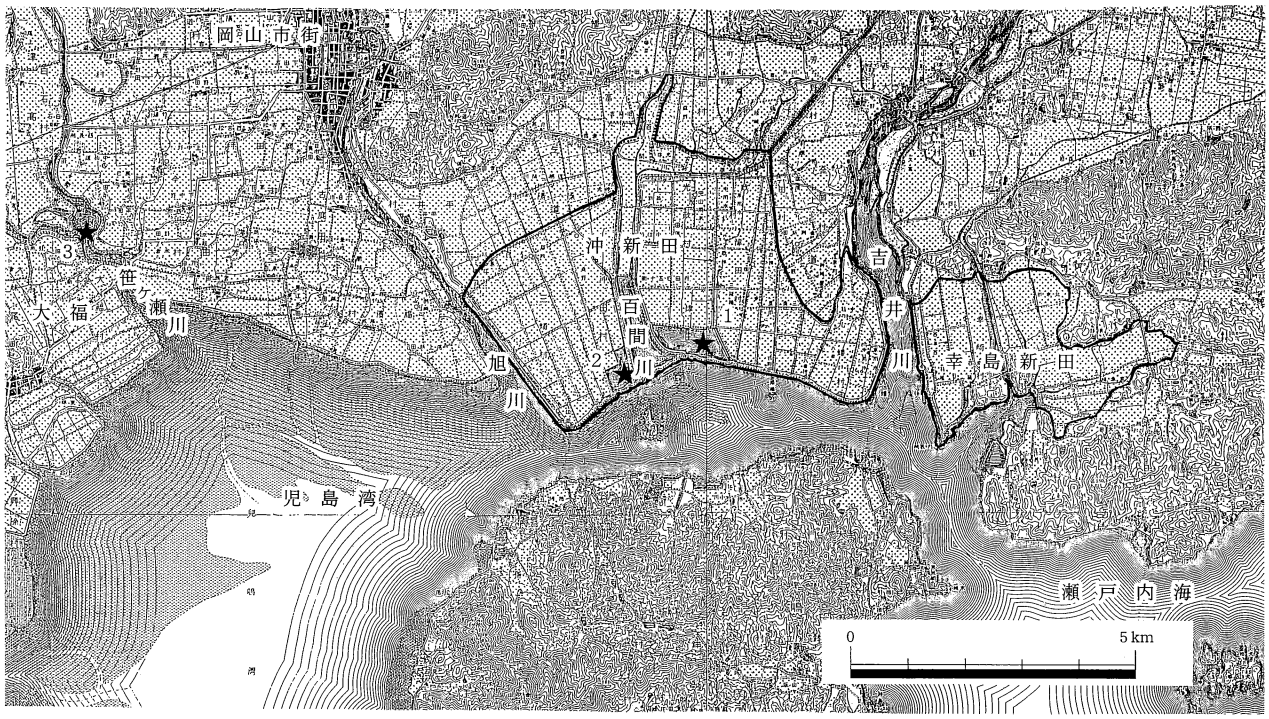
１　門叩(かどたたき)きとは

今回紹介する資料は、「門叩き」である。文字どおり、家の「門(かど)」(「前庭(かど)」とも）を叩くための道具で、政田民俗資料館の所在する江戸時代の干拓地・沖新田やその周辺の地域では、ごく普通にみられたものである[1]。

干拓地の農家では、里山や他の農村地同様に自宅のカドで農作物の乾燥や貯蔵作業を行い、特に秋の籾磨りや俵詰めなどは、カド全体を広く使用して多勢の人々が作業に従事した[2]。そうした作業を行う上で、カドを整備しておくことは、農家にとっても重要な仕事の一つであった。この整備とは、単にカドを広く使えるようにしておくのみでなく、カド全体が固く平らに均されていることが必要で、天候の多少の変動にも十分に耐え得るだけの固さが必要とされた。このため、機械動力のない時代には、毎年春先の田植え前の頃になると、新田のあちらこちらの農家から門叩きでカドを叩く「パタン、パタン」という音が聞こえ、この音は新田地域に住む人々にとって春の訪れを感じさせる風物詩であったという。

しかし沖新田は干拓地であるため全体に地盤が弱く、それは農家の屋敷地も例外ではなかった。農作業や生活のために毎日往き来するカドは、年々しだいに沈下しつづけ、もとはカド面と庭の飛び石上面との高さの差がほとんどなかったものが、３～４年もすると10cmくらいにもなっていた。このため各農家では３～４年おきにカドに新しく土を入れ、嵩上げをしたのち、この門叩きでカドを叩き締めていた。

農家では、カド同様に、屋敷内のドマ（土間(どま)）も人が往き来するため凸凹が多くなったため、ここにも土を入れ、叩き締めていた。これらから、門叩きはその用途によって「土間叩き」ともいわれ、人によっては同一の資料についてもその経験上、両者の名称が混同して用いられることが多くあるが、



第１図 児島湾と周辺の土地

１六番川　２四番川　３笹ヶ瀬川と白石橋付近
（明治30年測図、大日本帝国陸地測量部５万分の１地形図を縮小）

およそ屋外のカドで使用される、大形の叩きが「門叩き」で、屋内のドマで使用される小形のものが「土間叩き」と呼ばれる傾向が強い[3]。本稿においても、本来区分されるべきところもあると考えられるが、ここでは「門叩き」と統一して述べ、必要によって「土間叩き」と呼ぶこととしたい。

2　収蔵資料にみる門叩き

現在、政田民俗資料館では門叩きを5点収蔵する。このうち3点が沖新田で、残り2点が沖新田の東方、吉井川の対岸に位置する同時代の干拓地・幸島（こうじま）新田で使用されていたものである。

まず、これらの資料について概観しておきたい。なお、各部の呼称については、本稿では柄部、台部とし、台部の底面をタタキ面とする。また、門叩きを持った状態から、台部の前方を「前部」、手前を「後部」とし、左右をそれぞれ左側面、右側面としてみる。

①№378　分類番号A10-43　【岡山市指定重要有形民俗文化財】（第5図左）

沖新田地内、岡山市政津（まさつ）の岸本浩太郎氏より昭和44年頃提供・収蔵された資料で、材質は柄部がスギ、台部がマツ(?)である。法量は、タタキ面長57.3㎝、同幅18.7㎝、柄長約88.7㎝で、台部は平面長方形を呈する。台部の加工は、後に示す⑤と同様であるが、台上面の加工は鑿で、また側面は鋸挽きによる加工とみられる。

現状は、柄壺のクサビが失われており、台部と柄が固定されていない。台部は各面ともに使用による摩滅が激しく、また一部虫喰いによる欠損もあるが、使用状況を示す資料としては良好なものといえる。なお柄は取り替えられたものとみられ、台部にみられるほどの傷みはない。

台部上面の柄壺の前方には、角形の焼印「光政／米○（屋カ?）」があり、これは旧光政地区の米屋であった岸本氏宅を示すものである。

②№614　分類番号A10-44　【岡山市指定重要有形民俗文化財】（第5図中）

本資料も沖新田地内、岡山市政津の岡本武久氏より、昭和47年2月20日付で提供・収蔵されたものである。材質は柄部がカシ、台部がマツ(?)で、法量はタタキ面長60.4㎝、同幅（最大）16.1㎝、柄部長86.6㎝である。

柄は台部の柄壺内で固定され、クサビ等は用いられていない。現状は完全に固定されているため、固定する技法は不明である。台部は平面が長方形を基本とするが、先端に向かって細くなり、全体に直線的な「ハ」の字形を呈する。台部両側面には、割れ部分を固定した釘穴が10前後みられる。台部上面は、全面が鉋仕上げで、全・後面にはゆるい反りをつける。台部側面も鉋仕上げと思われる。

③№848-1　分類番号A10-65（第5図右）

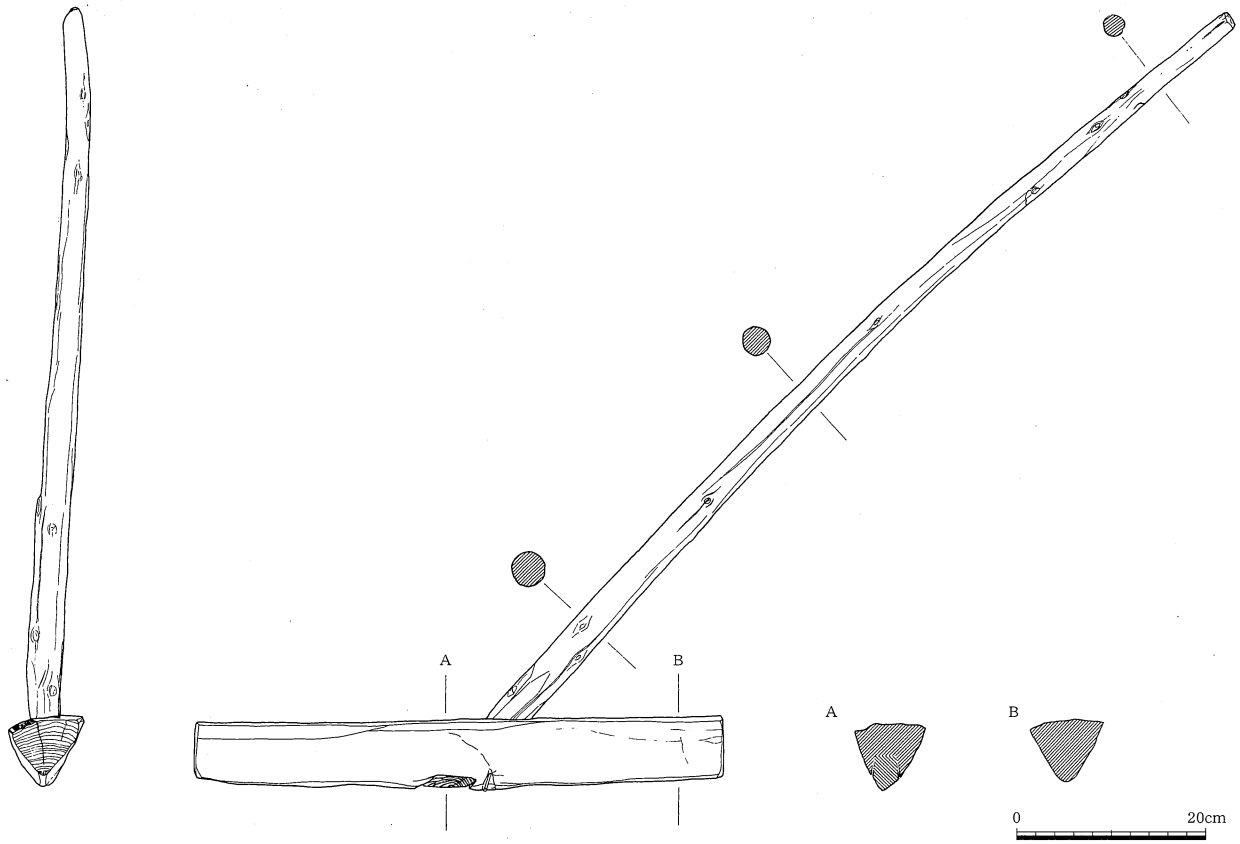
本資料は、幸島新田あるいはその周辺地域で使用されたとみられるもので、岡山市乙子（おとご）の上岡克成氏により提供されたものである[4]。

法量は、タタキ面長49.5㎝、同幅14.6㎝、柄部長94.1㎝、台部の平面形は長方形を呈し、材質は、柄部がカシ、台部がマツである。台部の加工は前後面は鋸挽き、上面と両側面が鉋仕上げで、いずれの面もきわめて直線的である。柄壺は②と同様、柄と台部がきっちりと固定されており、その固定の技法等については不明である。

④№848-2　分類番号A10-65（第2図、第4図左）

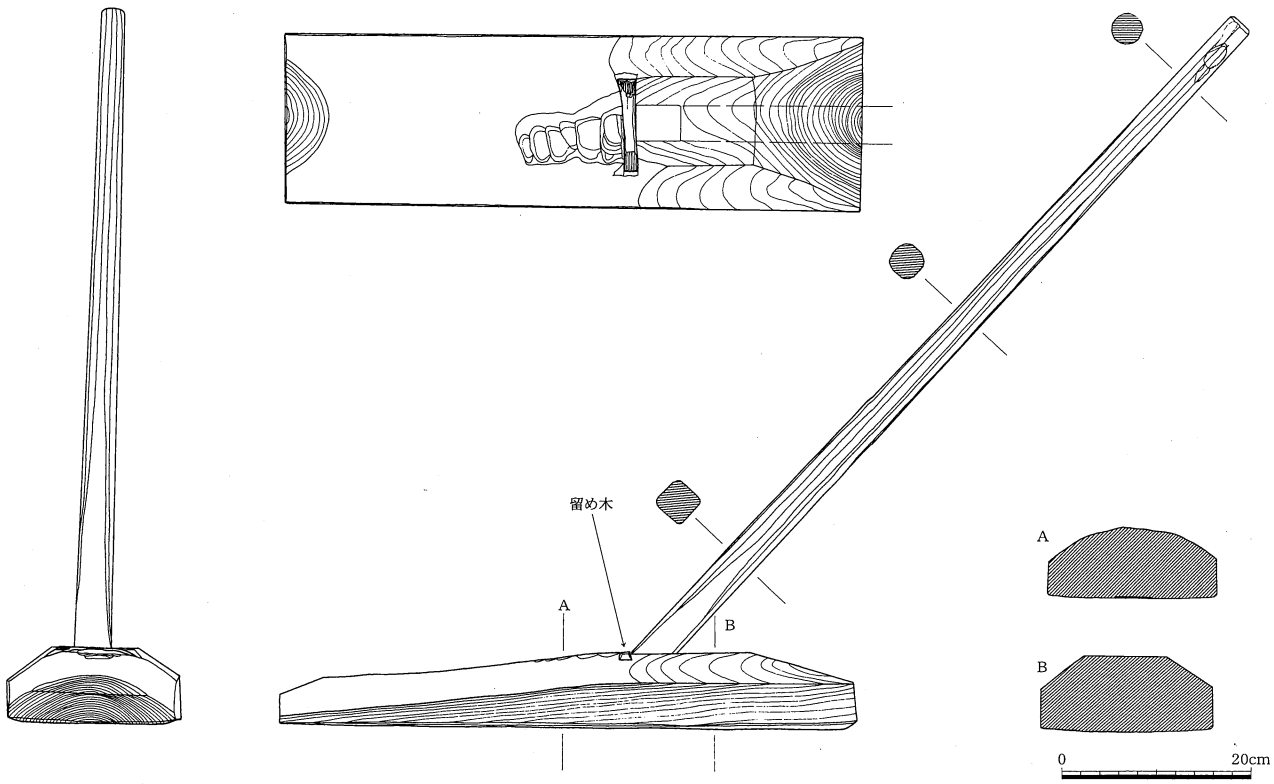
本資料も③と同じ上岡克成氏の提供で、幸島新田またはその周辺地域で使用されていたものと考えられる。材質は柄部・台部ともにマツである。

本品は、他の収蔵品にみられる台部の形状とは異なり、台部下面が逆三角形をしているため、上面を除く下2面がタタキ面となるものである。法量は、タタキ面長55.8㎝、同幅7～8㎝、柄長108.4㎝で、他の門叩きと比較してもタタキ面は小さい。製作は、台部に長方形の柄壺を斜めに孔け、そこ



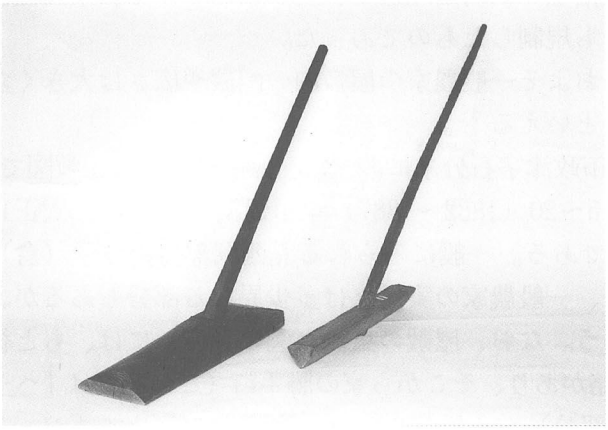
第２図 門叩き実測図（１）

資料は④№848-２、Ａ10-65



第３図 門叩き実測図（２）

資料は⑤№03-51、Ａ10-97



第４図 門叩き（１）
（左）④№848-2、Ａ10-65
（右）⑤№03-51、Ａ10-97

第４図 門叩き（２）
（左）①№378、Ａ10-43　（中）№614、Ａ10-44
（右）③№848-1、Ａ10-65

へ先を長方形に加工した柄を差し込んだもので、柄から出た柄壺の先端部は、タタキ面の形状に合わせて三角形に加工されている。柄を固定するためのクサビ等はみられない。台部上面には、柄を孔ける際の墨線（計画線）と、摩滅・欠損のため判読不能であるが、墨書が残る。

使用については、この形状の門叩きを用いた経験者が少ないものの、この形状あるいは、②資料のような、タタキ面の細いものは、カドやドマなどの隅を叩くとか、わずかばかりの補修の際に使用されたものといわれる。いずれにしても、この沖新田周辺では、あまり一般的な形状ではなかったようである。

⑤№03-51　分類番号Ａ10-97（第３図、第４図左）

本資料は沖新田地内、岡山市政津の次田弘氏により平成15年５月10日付で提供・収蔵されたものである。この資料は収集時、長屋２階の梁に上下逆さまの状態で掛けられており、しばらく使用された様子のないものであった。この資料は、大工の棟梁であった次田氏の祖父・勇氏（1891～1933）が製作したものといわれ、木目や柄部の加工など、じつによく計算された造りのものである。

法量は、タタキ面長61.2㎝、同幅18.0㎝、柄長93.2㎝で、材質は柄部・台部ともにマツ材である。柄と台部の接合は、現状は固定されているが、その状況から推測すると、台部へ斜めの長方形枘（ほぞ）穴を孔け柄壺とし、そこへ先端を長方形に加工した柄を差し込む。台部への留め方は、柄の長方形加工部分の上面１ヶ所に切込みを入れ、台部へ差し込んだのち、台部上面の柄壺の前部分に留め木をあて、その留め木を鉄釘にて打ち込んで留めたものと考えられ、 はこの留め木の部分をテコとしてわずかにガタガタとするが、上下動はなく、安定した接合となっている。

台部の加工は、樹皮の残る松材の形状を生かし、叩きとしてのバランスを保つよう、上面前方の一部と後方を削り取っている。この台部上面と両側面の加工は鉋を用いたもので、台部上面の枘前部の一部は鑿で削り取っている。台部前・後面は鋸引きで、タタキ面の加工は摩滅のため不明である。

３　「カド」と「門叩き」

（１）屋敷とカド

沖新田に所在する、特に戦前からの農家の屋敷地には、母屋、長屋、土蔵とともに、建物の南側に広大なカドが設けられている。

屋敷は、新田地全体に規則的に配置された用水路に沿って並び、この地域ではそれを単位として集落が構成される。集落は新田北部を中心につくられるが、これは干拓地であるため元の地形が南部にいくにつれて下がっており、昭和30年代に嵩上げ工事（埋め立て）の行われた現在でも、南部の大半

の土地は海抜０ｍ以下であるためと考えられる。干拓地の軟弱な地盤と、度重なる水害は、水田経営上の労働負担を増加させたばかりでなく、居住地をも規制したものであった。

さて、このように形成された沖新田の集落では、およそ一般農家の屋敷内の配置や広さは大きく変わらない。基本的に岡山平野にみられる定型のものといえる[5]。

ここで示す第８図は、沖新田のほぼ中央部、岡山市政津字石分木（いしぶんぎ）にあった、大工兼農家の屋敷図で、昭和初期に描かれたものである[6]。建物は、明治15～20（1882～1887）年頃建築の母屋と、大正11（1922）年の長屋、1929年に増築された母屋北部分である。一般にみられる北西隅部分の土蔵（倉）は作られておらず、また長屋も大工の作業場であり、一般農家の実情とは多少異なる部分もあるが、およそこの地域の基本的な屋敷を示すものといえよう。なお、屋敷の東側（図の下側）には、もと約半間（約90㎝）の通路をはさんで、幅約５ｍの用水路があり、そこから家の勝手口（この家では「ヘーノウチ（塀の内）」と呼ばれる。図では「中庭」の部分）から風呂や台所（両者とあわせて「ショタイバ（所帯場）」と呼ばれる。図では「浴槽」「浴室」「土間」の部分）へ水を汲み運んでいた[7]。

カドは屋敷の南側に広くとられ、筵では約80枚は拡げることができるほどのものである。新田地域は田の１枚あたりの面積も広いため、農家ではカドを広くしておく必要があった。

（２）カドを叩く

毎年春、田植え前の農閑期である４月頃になると、カドの凹んだ部分などを補修するために土を入れ、叩き締めていた。カドに土を入れ叩くことは、干拓地のみならず各地で行われており、春だけでなく秋の収穫前に行われていた所もあった[8]。

沖新田では、毎年カドも叩いて均していたものの、３～４年経つとカドが約10㎝沈下していたことから、数年おきにカド全体に新しい土を入れる必要があった[9]。

カドに入れる土は、粘りがあって石や砂の混じらない、よく締まる土が良いものとされた。沖新田の中央、百間川（ひゃっけんがわ）より東手では主に六番川（ろくばんがわ）の川泥が[10]、西手では四番川（しばんがわ）のそれが用いられることが多かったが[11]、より良質な、乾燥してもホコリになりにくい土を求める場合は旧児島湾北部、児島湾に入り込む笹ヶ瀬川（ささがせがわ）をやや上った現在の岡山市大福（おおふく）、白石橋（しらいしばし）あたりの川泥を利用していた[12]。これらの土の運搬は、六番川・四番川の土は水辺に溜まったものを中心に陸上げし、生乾きの状態で小舟に積み込んで用水路を上り、各家のカドへ入れており、また笹ヶ瀬川からのものは、レンガ２～３個分ほどの四角に切られた粘土塊を大きめの舟に載せて児島湾を下り、沖新田南端の堤防付近で小舟に積み替え、水門を越えて用水路を上り、各家のカドへ入れていた[13]。いずれも専門の労働者が採取・運搬をし、賃金を得ていた。

各屋敷に運ばれた土は、塊は砕かれて、水と石灰を混ぜてカドに敷かれ、鋤簾で伸ばされ、数日後少し乾燥してから門叩きで叩いていた。急激な乾燥をすると土が割れるため、伸ばした土の上に筵を敷き、ゆっくりと乾燥させながら筵の上から門叩きで叩き、やがて筵を取ってから直接土を叩き締めていた家もある[10]。

第６図　沖新田の農家の屋敷風景

カドで筵干しをしている様子がみられる。
（昭和９年頃。政田民俗資料館所蔵写真）

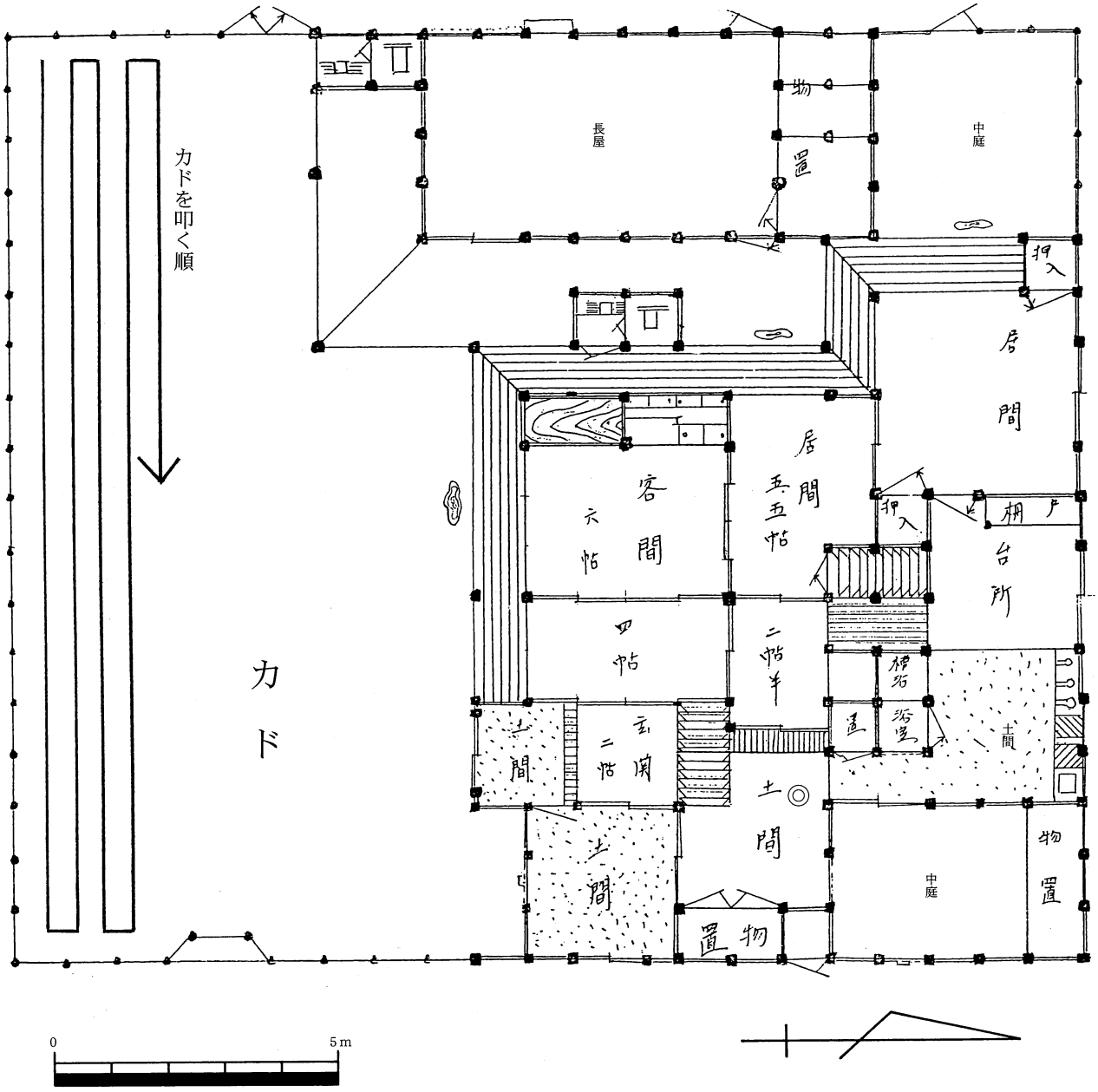
第７図　沖新田での籾磨り、俵詰作業風景

カドでは各家でこのような作業がされていた。
（『記念写真帖』上道津田村、昭和16年刊より）

叩き方は、門叩きをまっすぐに振り下ろすことで土を締めていくが、門叩きの角が土に当たると、その部分が凹むので、タタキ面全体で土を打つようにする。このため、柄の角度や長さ、曲がり方、あるいはタタキ面の広さや台部の大きさ・重さなど、使う人によって微妙に異なるものである。叩く時には特に掛け声もなく、一人で黙々と叩く。叩く順は、カドの面に合わせて左から右へ、右から左へと、隙間なく重ねあわせるように順に叩いていった。そのため、カド全体を仕上げるのに大人一日がかりの仕事で、広いカドでは数日かかっていたという。なお、カドの掃除は、先のやわらかい竹箒か、箒草を用いて傷めないように気を使っていた[13]。

（3）「カド」と「ドマ」

ここで、門叩きと同様に使用される土間叩きについても少しふれておきたい。先にも述べたように、



第8図 沖新田の屋敷図（昭和初期）

右が北。図の下側(方位は東)に、細い通路をはさんで用水路が流れる。図中◎は土層断面調査地点。

（原図を一部改変。次田弘氏提供）

カドとドマでは使用する叩きの大きさなどが多少異なるとされるが、基本的に同様のものである。

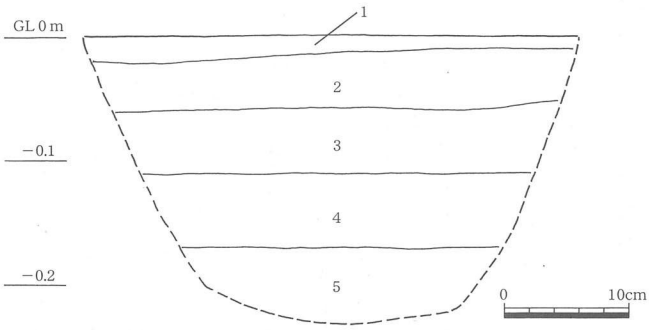
ドマは使用していくと、入れた土（粘土）の固さの違いで凸凹が生じ、これをこの地域では「こぶ」と呼ぶ。そして梅雨時期には用水の水位が上昇するため、よく濡れて、ツルンと滑っていた。このため、春先に凸凹の上部を削り、カドと同じ土を入れて叩いた。入れる土の量はおよそ１寸から５㎝程度で、カドほど厚くは入れなかった。また、農家のドマには「ウシマヤ（牛馬屋）」があったので、叩きで土を強く叩くと、その音で牛馬が驚くため、ほどほどの強さで叩いていたが、それでもドマはベトベトになることはなかったという[13]。

なお、この干拓地のドマの構造を示しておきたい。図示するのは、先の屋敷図の母屋のドマの土層断面図で、東側に３部屋つづくドマの中央の部屋の中心部である。

屋敷地は、現地表面がおよそ海抜0.1ｍでドマもほぼ同レベルである。ドマは地表面から約２㎝に固く締まった粘質土、その下約10㎝には粘質をもった固く締まった微砂が２層あり、その下に約６㎝の丸石のレキ層があるが、それより下は新田地の基盤層とみられる、湿気を多く含むぐすぐすの砂質である。すなわち現表面から約18㎝下は旧干拓面で、もとの海底を示すものと考えられる。建物については、このようにレキを敷いた上に粘質土を固め、土間部分には粘質土を、建物基礎部分には柱の下にやや平坦な形の台石を置くことで、沈下と湿気を防ぐ工夫がなされている[14]。

第９図　ドマの断面写真

第８図◎印の地点。



第１０図　ドマの断面実測図

層序　1　暗黒灰褐色粘質微砂土
（固いが崩すと砂質。川泥様で、石灰含む?）
2　暗茶褐色粘質微砂土
（かなり固い砂質土。石灰含む?）
3　茶褐色粘質微砂土
（しまりはかなり強い。石灰含む?）
4　レキ層
（１～３㎝程度の灰黒色の丸石を多量に含む。粘質弱く、しまりはない。湿気多）
5　暗灰茶褐色粘質微砂
（砂質で、かなりやわらかく、指でこすり取ることができる。湿気多。旧干拓面か?）

（４）カドの筵干し

出来上がったカドでは、初夏の麦秋の頃、麦を扱いだものを筵干ししていた。また秋の稲の刈り入れの後、籾を干す時も筵干しをしていた。

筵はカドに直接敷くのではなく、この地域では小麦藁で作った菰を敷いた上に筵を敷いて湿気を極力防いだ。小麦藁は稲藁に比べ湿気をあまり吸収せず、筵干しを行うには適していた。

筵の上に置かれた籾は、籾さぐり（柄振（えぶり））で均され（「籾をさぐる」という）、数日間天日乾燥された。この柄振で均す際、カドに凸凹があると均一に乾燥しなかったり、均しにくかったという[13]。

４　おわりに

門叩きについて述べてきた。資料自体は非常に単純な材料・構造のものであるが、それを扱い、また形状や材料を工夫し使い易く改良していくことは、干拓地に暮らす人々にとって田を作ることと同じくらいに必要な技術であり、知恵であった。

こうして整備されたカドは、農作物を扱う大切な場所であり、莚干しなどの作業に